

(様式 4)

一般社団法人 薬学教育評価機構

(調 書)

基礎資料（薬学教育評価用）

(2023年 5 月 1 日現在)

神戸学院大学 薬学部

薬学教育評価 基礎資料

(目次)

	資料概要	項目	ページ
基礎資料 1	カリキュラム・ツリー	3	1
基礎資料 2	平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラムのSB0sを実施する科目	3	13
基礎資料 3	学生の修学状況 3-1 評価実施年度における学年別在籍状況 3-2 評価実施年度の直近5年間ににおける6年制学科の学年別進級状況 3-3 評価実施年度の直近5年間ににおける学士課程修了(卒業)状況の実態 3-4 直近6年間の定員充足状況と編入学者の動向	3	61
基礎資料 4	学生受入れ状況 (入学試験種類別)	4	65
基礎資料 5	教員・職員の数	5	66
基礎資料 6	専任教員の年齢構成・男女構成	5	67
基礎資料 7	教員の教育担当状況(担当する授業科目と担当時間)	5	68
基礎資料 8	卒業研究の学生配属状況と研究室の広さ	7	81
基礎資料 9	専任教員の教育および研究活動の業績	5	82
基礎資料10	学生の健康管理	6	167
基礎資料11	薬学科の教育に使用する施設の状況 11-1 薬学科の教育に使用する施設の状況 11-2 卒業研究などに使用する施設	7	168
基礎資料12	学生閲覧室等の規模	7	170
基礎資料13	図書、資料の所蔵数および受け入れ状況	7	171

[注] ページ番号は、資料の枚数に応じて変更してください。

履修系統図（カリキュラムツリー）

2019年度以降入学生カリキュラム

神戸学院大学薬学部

2023年4月1日～
(2023年3月10日教授会承認)

ディプロマポリシーとコンピテンシーとの関連

(2023年度以降入学生)

●：関連

			コンピテンシー					
			(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)
			教養と倫理観	薬学関連領域 における知 識・技能	薬物治療の専 門家としての 実践能力	コミュニケー ション能力	地域における 医療人として の活動	薬学関連領域 における探 求・解決能力
ディ プロ マ ポ リ シ ー	1)	『医療人としての資質』 医療人として、豊かな人間性と高い倫理観、広い教養をもち、人の命と健康的な生活を守る使命感、責任感を有している。	●			●		
	2)	『コミュニケーション能力と連携能力』 医療人として、患者の背景を理解し、多職種との相互理解を深め、積極的に連携・協力し、薬剤師に求められる行動を実践する能力を有している。	●		●	●		
	3)	『科学の基礎知識』 科学者として、生体及び環境に対する医薬品・化学物質等の影響を理解するために必要な科学に関する基本的な知識と技能を有している。		●				
	4)	『薬学の専門知識』 薬の専門家として、医薬品及び薬物治療についての専門的な知識を有している。		●	●			
	5)	『保健衛生の専門知識・実践能力』 医療の担い手として、人々の健康増進、公衆衛生の向上に貢献するための知識と能力を有している。		●			●	
	6)	『薬物治療の実践能力』 薬剤師として、患者状態の把握、必要な情報収集と活用、安全で有効な薬物療法の実施と評価等の薬学的管理を実践する能力を有している。	●		●	●	●	
	7)	『医療における課題対応能力』 医療人として、医療を取り巻く課題に気づき、それらを考察し、課題解決に貢献できる能力を有している。					●	●
	8)	『薬学における探求能力』 薬の専門家として、進歩する医療に対して常に関心や学習意欲をもち、生涯にわたり自己研鑽に励む態度を有している。						●

各科目とコンピテンシーの関係については、コンピテンシーマトリックスに記載されており、どのような知識・技能・態度が修得できたかを知ることが出来る。
また、修得した知識・技能・態度（コンピテンシー）と、ディプロマポリシーの関係については上図の通りである。

ディプロマポリシーとコンピテンシーとの関連

(2022年度以前入学生)

●：関連

			コンピテンシー					
			(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)
			教養と倫理観	薬学関連領域 における知 識・技能	薬物治療の専 門家としての 実践能力	コミュニケー ション能力	地域における 医療人として の活動	薬学関連領域 における探 求・解決能力
ディ プ ロ マ ポ リ シ ー	1)	医療人として、豊かな人間性と高い倫理観、広い教養をもち、人の命と健康的な生活を守る使命感、責任感を有している。	●			●		
	2)	科学者として、医薬品を含む化学物質等の特性や生体・環境への作用と影響、及び人体の構造と機能、疾病の成り立ちを理解するのに必要な科学に関する基本的な知識を有している。		●				
	3)	薬の専門家として、医薬品及び薬物治療についての専門的な知識を有している。		●	●			
	4)	医療人として、患者の背景を理解し、多職種との相互理解を深め、積極的に連携・協力し、薬剤師に求められる行動を実践する能力を有している。	●		●	●		
	5)	薬剤師として、患者状態の把握、必要な情報収集と活用、安全で有効な薬物療法の実施と評価等の薬学的管理を実践する能力を有している。	●		●	●	●	
	6)	医療の担い手として、人々の健康増進、公衆衛生の向上に貢献する能力を有している。		●			●	
	7)	医療人として、医療を取り巻く課題に気づき、それらを考察し、課題解決に貢献できる能力を有している。					●	●
	8)	薬剤師として、進歩する医療に対して常に関心や学習意欲をもち、生涯にわたり自己研鑽に励む態度を有している。						●

各科目とコンピテンシーの関係については、コンピテンシーマトリックスに記載されており、どのような知識・技能・態度が修得できたかを知ることが出来る。
また、修得した知識・技能・態度（コンピテンシー）と、ディプロマポリシーの関係については上図の通りである。

薬学部 履修系統図(カリキュラムツリー)

1. 教養と倫理観

広い教養を身につけ、生命の尊厳、人権を尊重し、医療倫理・法令等を遵守した活動ができる。

ストーン2

ストーン3

ストーン4

アドバンスト科目

6
年次

5
年次

4
年次

3
年次

2
年次

1
年次

海外の薬剤師に学ぶⅠ・Ⅱ・Ⅲ

原著論文

薬学英語Ⅱ

薬学英語Ⅰ

共通教育科目

共通教育科目

薬局実習・病院実習

アドバンスト科目*

事前実習

実習Ⅳ

薬事関連法規

社会の中の薬学

コミュニケーション

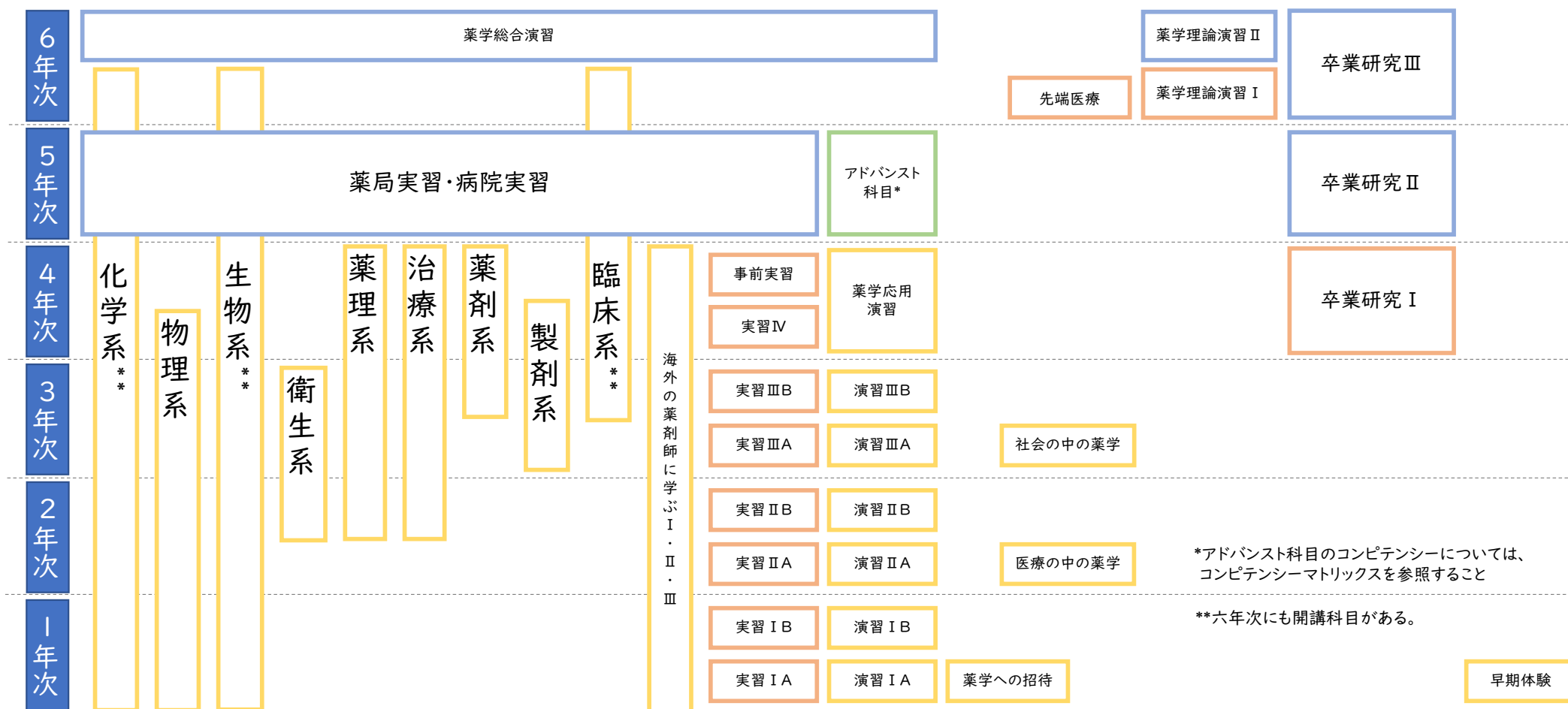
医療の中の薬学

ヒューマニズム

*アドバンスト科目のコンピテンシーについては、
コンピテンシーマトリックスを参照すること

2. 薬学関連領域における知識・技能

薬学の基盤科目の内容を理解し、医療の現場等において活用できる知識、技能を有している。



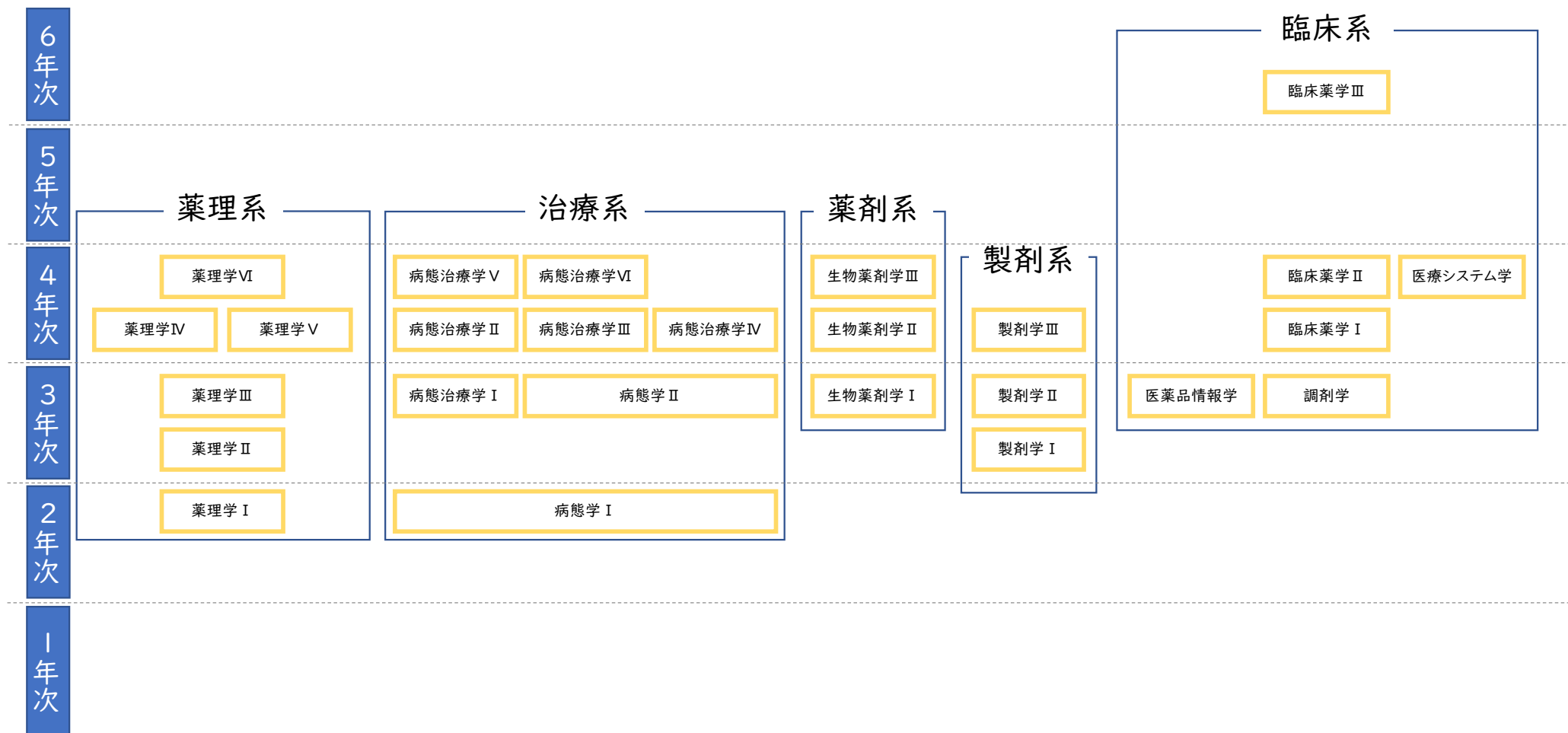
2. 薬学関連領域における知識・技能

薬学の基盤科目の内容を理解し、医療の現場等において活用できる知識、技能を有している。

	化学系	物理系	生物系	衛生系
6年次	有機反応論Ⅲ			
5年次				
4年次	有機反応論Ⅱ 漢方医薬学	薬品分析学Ⅳ		
3年次	有機反応論Ⅰ 有機化学Ⅳ 医薬品化学Ⅱ 有機構造解析	生薬学	微生物学 免疫学	衛生薬学Ⅴ 衛生薬学Ⅳ 衛生薬学Ⅲ
2年次	有機化学Ⅲ 有機化学Ⅱ 医薬品化学Ⅰ	薬品分析学Ⅲ 薬品分析学Ⅱ 物理化学Ⅳ 物理化学Ⅲ	細胞の分子生物学Ⅲ 生化学Ⅱ 細胞の分子生物学Ⅱ	衛生薬学Ⅰ 衛生薬学Ⅱ
1年次	有機化学Ⅰ 基礎化学	薬品分析学Ⅰ 基礎物理学 物理化学Ⅱ 物理化学Ⅰ	生化学Ⅰ 細胞の分子生物学Ⅰ 基礎生物学 機能形態学	

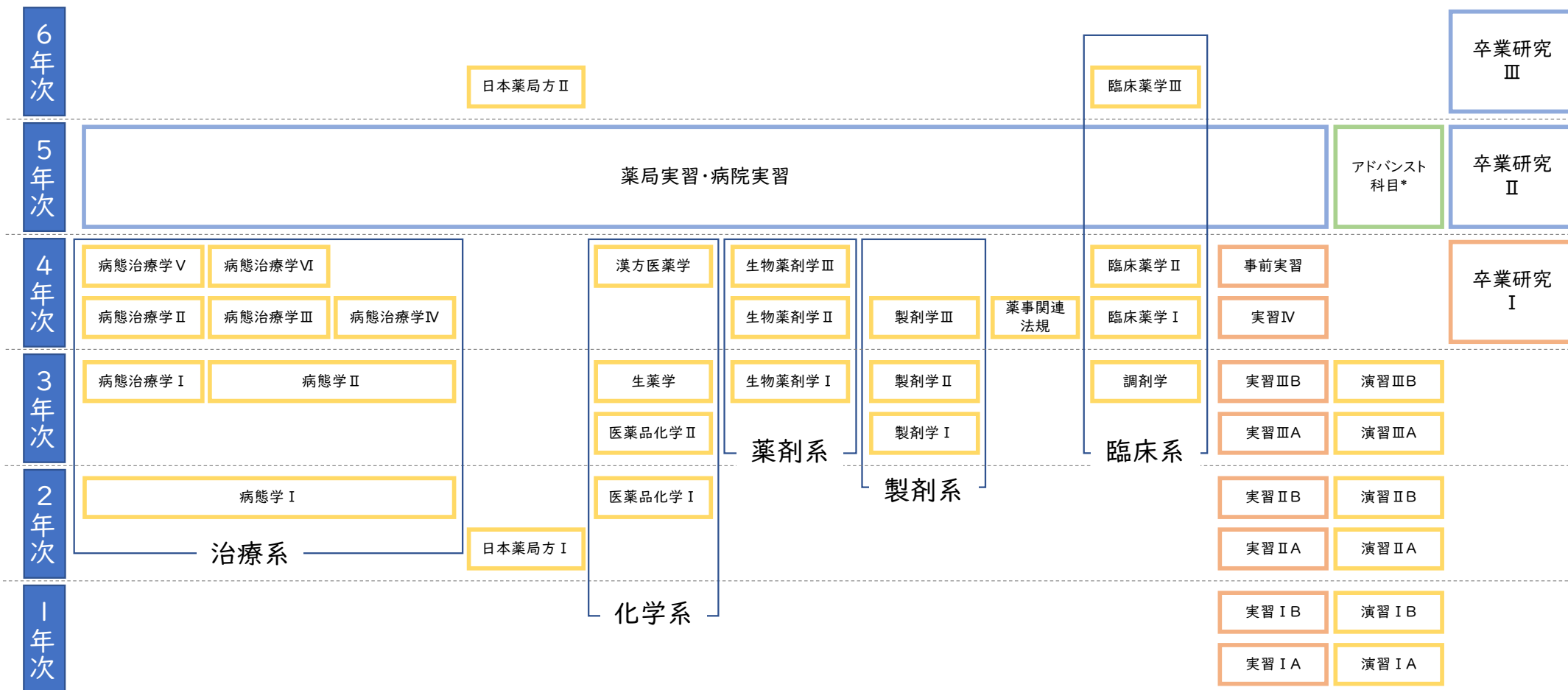
2. 薬学関連領域における知識・技能

薬学の基盤科目の内容を理解し、医療の現場等において活用できる知識、技能を有している。



3. 薬物治療の専門家としての実践能力

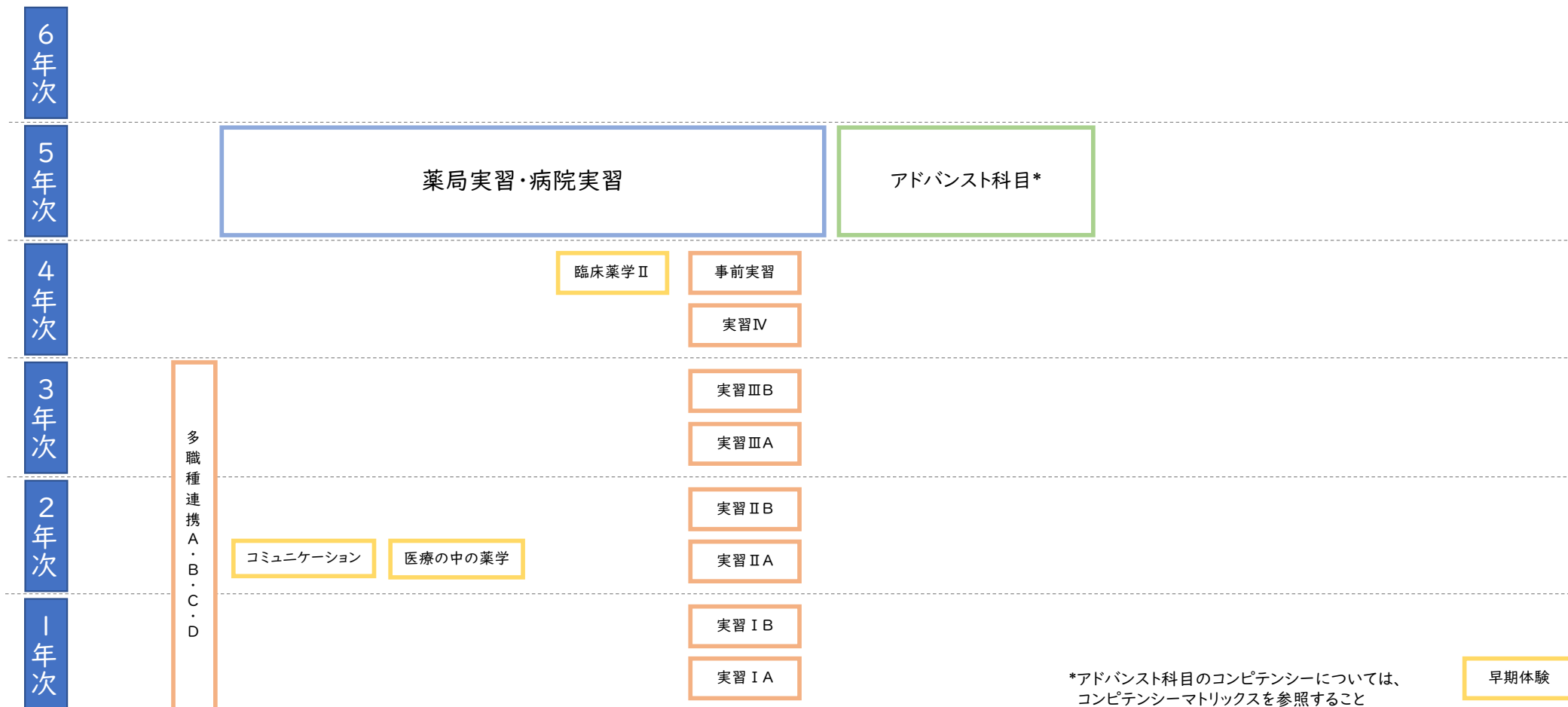
薬剤師として患者の背景を理解した上で、多職種、同僚と協力し、科学的根拠に基づいた適切な薬物治療を提供できる。



*アドバンスト科目のコンピテンシーについては、コンピテンシーマトリックスを参照すること

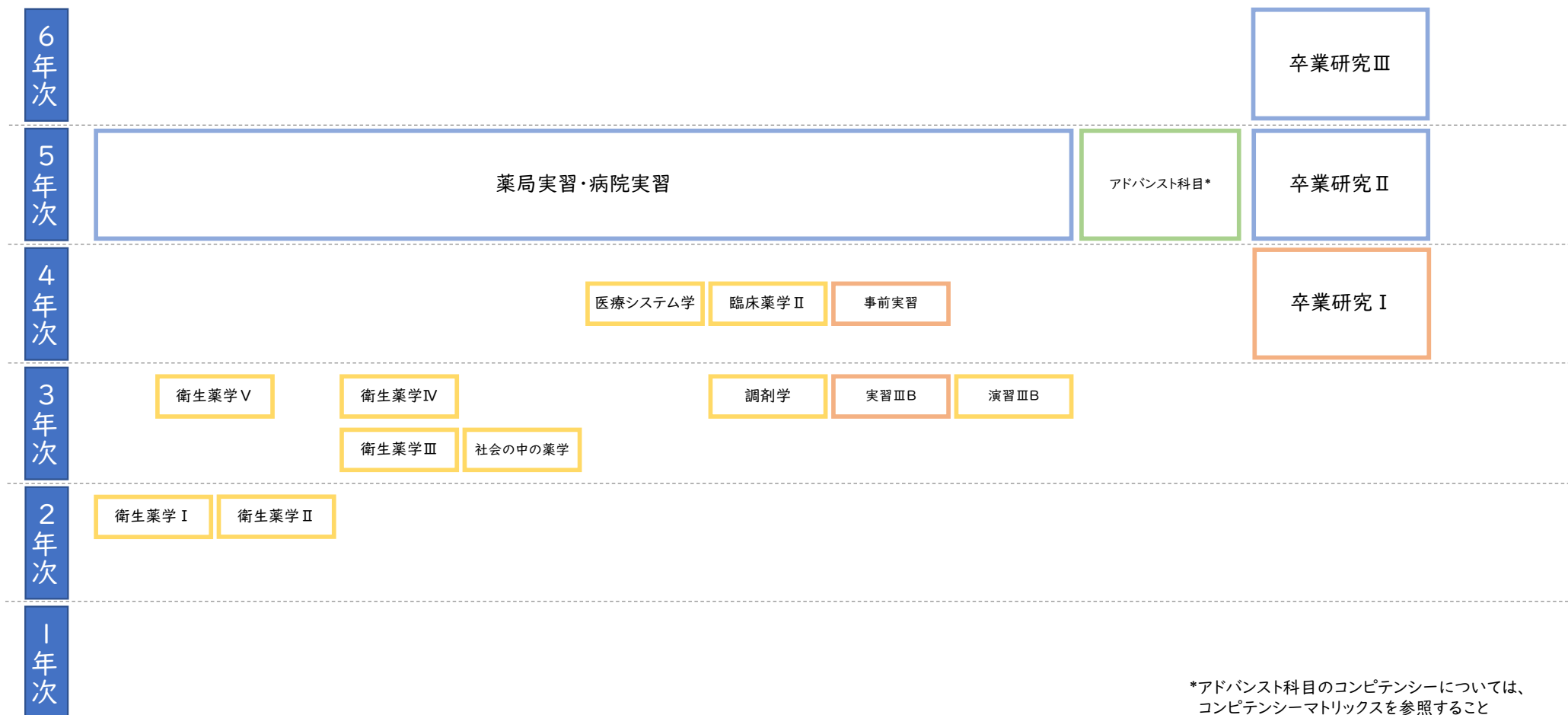
4. コミュニケーション能力

医療人として、患者、患者の家族の背景を理解し、傾聴、共感ができる。また、多職種、同僚を互いに尊重し、薬の専門家として適切な情報を提供することができる。



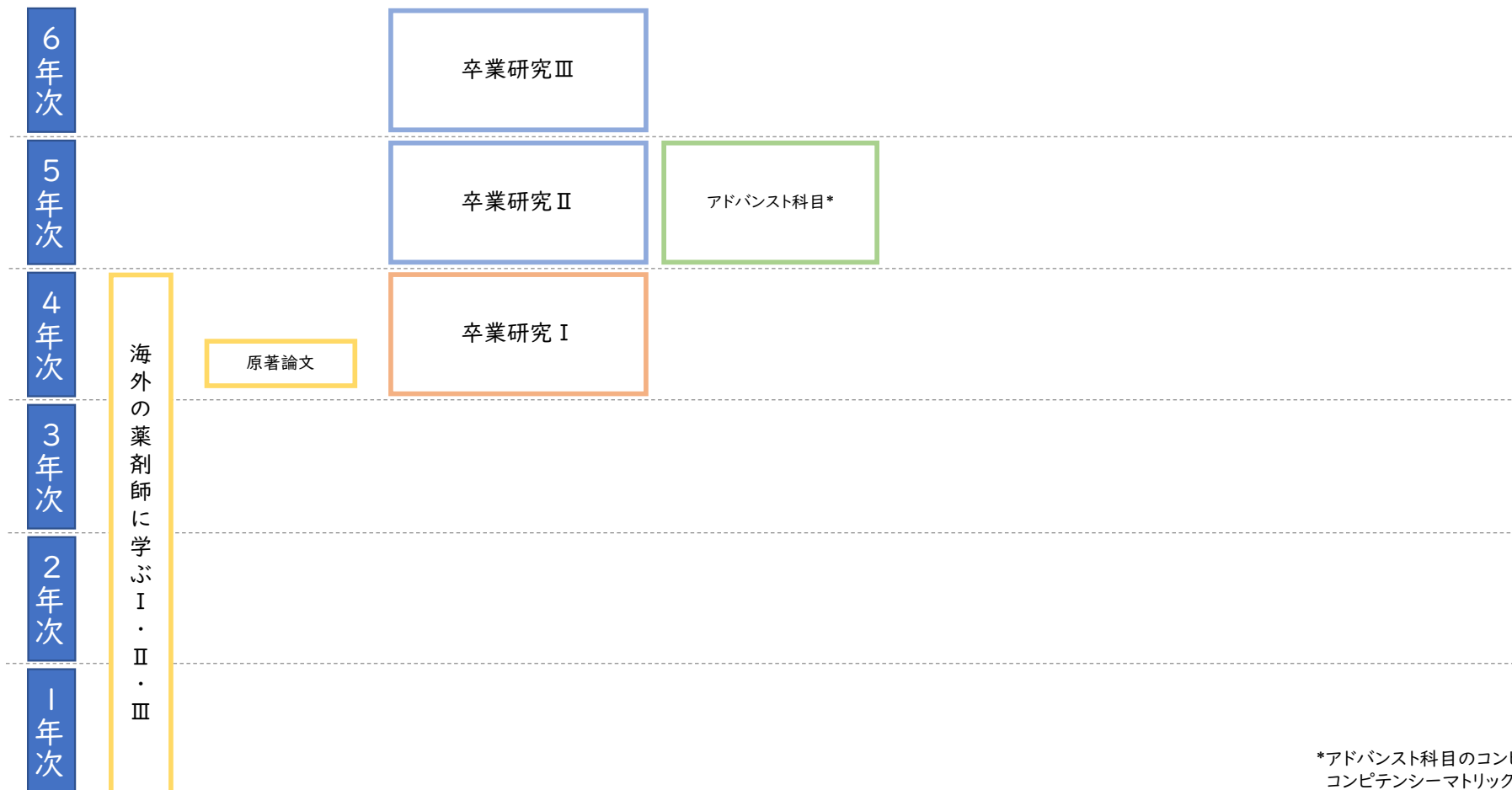
5. 地域における医療人としての活動

医療・福祉にかかわる社会的背景を把握し、地域の医療・保健・福祉・介護・行政・食品などの分野を理解し、地域の人々の健康増進、公衆衛生の向上および疾病の予防に関わる責任感と態度を有している。

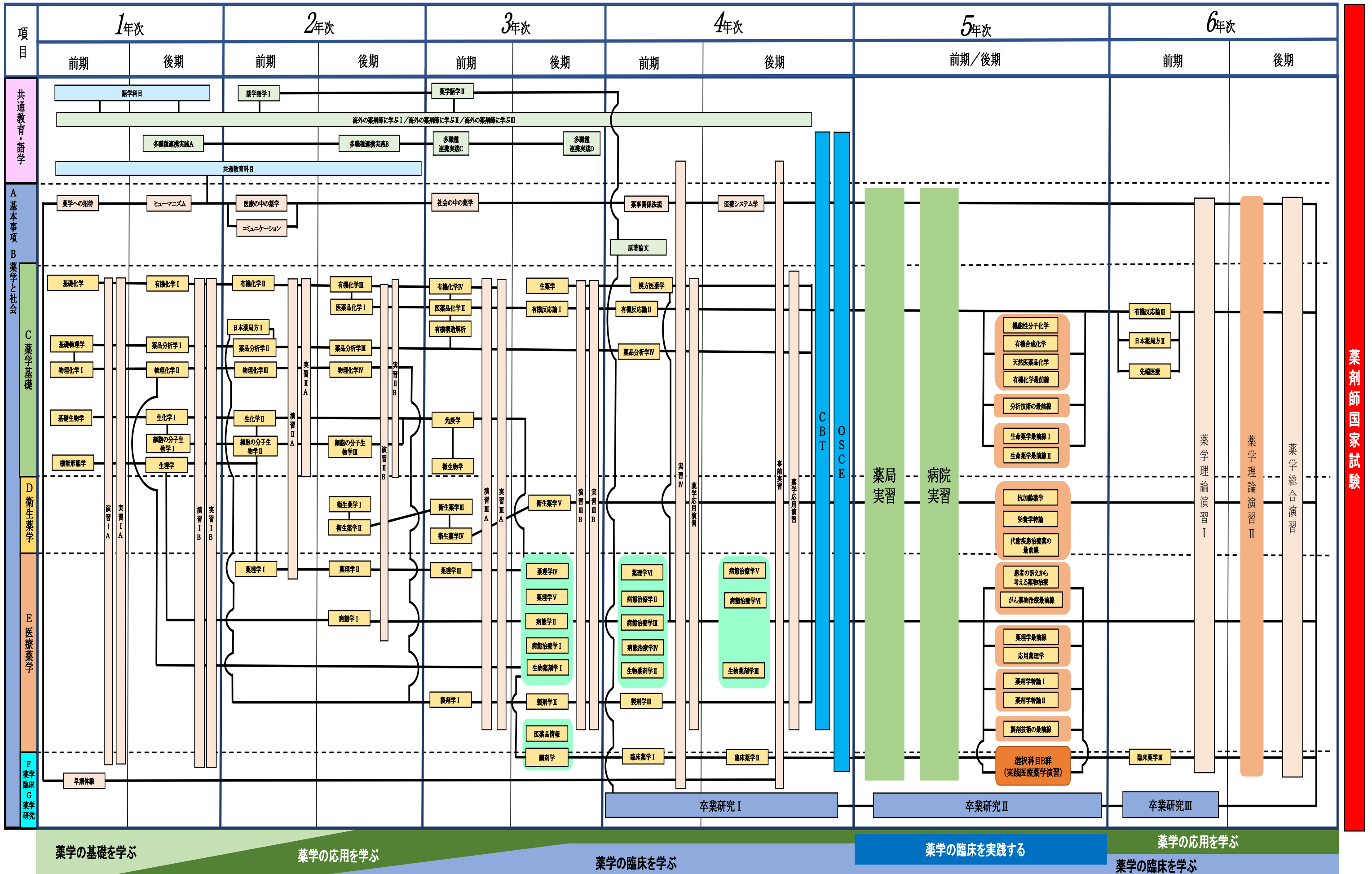


6. 薬学関連領域における探求・解決能力

医療や公衆衛生の向上のために課題を自ら探求し、問題解決に導く方法を提示することができる。また、自己研鑽に努め、学習者たる環境を構築することができる。



*アドバンスト科目のコンピテンシーについては、コンピテンシーマトリックスを参照すること



（基礎資料２）平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラムのＳＢＯsを実施する科目

- [注] １ 平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラムのＳＢＯsに該当する内容の必修科目名を（シラバスの名称、選択科目の場合（選）をつける）実施学年の欄に記入してください。
 ２ 同じ科目名が連続する場合はセルを結合して記入することもできます。

注）１～５年次生：2019年度以降入学生カリキュラム（19カリ）、６年次生：2015～2018年度入学生カリキュラム（15カリ）

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（ＳＢＯs）	該 当 科 目					
	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
A 基本事項						
（１）薬剤師の使命						
【①医療人として】						
１）常に患者・生活者の視点に立ち、医療の担い手としてふさわしい態度で行動する。（態度）		医療の中の薬学		実習Ⅳ、 事前実習	セルフメディケーショ ン	
２）患者・生活者の健康の回復と維持に積極的に貢献することへの責任感を持つ。（態度）	ヒューマニズム					
３）チーム医療や地域保健・医療・福祉を担う一員としての責任を自覚し行動する。（態度）	薬学への招待	医療の中の薬学				
４）患者・患者家族・生活者が求める医療人について、自らの考えを述べる。（知識・態度）						
５）生と死を通して、生きる意味や役割について、自らの考えを述べる。（知識・態度）	ヒューマニズム				がんと緩和医療薬学Ⅰ、 がんと緩和医療薬学Ⅱ	
６）一人の人間として、自分が生きている意味や役割を問い直し、自らの考えを述べる。（知識・態度）						
７）様々な死生観・価値観・信条等を受容することの重要性について、自らの言葉で説明する。（知識・態度）	ヒューマニズム					
【②薬剤師が果たすべき役割】						
１）患者・生活者のために薬剤師が果たすべき役割を自覚する。（態度）	早期体験、 薬学への招待	医療の中の薬学			セルフメディケーショ ン	
２）薬剤師の活動分野（医療機関、薬局、製薬企業、衛生行政等）と社会における役割について説明できる。			社会の中の薬学			高齢者介護にかかわる
３）医薬品の適正使用における薬剤師の役割とファーマシューティカルケアについて説明できる。						
４）医薬品の効果が確率論的であることを説明できる。	早期体験					
５）医薬品の創製（研究開発、生産等）における薬剤師の役割について説明できる。	早期体験、 薬学への招待	社会の中の薬学				社会薬学複合科目Ⅱ、 卒業研究Ⅲ
６）健康管理、疾病予防、セルフメディケーション及び公衆衛生における薬剤師の役割について説明できる。	早期体験、 薬学への招待、 ヒューマニズム				セルフメディケーショ ン	高齢者介護にかかわる
７）薬物乱用防止、自殺防止における薬剤師の役割について説明できる。						
８）現代社会が抱える課題（少子・超高齢社会等）に対して、薬剤師が果たすべき役割を提案する。（知識・態度）	ヒューマニズム					
【③患者安全と薬害の防止】						
１）医薬品のリスクを認識し、患者を守る責任と義務を自覚する。（態度）	薬学への招待、 ヒューマニズム	医療の中の薬学	医薬品化学Ⅱ、 社会の中の薬学			
２）WHOによる患者安全の考え方について概説できる。	ヒューマニズム			実習Ⅳ、 事前実習、		
３）医療に関するリスクマネジメントにおける薬剤師の責任と義務を説明できる。	ヒューマニズム	医療の中の薬学	社会の中の薬学			
４）医薬品が関わる代表的な医療過誤やインシデントの事例を列挙し、その原因と防止策を説明できる。						
５）重篤な副作用の例について、患者や家族の苦痛を理解し、これらを回避するための手段を討議する。（知識・態度）						
６）代表的な薬害の例（サリドマイド、スモン、非加熱血液製剤、ソリブジン等）について、その原因と社会的背景及びその後の対応を説明できる。	ヒューマニズム		医薬品化学Ⅱ	薬事関連法規		社会薬学複合科目Ⅱ、 高齢者介護にかかわる
７）代表的な薬害について、患者や家族の苦痛を理解し、これらを回避するための手段を討議する。（知識・態度）			社会の中の薬学			

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該 当 科 目					
	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
【④薬学の歴史と未来】						
1）薬学の歴史的な流れと医療において薬学が果たしてきた役割について説明できる。	薬学への招待					
2）薬物療法の歴史と、人類に与えてきた影響について説明できる。						
3）薬剤師の誕生から現在までの役割の変遷の歴史（医薬分業を含む）について説明できる。						
4）将来の薬剤師と薬学が果たす役割について討議する。（知識・態度）	薬学への招待、 早期体験					
（2）薬剤師に求められる倫理観						
【①生命倫理】						
1）生命の尊厳について、自らの言葉で説明できる。（知識・態度）	ヒューマニズム				がんと緩和医療薬学 Ⅰ、 がんと緩和医療薬学Ⅱ	
2）生命倫理の諸原則（自律尊重、無危害、善行、正義等）について説明できる。						
3）生と死に関わる倫理的問題について討議し、自らの考えを述べる。（知識・態度）					がんと緩和医療薬学 Ⅰ、 がんと緩和医療薬学Ⅱ	
4）科学技術の進歩、社会情勢の変化に伴う生命観の変遷について概説できる。						
【②医療倫理】						
1）医療倫理に関する規範（ジュネーブ宣言等）について概説できる。	ヒューマニズム					
2）薬剤師が遵守すべき倫理規範（薬剤師綱領、薬剤師倫理規定等）について説明できる。			調剤学			高齢者介護にかかわる
3）医療の進歩に伴う倫理的問題について説明できる。	ヒューマニズム					
【③患者の権利】						
1）患者の価値観、人間性に配慮することの重要性を認識する。（態度）	ヒューマニズム					
2）患者の基本的権利の内容（リスボン宣言等）について説明できる。						
3）患者の自己決定権とインフォームドコンセントの意義について説明できる。						
4）知り得た情報の守秘義務と患者等への情報提供の重要性を理解し、適切な取扱いができる。 （知識・ 技能・態度）						
【④研究倫理】						
1）臨床研究における倫理規範（ヘルシンキ宣言等）について説明できる。	ヒューマニズム					
2）「ヒトを対象とする研究において遵守すべき倫理指針」について概説できる。						
3）正義性、社会性、誠実性に配慮し、法規範を遵守して研究に取り組む。（態度）						
（3）信頼関係の構築						
【①コミュニケーション】						
1）意思、情報の伝達に必要な要素について説明できる。		コミュニケーション				
2）言語的及び非言語的コミュニケーションについて説明できる。						
3）相手の立場、文化、習慣等によって、コミュニケーションの在り方が異なることを例を挙げて説明できる。		コミュニケーション、 医療の中の薬学				

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該 当 科 目					
	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
4）対人関係に影響を及ぼす心理的要因について概説できる。						
5）相手の心理状態とその変化に配慮し、対応する。（態度）	早期体験、 薬学への招待	コミュニケーション		実習Ⅳ、 事前実習		高齢者介護にかかわる
6）自分の心理状態を意識して、他者と接することができる。（態度）						
7）適切な聴き方、質問を通じて相手の考えや感情を理解するように努める。（技能・態度）		医療の中の薬学	演習ⅢA			
8）適切な手段により自分の考えや感情を相手に伝えることができる。（技能・態度）		演習ⅡA、演習ⅡB				
9）他者の意見を尊重し、協力してよりよい解決法を見出すことができる。（知識・技能・態度）		コミュニケーション、 演習ⅡA、演習ⅡB		実習Ⅳ、 事前実習		
【②患者・生活者と薬剤師】						
1）患者や家族、周囲の人々の心身に及ぼす病気やケアの影響について説明できる。		コミュニケーション、 医療の中の薬学			がんと緩和医療薬学Ⅰ、 がんと緩和医療薬学Ⅱ	高齢者介護にかかわる
2）患者・家族・生活者の心身の状態や多様な価値観に配慮して行動する。（態度）			事前実習			
（4）多職種連携協働とチーム医療						
1）保健、医療、福祉、介護における多職種連携協働及びチーム医療の意義について説明できる。	早期体験、 薬学への招待	医療の中の薬学				
2）多職種連携協働に関わる薬剤師、各職種及び行政の役割について説明できる。						高齢者介護にかかわる
3）チーム医療に関わる薬剤師、各職種、患者・家族の役割について説明できる。	早期体験	医療の中の薬学	社会の中の薬学		臨床代謝栄養学	
4）自己の能力の限界を認識し、状況に応じて他者に協力・支援を求める。（態度）		コミュニケーション	演習ⅢA			
5）チームワークと情報共有の重要性を理解し、チームの一員としての役割を積極的に果たすように努める。（知識・態度）		コミュニケーション、 医療の中の薬学		実習Ⅳ	臨床代謝栄養学	高齢者介護にかかわる
（5）自己研鑽と次世代を担う人材の育成						
【①学習の在り方】						
1）医療・福祉・医薬品に関わる問題、社会的動向、科学の進歩に常に目を向け、自ら課題を見出し、解決に向けて努力する。（態度）		演習ⅡA、演習ⅡB	演習ⅢA		抗加齢薬学	
2）講義、国内外の教科書・論文、検索情報等の内容について、重要事項や問題点を抽出できる。（技能）	実習ⅠA	実習ⅡB、 演習ⅡA、演習ⅡB			抗加齢薬学、 有機化学最前線、 有機合成化学	
3）必要な情報を的確に収集し、信憑性について判断できる。（知識・技能）						
4）得られた情報を論理的に統合・整理し、自らの考えとともに分かりやすく表現できる。（技能）						
5）インターネット上の情報が持つ意味・特徴を知り、情報倫理、情報セキュリティに配慮して活用できる。（知識・態度）					有機化学最前線	
【②薬学教育の概要】						
1）「薬剤師として求められる基本的な資質」について、具体例を挙げて説明できる。				実習Ⅳ		高齢者介護にかかわる
2）薬学が総合科学であることを認識し、薬剤師の役割と学習内容を関連づける。（知識・態度）			調剤学			卒業研究Ⅲ、 高齢者介護にかかわる
【③生涯学習】						
1）生涯にわたって自ら学習する重要性を認識し、その意義について説明できる。			調剤学、 社会の中の薬学			卒業研究Ⅲ、 高齢者介護にかかわる
2）生涯にわたって継続的に学習するために必要な情報を収集できる。（技能）						
【④次世代を担う人材の育成】						
1）薬剤師の使命に後輩等の育成が含まれることを認識し、ロールモデルとなるように努める。（態度）					卒業研究Ⅱ	卒業研究Ⅲ
2）後輩等への適切な指導を実践する。（技能・態度）						

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該 当 科 目					
	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
B 薬学と社会						
（１）人と社会に関わる薬剤師						
１）人の行動がどのような要因によって決定されるのかについて説明できる。	早期体験、 薬学への招待	コミュニケーション				
２）人・社会が医薬品に対して抱く考え方や思いの多様性について討議する。（態度）						
３）人・社会の視点から薬剤師を取り巻く様々な仕組みと規制について討議する。（態度）						
４）薬剤師が倫理規範や法令を守ることの重要性について討議する。（態度）						
５）倫理規範や法令に則した行動を取る。（態度）				実習Ⅳ、 事前実習	病院実習、 薬局実習	
（２）薬剤師と医薬品等に係る法規範						
【①薬剤師の社会的位置づけと責任に係る法規範】						
１）薬剤師に関わる法令とその構成について説明できる。				薬事関連法規		社会薬学複合科目Ⅱ
２）薬剤師免許に関する薬剤師法の規定について説明できる。						
３）薬剤師の任務や業務に関する薬剤師法の規定とその意義について説明できる。			調剤学	薬事関連法規		高齢者介護にかかわる、 社会薬学複合科目Ⅱ
４）薬剤師以外の医療職種の任務に関する法令の規定について概説できる。						
５）医療の理念と医療の担い手の責務に関する医療法の規定とその意義について説明できる。						社会薬学複合科目Ⅱ
６）医療提供体制に関する医療法の規定とその意義について説明できる。						
７）個人情報の取扱いについて概説できる。						
８）薬剤師の刑事責任、民事責任（製造物責任を含む）について概説できる。						
【②医薬品等の品質、有効性及び安全性の確保に係る法規範】						
１）「医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律」の目的及び医薬品等（医薬品（薬局医薬品、要指導医薬品、一般用医薬品）、医薬部外品、化粧品、医療機器、再生医療等 製品）の定義について説明できる。			調剤学、 社会の中の薬学	薬事関連法規		社会薬学複合科目Ⅱ、 高齢者介護にかかわる
２）医薬品の開発から承認までのプロセスと法規範について概説できる。	薬学への招待					
３）治験の意義と仕組みについて概説できる。		医療の中の薬学	社会の中の薬学			
４）医薬品等の製造販売及び製造に係る法規範について説明できる。						
５）製造販売後調査制度及び製造販売後安全対策について説明できる。						
６）薬局、医薬品販売業及び医療機器販売業に係る法規範について説明できる。						
７）医薬品等の取扱いに関する「医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律」の規定について説明できる。						
８）日本薬局方の意義と構成について説明できる。	薬学への招待					
９）生物由来製品の取扱いと血液供給体制に係る法規範について説明できる。			調剤学			社会薬学複合科目Ⅱ、 高齢者介護にかかわる
10）健康被害救済制度について説明できる。						
11）レギュラトリーサイエンスの必要性和意義について説明できる。						分析技術の最前線
【③特別な管理を要する薬物等に係る法規範】						
１）麻薬、向精神薬、覚醒剤原料等の取扱いに係る規定について説明できる。			調剤学	薬事関連法規		社会薬学複合科目Ⅱ、 高齢者介護にかかわる
２）覚醒剤、大麻、あへん、指定薬物等の乱用防止規制について概説できる。						
３）毒物劇物の取扱いに係る規定について概説できる。						

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該 当 科 目					
	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
（３）社会保障制度と医療経済						
【①医療、福祉、介護の制度】						
１）日本の社会保障制度の枠組みと特徴について説明できる。				医療システム学		社会薬学複合科目Ⅱ
２）医療保険制度について説明できる。						
３）療養担当規則について説明できる。						
４）公費負担医療制度について概説できる。						
５）介護保険制度について概説できる。						
６）薬価基準制度について概説できる。						
７）調剤報酬、診療報酬及び介護報酬の仕組みについて概説できる。			調剤学			社会薬学複合科目Ⅱ、 高齢者介護にかかわる
【②医薬品と医療の経済性】						
１）医薬品の市場の特徴と流通の仕組みについて概説できる。	薬学への招待		社会の中の薬学	医療システム学		社会薬学複合科目Ⅱ
２）国民医療費の動向について概説できる。						
３）後発医薬品とその役割について説明できる。			調剤学		分析技術の最前線	社会薬学複合科目Ⅱ、 高齢者介護にかかわる
４）薬物療法の経済評価手法について概説できる。						社会薬学複合科目Ⅱ
（４）地域における薬局と薬剤師						
【①地域における薬局の役割】						
１）地域における薬局の機能と業務について説明できる。	早期体験、 薬学への招待	医療の中の薬学	調剤学	実習Ⅳ		高齢者介護にかかわる、 社会薬学複合科目Ⅱ
２）医薬分業の意義と動向を説明できる。						社会薬学複合科目Ⅱ
３）かかりつけ薬局・薬剤師による薬学的管理の意義について説明できる。			調剤学			高齢者介護にかかわる、 社会薬学複合科目Ⅱ
４）セルフメディケーションにおける薬局の役割について説明できる。					セルフメディケーショ ン	社会薬学複合科目Ⅱ
５）災害時の薬局の役割について説明できる。						高齢者介護にかかわる
６）医療費の適正化に薬局が果たす役割について説明できる。			調剤学		セルフメディケーショ ン	
【②地域における保健、医療、福祉の連携体制と薬剤師】						
１）地域包括ケアの理念について説明できる。						高齢者介護にかかわる
２）在宅医療及び居宅介護における薬局と薬剤師の役割について説明できる。						
３）学校薬剤師の役割について説明できる。						
４）地域の保健、医療、福祉において利用可能な社会資源について概説できる。						
５）地域から求められる医療提供施設、福祉施設及び行政との連携について討議する。（知識・態度）	早期体験					

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該 当 科 目					
	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
C 薬学基礎						
C1 物質の物理的性質						
（1）物質の構造						
【①化学結合】						
1）化学結合の様式について説明できる。	物理化学Ⅰ、 基礎化学、 実習ⅠB	有機化学Ⅱ、 実習ⅡA、 実習ⅡB			有機合成化学	有機反応論Ⅲ、 物質の分析Ⅴ（医薬品の評価）、 基礎薬学複合科目Ⅱ
2）分子軌道の基本概念および軌道の混成について説明できる。		有機化学Ⅱ、 実習ⅡA				
3）共役や共鳴の概念を説明できる。		有機化学Ⅱ、 実習ⅡA、 演習ⅡA、演習ⅡB				
【②分子間相互作用】						
1）ファンデルワールス力について説明できる。	物理化学Ⅰ		医薬品化学Ⅱ		有機化学最前線	物質の分析Ⅴ（医薬品の評価）、 基礎薬学複合科目Ⅱ
2）静電相互作用について例を挙げて説明できる。						
3）双極子間相互作用について例を挙げて説明できる。						
4）分散力について例を挙げて説明できる。						
5）水素結合について例を挙げて説明できる。						
6）電荷移動相互作用について例を挙げて説明できる。						
7）疎水性相互作用について例を挙げて説明できる。						
【③原子・分子の挙動】						
1）電磁波の性質および物質との相互作用を説明できる。	物理化学Ⅰ					物質の分析Ⅴ（医薬品の評価）、 基礎薬学複合科目Ⅱ
2）分子の振動、回転、電子遷移について説明できる。						
3）電子や核のスピンとその磁気共鳴について説明できる。						
4）光の屈折、偏光、および旋光性について説明できる。						
5）光の散乱および干渉について説明できる。						
6）結晶構造と回折現象について概説できる。						
【④放射線と放射能】						
1）原子の構造と放射壊変について説明できる。	物理化学Ⅰ		衛生薬学Ⅳ			物質の分析Ⅴ（医薬品の評価）、 基礎薬学複合科目Ⅱ
2）電離放射線の種類を列挙し、それらの性質および物質との相互作用について説明できる。						
3）代表的な放射性核種の物理的性質について説明できる。						
4）核反応および放射平衡について説明できる。						
5）放射線測定の方法と利用について概説できる。						
（2）物質のエネルギーと平衡						
【①気体の微視的状態と巨視的状態】						
1）ファンデルワールスの状態方程式について説明できる。		物理化学Ⅳ				物質の分析Ⅴ（医薬品の評価）、 基礎薬学複合科目Ⅱ
2）気体の分子運動とエネルギーの関係について説明できる。						
3）エネルギーの量子化とボルツマン分布について説明できる。						

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該 当 科 目					
	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
【②エネルギー】						
1）熱力学における系、外界、境界について説明できる。		物理化学Ⅳ				物質の分析Ⅴ（医薬品の評価）、 基礎薬学複合科目Ⅱ
2）熱力学第一法則を説明できる。						
3）状態関数と経路関数の違いを説明できる。						
4）定圧過程、定容過程、等温過程、断熱過程を説明できる。						
5）定容熱容量および定圧熱容量について説明できる。						
6）エンタルピーについて説明できる。						
7）化学変化に伴うエンタルピー変化について説明できる。						
【③自発的な変化】						
1）エントロピーについて説明できる。		物理化学Ⅳ				物質の分析Ⅴ（医薬品の評価）、 基礎薬学複合科目Ⅱ
2）熱力学第二法則について説明できる。						
3）熱力学第三法則について説明できる。						
4）ギブズエネルギーについて説明できる。						
5）熱力学関数を使い、自発的な変化の方向と程度を予測できる。						
【④化学平衡の原理】						
1）ギブズエネルギーと化学ポテンシャルの関係を説明できる。		物理化学Ⅲ、 物理化学Ⅳ				物質の分析Ⅴ（医薬品の評価）、 基礎薬学複合科目Ⅱ
2）ギブズエネルギーと平衡定数の関係を説明できる。		物理化学Ⅳ				
3）平衡定数に及ぼす圧力および温度の影響について説明できる。						
4）共役反応の原理について説明できる。		物理化学Ⅳ、 有機化学Ⅱ				
【⑤相平衡】						
1）相変化に伴う熱の移動について説明できる。		物理化学Ⅲ、 物理化学Ⅳ				物質の分析Ⅴ（医薬品の評価）、 基礎薬学複合科目Ⅱ
2）相平衡と相律について説明できる。		物理化学Ⅲ				
3）状態図について説明できる。						
【⑥溶液の性質】						
1）希薄溶液の束一的性質について説明できる。		物理化学Ⅲ				物質の分析Ⅴ（医薬品の評価）、 基礎薬学複合科目Ⅱ
2）活量と活量係数について説明できる。						
3）電解質溶液の電気伝導率およびモル伝導率の濃度による変化を説明できる。						
4）イオン強度について説明できる。						
【⑦電気化学】						
1）起電力とギブズエネルギーの関係について説明できる。		物理化学Ⅲ				物質の分析Ⅴ（医薬品の評価）、 基礎薬学複合科目Ⅱ
2）電極電位（酸化還元電位）について説明できる。		薬品分析学Ⅱ				

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該 当 科 目					
	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
（３）物質の変化						
【①反応速度】						
１）反応次数と速度定数について説明できる。						
２）微分型速度式を積分型速度式に変換できる。（知識・技能）						
３）代表的な反応次数の決定法を列挙し、説明できる。						
４）代表的な（擬）一次反応の反応速度を測定し、速度定数を求めることができる。（技能）						
５）代表的な複合反応（可逆反応、平行反応、連続反応など）の特徴について説明できる。						
６）反応速度と温度との関係を説明できる。						
７）代表的な触媒反応（酸・塩基触媒反応、酵素反応など）について説明できる。						
C2 化学物質の分析						
（１）分析の基礎						
【①分析の基本】						
１）分析に用いる器具を正しく使用できる。（知識・技能）						
２）測定値を適切に取り扱うことができる。（知識・技能）	薬品分析学Ⅰ	実習ⅡA、 実習ⅡB				物質の分析Ⅴ（医薬品の評価）、 基礎薬学複合科目Ⅱ
３）分析法のバリデーションについて説明できる。		薬品分析学Ⅱ、 実習ⅡA、 実習ⅡB				
（２）溶液中の化学平衡						
【①酸・塩基平衡】						
１）酸・塩基平衡の概念について説明できる。						
２）pH および解離定数について説明できる。（知識・技能）						
３）溶液の pH を測定できる。（技能）						
４）緩衝作用や緩衝液について説明できる。						
【②各種の化学平衡】						
１）錯体・キレート生成平衡について説明できる。						
２）沈殿平衡について説明できる。						
３）酸化還元平衡について説明できる。						
４）分配平衡について説明できる。						
（３）化学物質の定性分析・定量分析						
【①定性分析】						
１）代表的な無機イオンの定性反応を説明できる。						
２）日本薬局方収載の代表的な医薬品の確認試験を列挙し、その内容を説明できる。		日本薬局方Ⅰ				物質の分析Ⅴ（医薬品の評価）、 基礎薬学複合科目Ⅱ

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該 当 科 目						
	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年	
【②定量分析（容量分析・重量分析）】							
１）中和滴定（非水滴定を含む）の原理、操作法および応用例を説明できる。	薬品分析学Ⅰ	演習ⅡA				物質の分析Ⅴ（医薬品の評価）、 基礎薬学複合科目Ⅱ	
２）キレート滴定の原理、操作法および応用例を説明できる。							
３）沈殿滴定の原理、操作法および応用例を説明できる。							
４）酸化還元滴定の原理、操作法および応用例を説明できる。		薬品分析学Ⅱ、 演習ⅡA					
５）日本薬局方収載の代表的な医薬品の容量分析を実施できる。（知識・技能）	薬品分析学Ⅰ	薬品分析学Ⅱ、 演習ⅡA 実習ⅡB					
６）日本薬局方収載の代表的な純度試験を列挙し、その内容を説明できる。		日本薬局方Ⅰ、 演習ⅡA					
７）日本薬局方収載の重量分析法の原理および操作法を説明できる。							
（４）機器を用いる分析法							
【①分光分析法】							
１）紫外可視吸光度測定法の原理および応用例を説明できる。		薬品分析学Ⅱ、 実習ⅡA、 実習ⅡB				物質の分析Ⅴ（医薬品の評価）、 基礎薬学複合科目Ⅱ	
２）蛍光光度法の原理および応用例を説明できる。		薬品分析学Ⅲ					
３）赤外吸収（IR）スペクトル測定法の原理および応用例を説明できる。					分析技術の最前線		
４）原子吸光光度法、誘導結合プラズマ（ICP）発光分光分析法および ICP 質量分析法の原理および応用例を説明できる。		薬品分析学Ⅱ					
５）旋光度測定法（旋光分散）の原理および応用例を説明できる。		薬品分析学Ⅲ					
６）分光分析法を用いて、日本薬局方収載の代表的な医薬品の分析を実施できる。（技能）		実習ⅡA、 実習ⅡB					
【②核磁気共鳴（NMR）スペクトル測定法】							
１）核磁気共鳴（NMR）スペクトル測定法の原理および応用例を説明できる。		薬品分析学Ⅲ				物質の分析Ⅴ（医薬品の評価）、 基礎薬学複合科目Ⅱ	
【③質量分析法】							
１）質量分析法の原理および応用例を説明できる。		薬品分析学Ⅲ			分析技術の最前線	物質の分析Ⅴ（医薬品の評価）、 基礎薬学複合科目Ⅱ	
【④X線分析法】							
１）X線結晶解析の原理および応用例を概説できる。		薬品分析学Ⅲ				物質の分析Ⅴ（医薬品の評価）、 基礎薬学複合科目Ⅱ	
２）粉末X線回折測定法の原理と利用法について概説できる。			製剤学Ⅱ				
【⑤熱分析】							
１）熱重量測定法の原理を説明できる。			製剤学Ⅱ			物質の分析Ⅴ（医薬品の評価）、 基礎薬学複合科目Ⅱ	
２）示差熱分析法および示差走査熱量測定法について説明できる。							

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該 当 科 目					
	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
（5）分離分析法						
【①クロマトグラフィー】						
1）クロマトグラフィーの分離機構を説明できる。	実習ⅠB	薬品分析学Ⅱ、 実習ⅡB、演習ⅡB				物質の分析Ⅴ（医薬品の評価）、 基礎薬学複合科目Ⅱ
2）薄層クロマトグラフィーの特徴と代表的な検出法を説明できる。						
3）液体クロマトグラフィーの特徴と代表的な検出法を説明できる。						
4）ガスクロマトグラフィーの特徴と代表的な検出法を説明できる。		薬品分析学Ⅱ、演習ⅡB				
5）クロマトグラフィーを用いて試料を定性・定量できる。（知識・技能）		薬品分析学Ⅱ、 実習ⅡB、演習ⅡB				
【②電気泳動法】						
1）電気泳動法の原理および応用例を説明できる。		薬品分析学Ⅱ、 実習ⅡB				物質の分析Ⅴ（医薬品の評価）、 基礎薬学複合科目Ⅱ
（6）臨床現場で用いる分析技術						
【①分析の準備】						
1）分析目的に即した試料の前処理法を説明できる。		薬品分析学Ⅱ、 実習ⅡB	実習ⅢB、 演習ⅢB	薬品分析学Ⅳ		物質の分析Ⅴ（医薬品の評価）、 基礎薬学複合科目Ⅱ
2）臨床分析における精度管理および標準物質の意義を説明できる。						
【②分析技術】						
1）臨床分析で用いられる代表的な分析法を列挙できる。			演習ⅢB	薬品分析学Ⅳ		物質の分析Ⅴ（医薬品の評価）、 基礎薬学複合科目Ⅱ
2）免疫化学的測定法の原理を説明できる。						
3）酵素を用いた代表的な分析法の原理を説明できる。		実習ⅡB				
4）代表的なドライケミストリーについて概説できる。						
5）代表的な画像診断技術（X線検査、MRI、超音波、内視鏡検査、核医学検査など）について概説できる。					分析技術の最前線	
C3 化学物質の性質と反応						
（1）化学物質の基本的性質						
【①基本事項】						
1）代表的な化合物を IUPAC 規則に基づいて命名することができる。	基礎化学、 有機化学Ⅰ	有機化学Ⅱ、 有機化学Ⅲ、 実習ⅡA、 演習ⅡA	演習ⅢB			有機反応論Ⅲ
2）薬学領域で用いられる代表的な化合物を慣用名で記述できる。		有機化学Ⅱ、 実習ⅡA、 演習ⅡA、				
3）基本的な化合物を、ルイス構造式で書くことができる。						
4）有機化合物の性質と共鳴の関係について説明できる。	基礎化学、 実習ⅠB					有機反応論Ⅲ
5）ルイス酸・塩基、ブレンステッド酸・塩基を定義することができる。	基礎化学、 実習ⅠB	有機化学Ⅱ、 有機化学Ⅲ、 実習ⅡA、 演習ⅡA				

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該 当 科 目					
	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
6）基本的な有機反応（置換、付加、脱離）の特徴を理解し、分類できる。	基礎化学	有機化学Ⅱ、 実習ⅡA、 演習ⅡA、 実習ⅡB			有機合成化学	生物有機化学
7）炭素原子を含む反応中間体（カルボカチオン、カルボアニオン、ラジカル）の構造と性質を説明できる。	基礎化学、 有機化学Ⅰ	有機化学Ⅱ、 実習ⅡA、 演習ⅡA				
8）反応の過程を、エネルギー図を用いて説明できる。		有機化学Ⅱ、 実習ⅡA、 演習ⅡA、 実習ⅡB、 演習ⅡB				
9）基本的な有機反応機構を、電子の動きを示す矢印を用いて表すことができる。（技能）						
【②有機化合物の立体構造】						
1）構造異性体と立体異性体の違いについて説明できる。	基礎化学、 有機化学Ⅰ、 実習ⅠB	演習ⅡA				有機反応論Ⅲ
2）キラリティーと光学活性の関係を概説できる。	基礎化学、 有機化学Ⅰ					有機反応論Ⅲ
3）エナンチオマーとジアステロマーについて説明できる。						
4）ラセミ体とメソ体について説明できる。						
5）絶対配置の表示法を説明し、キラル化合物の構造を書くことができる。（知識、技能）						
6）炭素—炭素二重結合の立体異性（cis、trans ならびに E、Z 異性）について説明できる。	基礎化学、 有機化学Ⅰ、 実習ⅠB	有機化学Ⅱ、 演習ⅡA				有機反応論Ⅲ
7）フィッシャー投影式とニューマン投影式を用いて有機化合物の構造を書くことができる。（技能）	有機化学Ⅰ、 実習ⅠB	演習ⅡA				
8）エタン、ブタンの立体配座とその安定性について説明できる。						
（2）有機化合物の基本骨格の構造と反応						
【①アルカン】						
1）アルカンの基本的な性質について説明できる。	有機化学Ⅰ					有機反応論Ⅲ
2）アルカンの構造異性体を図示することができる。（技能）						
3）シクロアルカンの環のひずみを決定する要因について説明できる。						
4）シクロヘキサンのいす形配座における水素の結合方向（アキシアル、エクアトリアル）を図示できる。（技能）						
5）置換シクロヘキサンの安定な立体配座を決定する要因について説明できる。						
【②アルケン・アルキン】						
1）アルケンへの代表的な付加反応を列挙し、その特徴を説明できる。	有機化学Ⅰ	有機化学、 演習ⅡA、 演習ⅡB	有機反応論Ⅰ	有機反応論Ⅱ		生物有機化学
2）アルケンの代表的な酸化、還元反応を列挙し、その特徴を説明できる。						有機反応論Ⅲ 生物有機化学
3）アルキンの代表的な反応を列挙し、その特徴を説明できる。		演習ⅡA、 演習ⅡB				

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該 当 科 目					
	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
【③芳香族化合物】						
1）代表的な芳香族炭化水素化合物の性質と反応性を説明できる。		有機化学Ⅱ、 有機化学Ⅲ、 実習ⅡB	有機反応論Ⅰ	有機反応論Ⅱ		有機反応論Ⅲ
2）芳香族性の概念を説明できる。		有機化学Ⅱ				
3）芳香族炭化水素化合物の求電子置換反応の反応性、配向性、置換基の効果について説明できる。		有機化学Ⅱ、 演習ⅡA、 実習ⅡB、 演習ⅡB				有機反応論Ⅲ、 生物有機化学
4）代表的な芳香族複素環化合物の性質を芳香族性と関連づけて説明できる。		有機化学Ⅱ、 医薬品化学Ⅰ				有機反応論Ⅲ
5）代表的な芳香族複素環の求電子置換反応の反応性、配向性、置換基の効果について説明できる。						
（3）官能基の性質と反応						
【①概説】						
1）代表的な官能基を列挙し、性質を説明できる。		有機化学Ⅱ、 医薬品化学Ⅰ、 実習ⅡA、演習ⅡA、 実習ⅡB、演習ⅡB	有機反応論Ⅰ、 演習ⅢB	有機反応論Ⅱ		
2）官能基の性質を利用した分離精製を実施できる。（技能）	実習ⅠB	実習ⅡA、 演習ⅡA、 実習ⅡB	有機反応論Ⅰ			
【②有機ハロゲン化合物】						
1）有機ハロゲン化合物の基本的な性質と反応を列挙し、説明できる。	有機化学Ⅰ		有機反応論Ⅰ	有機反応論Ⅱ		有機反応論Ⅲ
2）求核置換反応の特徴について説明できる。		実習ⅡA、 演習ⅡA				有機反応論Ⅲ、 生物有機化学
3）脱離反応の特徴について説明できる。						
【③アルコール・フェノール・エーテル】						
1）アルコール、フェノール類の基本的な性質と反応を列挙し、説明できる。	有機化学Ⅰ	有機化学Ⅱ、 実習ⅡA、 演習ⅡA、 演習ⅡB	有機反応論Ⅰ、 演習ⅢB	有機反応論Ⅱ		有機反応論Ⅲ
2）エーテル類の基本的な性質と反応を列挙し、説明できる。		有機化学Ⅱ	有機反応論Ⅰ			
【④アルデヒド・ケトン・カルボン酸・カルボン酸誘導体】						
1）アルデヒド類およびケトン類の基本的な性質と反応を列挙し、説明できる。		有機化学Ⅲ	有機反応論Ⅰ	有機反応論Ⅱ		有機反応論Ⅲ
2）カルボン酸の基本的性質と反応を列挙し、説明できる。		有機化学Ⅲ、 演習ⅡA、 演習ⅡB	有機反応論Ⅰ、 演習ⅢB			
3）カルボン酸誘導体（酸ハロゲン化物、酸無水物、エステル、アミド）の基本的性質と反応を列挙し、説明できる。		有機化学Ⅲ	有機反応論Ⅰ			
【⑤アミン】						
1）アミン類の基本的性質と反応を列挙し、説明できる。		有機化学Ⅲ、 実習ⅡA、 演習ⅡA、 実習ⅡB、 演習ⅡB	有機反応論Ⅰ、 演習ⅢB	有機反応論Ⅱ		有機反応論Ⅲ
【⑥電子効果】						
1）官能基が及ぼす電子効果について概説できる。		演習ⅡA、 実習ⅡB、 演習ⅡB	演習ⅢB			

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該 当 科 目					
	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
【⑦酸性度・塩基性度】						
１）アルコール、フェノール、カルボン酸、炭素酸などの酸性度を比較して説明できる。		有機化学Ⅲ、 実習ⅡA、 演習ⅡA、 演習ⅡB				有機反応論Ⅲ
２）含窒素化合物の塩基性度を比較して説明できる。						
（４）化学物質の構造決定						
【①核磁気共鳴（NMR）】						
１） ¹ H および ¹³ C NMR スペクトルより得られる情報を概説できる。			有機構造解析、 演習ⅢB			
２）有機化合物中の代表的プロトンについて、おおよその化学シフト値を示すことができる。						
３） ¹ H NMR の積分値の意味を説明できる。						
４） ¹ H NMR シグナルが近接プロトンにより分裂（カップリング）する基本的な分裂様式を説明できる。						
５）代表的な化合物の部分構造を ¹ H NMR から決定できる。（技能）						生物有機化学
【②赤外吸収（IR）】						
１）IR スペクトルより得られる情報を概説できる。			有機構造解析、 演習ⅢB			
２）IR スペクトル上の基本的な官能基の特性吸収を列挙し、帰属することができる。（知識・技能）					分析技術の最前線	生物有機化学
【③質量分析】						
１）マスペクトルより得られる情報を概説できる。			有機構造解析、 演習ⅢB			
２）測定化合物に適したイオン化法を選択できる。（技能）						
３）ピークの種類（基準ピーク、分子イオンピーク、同位体ピーク、フラグメントピーク）を説明できる。						
４）代表的な化合物のマスペクトルを解析できる。（技能）						生物有機化学
【④総合演習】						
１）代表的な機器分析法を用いて、代表的な化合物の構造決定ができる。（技能）			有機構造解析、 演習ⅢB			生物有機化学
（５）無機化合物・錯体の構造と性質						
【①無機化合物・錯体】						
１）代表的な典型元素と遷移元素を列挙できる。	基礎化学				有機合成化学	基礎薬学複合科目Ⅰ
２）代表的な無機酸化物、オキソ化合物の名称、構造、性質を列挙できる。						
３）活性酸素と窒素酸化物の名称、構造、性質を列挙できる。			医薬品化学Ⅱ			基礎薬学複合科目Ⅰ
４）代表的な錯体の名称、構造、基本的な性質を説明できる。					有機合成化学	
５）医薬品として用いられる代表的な無機化合物、および錯体を列挙できる。						
C4 生体分子・医薬品の化学による理解						
（１）医薬品の標的となる生体分子の構造と化学的な性質						
【①医薬品の標的となる生体高分子の化学構造】						
１）代表的な生体高分子を構成する小分子（アミノ酸、糖、脂質、ヌクレオチドなど）の構造に基づく化学的性質を説明できる。	実習ⅠA	医薬品化学Ⅰ、 実習ⅡB	医薬品化学Ⅱ			基礎薬学複合科目Ⅰ
２）医薬品の標的となる生体高分子（タンパク質、核酸など）の立体構造とそれを規定する化学結合、相互作用について説明できる。						
【②生体内で機能する小分子】						
１）細胞膜受容体および細胞内（核内）受容体の代表的な内因性リガンドの構造と性質について概説できる。		薬理学Ⅰ、 薬理学Ⅱ				基礎薬学複合科目Ⅰ
２）代表的な補酵素が酵素反応で果たす役割について、有機反応機構の観点から説明できる。						
３）活性酸素、一酸化窒素の構造に基づく生体内反応を化学的に説明できる。						
４）生体内に存在する代表的な金属イオンおよび錯体の機能を化学的に説明できる。					有機合成化学	

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該 当 科 目					
	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
（２）生体反応の化学による理解						
【①生体内で機能するリン、硫黄化合物】						
１）リン化合物（リン酸誘導体など）および硫黄化合物（チオール、ジスルフィド、チオエステルなど）の構造と化学的性質を説明できる。			医薬品化学Ⅱ			基礎薬学複合科目Ⅰ
２）リン化合物（リン酸誘導体など）および硫黄化合物（チオール、ジスルフィド、チオエステルなど）の生体内での機能を化学的性質に基づき説明できる。						
【②酵素阻害剤と作用様式】						
１）不可逆的酵素阻害薬の作用を酵素の反応機構に基づいて説明できる。		医薬品化学Ⅰ、 実習ⅡB	医薬品化学Ⅱ			基礎薬学複合科目Ⅰ
２）基質アナログが競合阻害薬となることを酵素の反応機構に基づいて説明できる。		実習ⅡB				
３）遷移状態アナログが競合阻害薬となることを酵素の反応機構に基づいて説明できる。						
【③受容体のアゴニストおよびアンタゴニスト】						
１）代表的な受容体のアゴニスト（作用薬、作動薬、刺激薬）とアンタゴニスト（拮抗薬、遮断薬）との相違点について、内因性リガンドの構造と比較して説明できる。		医薬品化学Ⅰ				基礎薬学複合科目Ⅰ
２）低分子内因性リガンド誘導体が医薬品として用いられている理由を説明できる。						
【④生体内で起こる有機反応】						
１）代表的な生体分子（脂肪酸、コレステロールなど）の代謝反応を有機化学の観点から説明できる。			医薬品化学Ⅱ			基礎薬学複合科目Ⅰ
２）異物代謝の反応（発がん性物質の代謝的活性化など）を有機化学の観点から説明できる。			衛生薬学Ⅳ			
（３）医薬品の化学構造と性質、作用						
【①医薬品と生体分子の相互作用】						
１）医薬品と生体分子との相互作用を化学的な観点（結合親和性と自由エネルギー変化、電子効果、立体効果など）から説明できる。		医薬品化学Ⅰ				
【②医薬品の化学構造に基づく性質】						
１）医薬品の構造からその物理化学的性質（酸性、塩基性、疎水性、親水性など）を説明できる。	実習ⅠB	医薬品化学Ⅰ				基礎薬学複合科目Ⅰ
２）プロドラッグなどの薬物動態を考慮した医薬品の化学構造について説明できる。						
【③医薬品のコンポーネント】						
１）代表的な医薬品のファーマコフォアについて概説できる。		医薬品化学Ⅰ				基礎薬学複合科目Ⅰ
２）バイオアイソスター（生物学的等価体）について、代表的な例を挙げて概説できる。						
３）医薬品に含まれる代表的な複素環を構造に基づいて分類し、医薬品コンポーネントとしての性質を説明できる。						
【④酵素に作用する医薬品の構造と性質】						
１）ヌクレオシドおよび核酸塩基アナログを有する代表的医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。			医薬品化学Ⅱ			基礎薬学複合科目Ⅰ
２）フェニル酢酸、フェニルプロピオン酸構造などをもつ代表的医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。						
３）スルホンアミド構造をもつ代表的医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。						
４）キノロン骨格をもつ代表的医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。						
５）β-ラクタム構造をもつ代表的医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。						
６）ペプチドアナログの代表的医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。						
【⑤受容体に作用する医薬品の構造と性質】						
１）カテコールアミン骨格を有する代表的医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。		医薬品化学Ⅰ、 薬理学Ⅰ				基礎薬学複合科目Ⅰ、 医療薬学複合科目Ⅰ、
２）アセチルコリンアナログの代表的医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。						

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該 当 科 目					
	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
3）ステロイドアナログの代表的医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。				薬理Ⅵ		基礎薬学複合科目Ⅰ
4）ベンゾジアゼピン骨格およびバルビタール骨格を有する代表的医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。		薬理学Ⅱ				
5）オピオイドアナログの代表的医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。						
【⑥DNA に作用する医薬品の構造と性質】						
1）DNAと結合する医薬品（アルキル化剤、シスプラチン類）を列挙し、それらの化学構造と反応機構を説明できる。			医薬品化学Ⅱ			基礎薬学複合科目Ⅰ
2）DNAにインターカレートする医薬品を列挙し、それらの構造上の特徴を説明できる。						
3）DNA鎖を切断する医薬品を列挙し、それらの構造上の特徴を説明できる。						
【⑦イオンチャネルに作用する医薬品の構造と性質】						
1）イオンチャネルに作用する医薬品の代表的な基本構造（ジヒドロピリジンなど）の特徴を説明できる。			薬理Ⅲ			基礎薬学複合科目Ⅰ
C5 自然が生み出す薬物						
（1）薬になる動植物						
【①薬用植物】						
1）代表的な薬用植物の学名、薬用部位、薬効などを挙げることができる。			生薬学			生物有機化学
2）代表的な薬用植物を外部形態から説明し、区別できる。（知識、技能）	早期体験					
3）植物の主な内部形態について説明できる。			生薬学			
4）法律によって取り扱いが規制されている植物（ケシ、アサ）の特徴を説明できる。						
【②生薬の基原】						
1）日本薬局方収載の代表的な生薬（植物、動物、藻類、菌類由来）を列挙し、その基原、薬用部位を説明できる。			生薬学			生物有機化学
【③生薬の用途】						
1）日本薬局方収載の代表的な生薬（植物、動物、藻類、菌類、鉱物由来）の薬効、成分、用途などを説明できる。			生薬学			生物有機化学
2）副作用や使用上の注意が必要な代表的な生薬を列挙し、説明できる。						
【④生薬の同定と品質評価】						
1）生薬の同定と品質評価法について概説できる。	実習ⅠB		生薬学			生物有機化学
2）日本薬局方の生薬総則および生薬試験法について説明できる。		日本薬局方Ⅰ				
3）代表的な生薬を鑑別できる。（技能）	実習ⅠB					
4）代表的な生薬の確認試験を説明できる。						
5）代表的な生薬の純度試験を説明できる。						
（2）薬の宝庫としての天然物						
【①生薬由来の生物活性物質の構造と作用】						
1）生薬由来の代表的な生物活性物質を化学構造に基づいて分類し、それらの生合成経路を概説できる。			生薬学			生物有機化学
2）脂質や糖質に分類される生薬由来の代表的な生物活性物質を列挙し、その作用を説明できる。						
3）芳香族化合物に分類される生薬由来の代表的な生物活性物質を列挙し、その作用を説明できる。						生物有機化学
4）テルペノイド、ステロイドに分類される生薬由来の代表的な生物活性物質を列挙し、その作用を説明できる。						
5）アルカロイドに分類される生薬由来の代表的な生物活性物質を列挙し、その作用を説明できる。						
【②微生物由来の生物活性物質の構造と作用】						
1）微生物由来の生物活性物質を化学構造に基づいて分類できる。					天然医薬品化学	生物有機化学
2）微生物由来の代表的な生物活性物質を列挙し、その作用を説明できる。						

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該 当 科 目					
	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
【③天然生物活性物質の取扱い】						
1）天然生物活性物質の代表的な抽出法、分離精製法を概説し、実施できる。（知識、技能）	実習ⅠB					
【④天然生物活性物質の利用】						
1）医薬品として使われている代表的な天然生物活性物質を列挙し、その用途を説明できる。					天然医薬品化学	生物有機化学
2）天然生物活性物質を基に化学修飾等により開発された代表的な医薬品を列挙し、その用途、リード化合物を説明できる。						
3）農薬や香粧品などとして使われている代表的な天然生物活性物質を列挙し、その用途を説明できる。						
C6 生命現象の基礎						
（1）細胞の構造と機能						
【①細胞膜】						
1）細胞膜を構成する代表的な生体成分を列挙し、その機能を分子レベルで説明できる。	細胞の分子生物学Ⅰ	細胞の分子生物学Ⅲ、 薬理学Ⅰ				
2）エンドサイトーシスとエキソサイトーシスについて説明できる。						
【②細胞小器官】						
1）細胞小器官（核、ミトコンドリア、小胞体、リソソーム、ゴルジ体、ペルオキシソームなど）やリボソームの構造と機能を説明できる。	細胞の分子生物学Ⅰ、 実習ⅠA	細胞の分子生物学Ⅱ、 細胞の分子生物学Ⅲ				
【③細胞骨格】						
1）細胞骨格の構造と機能を説明できる。		細胞の分子生物学Ⅲ				
（2）生命現象を担う分子						
【①脂質】						
1）代表的な脂質の種類、構造、性質、役割を説明できる。	生化学Ⅰ	実習ⅡB				生物薬学複合科目Ⅰ
【②糖質】						
1）代表的な単糖、二糖の種類、構造、性質、役割を説明できる。	生化学Ⅰ					生物薬学複合科目Ⅰ
2）代表的な多糖の種類、構造、性質、役割を説明できる。						
【③アミノ酸】						
1）アミノ酸を列挙し、その構造に基づいて性質を説明できる。	生化学Ⅰ、 細胞の分子生物学Ⅰ	細胞の分子生物学Ⅱ、 細胞の分子生物学Ⅲ、 実習ⅡB				生物薬学複合科目Ⅰ
【④タンパク質】						
1）タンパク質の構造（一次、二次、三次、四次構造）と性質を説明できる。	生化学Ⅰ、 細胞の分子生物学Ⅰ、 実習ⅠA	実習ⅡB				生物薬学複合科目Ⅰ
【⑤ヌクレオチドと核酸】						
1）ヌクレオチドと核酸（DNA、RNA）の種類、構造、性質を説明できる。	生化学Ⅰ、 細胞の分子生物学Ⅰ、 実習ⅠA	細胞の分子生物学Ⅱ				生物薬学複合科目Ⅰ
【⑥ビタミン】						
1）代表的なビタミンの種類、構造、性質、役割を説明できる。	生化学Ⅰ		実習ⅢB	臨床薬学Ⅰ	臨床代謝栄養学	応用衛生薬学Ⅰ
【⑦微量元素】						
1）代表的な必須微量元素の種類、役割を説明できる。	生化学Ⅰ			臨床薬学Ⅰ	臨床代謝栄養学	応用衛生薬学Ⅰ
【⑧生体分子の定性、定量】						
1）脂質、糖質、アミノ酸、タンパク質、もしくは核酸の定性または定量試験を実施できる。（技能）		実習ⅡB				

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該 当 科 目					
	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
（３）生命活動を担うタンパク質						
【①タンパク質の構造と機能】						
１）多彩な機能をもつタンパク質（酵素、受容体、シグナル分子、膜輸送体、運搬・輸送タンパク質、貯蔵タンパク質、構造タンパク質、接着タンパク質、防御タンパク質、調節タンパク質）を列挙し概説できる。	生化学Ⅰ	細胞の分子生物学Ⅱ、 実習ⅡB				生物薬学複合科目Ⅰ
【②タンパク質の成熟と分解】						
１）タンパク質の翻訳後の成熟過程（細胞小器官間の輸送や翻訳後修飾）について説明できる。	生化学Ⅰ、 細胞の分子生物学Ⅰ					生物薬学複合科目Ⅰ、 医療薬学複合科目Ⅲ
２）タンパク質の細胞内での分解について説明できる。						生物薬学複合科目Ⅰ
【③酵素】						
１）酵素反応の特性と反応速度論を説明できる。	生化学Ⅰ、 細胞の分子生物学Ⅰ	生化学Ⅱ、 細胞の分子生物学Ⅱ、 実習ⅡB				生物薬学複合科目Ⅰ
２）酵素反応における補酵素、微量金属の役割を説明できる。	生化学Ⅰ					
３）代表的な酵素活性調節機構を説明できる。	生化学Ⅰ、 細胞の分子生物学Ⅰ					
４）酵素反応速度を測定し、解析できる。（技能）		実習ⅡB				
【④酵素以外のタンパク質】						
１）膜輸送体の種類、構造、機能を説明できる。		薬理学Ⅰ、 薬理学Ⅱ				
２）血漿リボタンパク質の種類、構造、機能を説明できる。	細胞の分子生物学Ⅰ	生化学Ⅱ				生物薬学複合科目Ⅰ
（４）生命情報を担う遺伝子						
【①概論】						
１）遺伝情報の保存と発現の流れを説明できる。	細胞の分子生物学Ⅰ、 実習ⅠA	細胞の分子生物学Ⅱ	演習ⅢA			
２）DNA、遺伝子、染色体、ゲノムとは何かを説明できる。						
【②遺伝情報を担う分子】						
１）染色体の構造（ヌクレオソーム、クロマチン、セントロメア、テロメアなど）を説明できる。	実習ⅠA	細胞の分子生物学Ⅱ				
２）遺伝子の構造（プロモーター、エンハンサー、エキソン、イントロンなど）を説明できる。						
３）RNAの種類(hnRNA、mRNA、rRNA、tRNA など)と機能について説明できる。	生化学Ⅰ					生物薬学複合科目Ⅰ
【③遺伝子の複製】						
１）DNAの複製の過程について説明できる。	細胞の分子生物学Ⅰ	細胞の分子生物学Ⅱ				
【④転写・翻訳の過程と調節】						
１）DNAからRNAへの転写の過程について説明できる。	細胞の分子生物学Ⅰ	細胞の分子生物学Ⅱ				
２）エピジェネティックな転写制御について説明できる。						生物薬学複合科目Ⅰ
３）転写因子による転写制御について説明できる。		細胞の分子生物学Ⅱ				
４）RNAのプロセシング（キャップ構造、スプライシング、snRNP、ポリA鎖など）について説明できる。	細胞の分子生物学Ⅰ					
５）RNAからタンパク質への翻訳の過程について説明できる。						
【⑤遺伝子の変異・修復】						
１）DNAの変異と修復について説明できる。		細胞の分子生物学Ⅱ				
【⑥組換えDNA】						
１）遺伝子工学技術（遺伝子クローニング、cDNAクローニング、PCR、組換えタンパク質発現法など）を概説できる。		細胞の分子生物学Ⅱ			生命薬学最前線Ⅰ、 生命薬学最前線Ⅱ	
２）遺伝子改変生物（遺伝子導入・欠損動物、クローン動物、遺伝子組換え植物）について概説できる。						

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該 当 科 目					
	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
（5）生体エネルギーと生命活動を支える代謝系						
【① 概論】						
1）エネルギー代謝の概要を説明できる。	細胞の分子生物学Ⅰ	生化学Ⅱ				生物薬学複合科目Ⅰ
【②ATP の産生と糖質代謝】						
1）解糖系及び乳酸の生成について説明できる。	細胞の分子生物学Ⅰ	生化学Ⅱ				生物薬学複合科目Ⅰ
2）クエン酸回路(TCA サイクル)について説明できる。						
3）電子伝達系（酸化的リン酸化）と ATP 合成酵素について説明できる。						
4）グリコーゲンの代謝について説明できる。						
5）糖新生について説明できる。						
【③脂質代謝】						
1）脂肪酸の生合成とβ酸化について説明できる。		生化学Ⅱ				生物薬学複合科目Ⅰ
2）コレステロールの生合成と代謝について説明できる。						
【④飢餓状態と飽食状態】						
1）飢餓状態のエネルギー代謝（ケトン体の利用など）について説明できる。		生化学Ⅱ				生物薬学複合科目Ⅰ
2）余剰のエネルギーを蓄えるしくみを説明できる。						
【⑤その他の代謝系】						
1）アミノ酸分子中の炭素および窒素の代謝（尿素回路など）について説明できる。		生化学Ⅱ				生物薬学複合科目Ⅰ
2）ヌクレオチドの生合成と分解について説明できる。						
3）ペントースリン酸回路について説明できる。						
（6）細胞間コミュニケーションと細胞内情報伝達						
【① 概論】						
1）細胞間コミュニケーションにおける情報伝達様式を説明できる。		細胞の分子生物学Ⅲ				
【②細胞内情報伝達】						
1）細胞膜チャネル内蔵型受容体を介する細胞内情報伝達について説明できる。		薬理学Ⅰ、 細胞の分子生物学Ⅲ	演習ⅢA			医療薬学複合科目Ⅰ
2）細胞膜受容体から G タンパク系を介する細胞内情報伝達について説明できる。						
3）細胞膜受容体タンパク質などのリン酸化を介する細胞内情報伝達について説明できる。						
4）細胞内情報伝達におけるセカンドメッセンジャーについて説明できる。						
5）細胞内（核内）受容体を介する細胞内情報伝達について説明できる。		細胞の分子生物学Ⅲ				
【③細胞間コミュニケーション】						
1）細胞間の接着構造、主な細胞接着分子の種類と特徴を説明できる。		細胞の分子生物学Ⅲ				
2）主な細胞外マトリックス分子の種類と特徴を説明できる。						
（7）細胞の分裂と死						
【①細胞分裂】						
1）細胞周期とその制御機構について説明できる。		細胞の分子生物学Ⅲ				
2）体細胞と生殖細胞の細胞分裂について説明できる。						
【②細胞死】						
1）細胞死（アポトーシスとネクローシス）について説明できる。		細胞の分子生物学Ⅲ				
【③がん細胞】						
1）正常細胞とがん細胞の違いについて説明できる。	細胞の分子生物学Ⅰ	細胞の分子生物学Ⅲ				
2）がん遺伝子とがん抑制遺伝子について概説できる。			衛生薬学Ⅳ			

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該 当 科 目					
	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
G7 人体の成り立ちと生体機能の調節						
（１）人体の成り立ち						
【①遺伝】						
１）遺伝子と遺伝のしくみについて概説できる。	細胞の分子生物学Ⅰ					
２）遺伝子多型について概説できる。			衛生薬学Ⅳ	生物薬剤学Ⅲ		
３）代表的な遺伝疾患を概説できる。			病態学Ⅱ			
【②発生】						
１）個体発生について概説できる。		細胞の分子生物学Ⅲ				
２）細胞の分化における幹細胞、前駆細胞の役割について概説できる。						
【③器官系概論】						
１）人体を構成する器官、器官系の名称、形態、体内での位置および機能を説明できる。	機能形態学					
２）組織、器官を構成する代表的な細胞の種類（上皮、内皮、間葉系など）を列挙し、形態的および機能的特徴を説明できる。						
３）実験動物・人体模型・シミュレーターなどを用いて各種臓器の名称と位置を確認できる。（技能）	実習ⅡB					
４）代表的な器官の組織や細胞を顕微鏡で観察できる。（技能）						
【④神経系】						
１）中枢神経系について概説できる。	機能形態学、 生理学	薬理学Ⅰ、 薬理学Ⅱ 薬理学Ⅰ	演習ⅢA			生物薬学複合科目Ⅰ、 医療薬学複合科目Ⅰ
２）末梢（体性・自律）神経系について概説できる。						
【⑤骨格系・筋肉系】						
１）骨、筋肉について概説できる。	機能形態学					
２）代表的な骨格筋および関節の名称を挙げ、位置を示すことができる。						
【⑥皮膚】						
１）皮膚について概説できる。	機能形態学					
【⑦循環器系】						
１）心臓について概説できる。	機能形態学		薬理学Ⅲ			生物薬学複合科目Ⅰ
２）血管系について概説できる。						
３）リンパ管系について概説できる。						
【⑧呼吸器系】						
１）肺、気管支について概説できる。	機能形態学					生物薬学複合科目Ⅰ
【⑨消化器系】						
１）胃、小腸、大腸などの消化管について概説できる。	機能形態学					生物薬学複合科目Ⅰ
２）肝臓、脾臓、胆嚢について概説できる。						
【⑩泌尿器系】						
１）泌尿器系について概説できる。	機能形態学、 生理学					生物薬学複合科目Ⅰ
【⑪生殖器系】						
１）生殖器系について概説できる。	機能形態学、 生理学					生物薬学複合科目Ⅰ
【⑫内分泌系】						
１）内分泌系について概説できる。	機能形態学、 生理学	実習ⅡB				生物薬学複合科目Ⅰ

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該 当 科 目					
	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
【⑬感覚器系】						
1）感覚器系について概説できる。	機能形態学					
【⑭血液・造血器系】						
1）血液・造血器系について概説できる。	機能形態学、生理学					生物薬学複合科目Ⅰ
(2) 生体機能の調節						
【①神経による調節機構】						
1）神経細胞の興奮と伝導、シナプス伝達の調節機構について説明できる。	生理学	薬理学Ⅰ、 薬理学Ⅱ	演習ⅢA			生物薬学複合科目Ⅰ、 医療薬学複合科目Ⅰ
2）代表的な神経伝達物質を挙げ、生理活性および作用機構について概説できる。						
3）神経系、感覚器を介するホメオスタシスの調節機構の代表例を列挙し、概説できる。					生物薬学複合科目Ⅰ	
4）神経による筋収縮の調節機構について説明できる。		薬理学Ⅰ	演習ⅢA			
【②ホルモン・内分泌系による調節機構】						
1）代表的なホルモンを挙げ、その産生器官、生理活性および作用機構について概説できる。	生理学	実習ⅡB				生物薬学複合科目Ⅰ
【③オートコイドによる調節機構】						
1）代表的なオートコイドを挙げ、生理活性および作用機構について概説できる。	生理学		薬理学Ⅲ			生物薬学複合科目Ⅰ
【④サイトカイン・増殖因子による調節機構】						
1）代表的なサイトカイン、増殖因子を挙げ、生理活性および作用機構について概説できる。			薬理学Ⅴ			
【⑤血圧の調節機構】						
1）血圧の調節機構について概説できる。	生理学	病態学Ⅰ、 薬理学Ⅰ、 薬理学Ⅲ				生物薬学複合科目Ⅰ
【⑥血糖の調節機構】						
1）血糖の調節機構について概説できる。	生理学	病態学Ⅰ				生物薬学複合科目Ⅰ
【⑦体液の調節】						
1）体液の調節機構について概説できる。	生理学	病態学Ⅰ				生物薬学複合科目Ⅰ
2）尿の生成機構、尿量の調節機構について概説できる。						
【⑧体温の調節】						
1）体温の調節機構について概説できる。	生理学	病態学Ⅰ				生物薬学複合科目Ⅰ
【⑨血液凝固・線溶系】						
1）血液凝固・線溶系の機構について概説できる。	生理学	病態学Ⅰ、 薬理学Ⅲ				生物薬学複合科目Ⅰ
【⑩性周期の調節】						
1）性周期の調節機構について概説できる。	生理学	病態学Ⅰ、 薬理学Ⅵ				生物薬学複合科目Ⅰ
C8 生体防御と微生物						
(1) 身体をまもる						
【① 生体防御反応】						
1）異物の侵入に対する物理的、生理的、化学的バリアー、および補体の役割について説明できる。			免疫学			
2）免疫反応の特徴（自己と非自己の識別、特異性、多様性、クローン性、記憶、寛容）を説明できる。						
3）自然免疫と獲得免疫、および両者の関係を説明できる。						
4）体液性免疫と細胞性免疫について説明できる。						

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該 当 科 目					
	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
【②免疫を担当する組織・細胞】						
1）免疫に関与する組織を列挙し、その役割を説明できる。			免疫学			
2）免疫担当細胞の種類と役割を説明できる。						
3）免疫反応における主な細胞間ネットワークについて説明できる。						
【③分子レベルで見た免疫のしくみ】						
1）自然免疫および獲得免疫における異物の認識を比較して説明できる。			免疫学			
2）MHC 抗原の構造と機能および抗原提示での役割について説明できる。						
3）T 細胞と B 細胞による抗原認識の多様性（遺伝子再構成）と活性化について説明できる。						
4）抗体分子の基本構造、種類、役割を説明できる。		細胞の分子生物学Ⅱ				
5）免疫系に関わる主なサイトカインを挙げ、その作用を概説できる。						
（2）免疫系の制御とその破綻・免疫系の応用						
【① 免疫応答の制御と破綻】						
1）炎症の一般的症状、担当細胞および反応機構について説明できる。			免疫学			
2）アレルギーを分類し、担当細胞および反応機構について説明できる。						
3）自己免疫疾患と免疫不全症候群について概説できる。						
4）臓器移植と免疫反応の関わり（拒絶反応、免疫抑制剤など）について説明できる。						
5）感染症と免疫応答との関わりについて説明できる。						
6）腫瘍排除に関与する免疫反応について説明できる。						
【② 免疫反応の利用】						
1）ワクチンの原理と種類（生ワクチン、不活化ワクチン、トキソイド、混合ワクチンなど）について説明できる。			免疫学			
2）モノクローナル抗体とポリクローナル抗体について説明できる。						
3）血清療法と抗体医薬について概説できる。						
4）抗原抗体反応を利用した検査方法（ELISA 法、ウエスタンブロット法など）を実施できる。（技能）						
（3）微生物の基本						
【① 総論】						
1）原核生物、真核生物およびウイルスの特徴を説明できる。			微生物学、 演習ⅢA			生物薬学複合科目Ⅰ
【② 細菌】						
1）細菌の分類や性質（系統学的分類、グラム陽性菌と陰性菌、好気性菌と嫌気性菌など）を説明できる。			微生物学、 演習ⅢA			生物薬学複合科目Ⅰ
2）細菌の構造と増殖機構について説明できる。			微生物学			
3）細菌の異化作用（呼吸と発酵）および同化作用について説明できる。						
4）細菌の遺伝子伝達（接合、形質導入、形質転換）について説明できる。						
5）薬剤耐性菌および薬剤耐性化機構について概説できる。			微生物学、 演習ⅢA			
6）代表的な細菌毒素について説明できる。			微生物学			
【③ ウィルス】						
1）ウィルスの構造、分類、および増殖機構について説明できる。			微生物学			生物薬学複合科目Ⅰ
【④ 真菌・原虫・蠕虫】						
1）真菌の性状を概説できる。			微生物学			
2）原虫および蠕虫の性状を概説できる。						

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該 当 科 目					
	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
【⑤ 消毒と滅菌】						
1) 滅菌、消毒および殺菌、静菌の概念を説明できる。	実習ⅠB		微生物学、 演習ⅢA			
2) 主な滅菌法および消毒法について説明できる。						
【⑥ 検出方法】						
1) グラム染色を実施できる。（技能）						
2) 無菌操作を実施できる。（技能）	実習ⅠB					
3) 代表的な細菌または真菌の分離培養、純培養を実施できる。（技能）						
（４）病原体としての微生物						
【①感染の成立と共生】						
1) 感染の成立（感染源、感染経路、侵入門戸など）と共生（腸内細菌など）について説明できる。			微生物学 薬理学Ⅴ			
2) 日和見感染と院内感染について説明できる。						
【②代表的な病原体】						
1) DNA ウイルス（ヒトヘルペスウイルス、アデノウイルス、パピローマウイルス、B 型肝炎ウイルスなど）について概説できる。			微生物学			生物薬学複合科目Ⅰ
2) RNA ウイルス（ノロウイルス、ロタウイルス、ポリオウイルス、コクサッキーウイルス、エコーウイルス、ライノウイルス、A型肝炎ウイルス、C 型肝炎ウイルス、インフルエンザウイルス、麻疹ウイルス、風疹ウイルス、日本脳炎ウイルス、狂犬病ウイルス、ムンプスウイルス、HIV、HTLV など）について概説できる。						
3) グラム陽性球菌（ブドウ球菌、レンサ球菌など）およびグラム陽性桿菌（破傷風菌、ガス壊疽菌、ボツリヌス菌、ジフテリア菌、炭疽菌、セレウス菌、ディフィシル菌など）について概説できる。						
4) グラム陰性球菌（淋菌、髄膜炎菌など）およびグラム陰性桿菌（大腸菌、赤痢菌、サルモネラ属菌、チフス菌、エルシニア属菌、クレブシエラ属菌、コレラ菌、百日咳菌、腸炎ビブリオ、緑膿菌、レジオネラ、インフルエンザ菌など）について概説できる。						
5) グラム陰性らせん菌（ヘリコバクター・ピロリ、カンピロバクター・ジェジュニ／コリなど）およびスピロヘータについて概説できる。						
6) 抗酸菌（結核菌、らい菌など）について概説できる。						
7) マイコプラズマ、リケッチア、クラミジアについて概説できる。						
8) 真菌（アスペルギルス、クリプトコックス、カンジダ、ムーコル、白黴菌など）について概説できる。						
9) 原虫（マラリア原虫、トキソプラズマ、腔トリコモナス、クリプトスポリジウム、赤痢アメーバなど）、蠕虫（回虫、鞭虫、アニサキス、エキノコックスなど）について概説できる。						
D 衛生薬学						
D1 健康						
（１）社会・集団と健康						
【①健康と疾病の概念】						
1) 健康と疾病の概念の変遷と、その理由を説明できる。			衛生薬学Ⅴ			応用衛生薬学Ⅱ
【②保健統計】						
1) 集団の健康と疾病の現状およびその影響要因を把握する上での人口統計の意義を概説できる。			衛生薬学Ⅴ			応用衛生薬学Ⅱ
2) 人口統計および傷病統計に関する指標について説明できる。						
3) 人口動態（死因別死亡率など）の変遷について説明できる。						
【③疫学】						
1) 疾病の予防における疫学の役割を説明できる。			衛生薬学Ⅴ			応用衛生薬学Ⅱ
2) 疫学の三要因（病因、環境要因、宿主要因）について説明できる。						
3) 疫学の種類（記述疫学、分析疫学など）とその方法について説明できる。						
4) リスク要因の評価として、オッズ比、相対危険度、寄与危険度および信頼区間について説明し、計算できる。（知識・技能）						

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該 当 科 目					
	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
（２）疾病の予防						
【①疾病の予防とは】						
１）疾病の予防について、一次、二次、三次予防という言葉を用いて説明できる。			衛生薬学Ⅴ			高齢者介護にかかわる、 応用衛生薬学Ⅱ
２）健康増進政策（健康日本２１など）について概説できる。						高齢者介護にかかわる
【②感染症とその予防】						
１）現代における感染症（日和見感染、院内感染、新興感染症、再興感染症など）の特徴について説明できる。			衛生薬学Ⅴ			応用衛生薬学Ⅱ
２）感染症法における、感染症とその分類について説明できる。						
３）代表的な性感染症を列挙し、その予防対策について説明できる。						高齢者介護にかかわる、 応用衛生薬学Ⅱ
４）予防接種の意義と方法について説明できる。						
【③生活習慣病とその予防】						
１）生活習慣病の種類とその動向について説明できる。			衛生薬学Ⅴ			高齢者介護にかかわる、 応用衛生薬学Ⅱ
２）生活習慣病の代表的なリスク要因を列挙し、その予防法について説明できる。						
３）食生活や喫煙などの生活習慣と疾病の関わりについて討議する。（態度）						
【④母子保健】						
１）新生児マスキューニングの意義について説明し、代表的な検査項目を列挙できる。			衛生薬学Ⅴ			応用衛生薬学Ⅱ
２）母子感染する代表的な疾患を列挙し、その予防対策について説明できる。						
【⑤労働衛生】						
１）代表的な労働災害、職業性疾病について説明できる。			衛生薬学Ⅴ			応用衛生薬学Ⅱ
２）労働衛生管理について説明できる。						
（３）栄養と健康						
【①栄養】						
１）五大栄養素を列挙し、それぞれの役割について説明できる。		衛生薬学Ⅰ	実習ⅢB	臨床薬学Ⅰ	臨床代謝栄養学、 栄養学特論	応用衛生薬学Ⅰ
２）各栄養素の消化、吸収、代謝のプロセスを概説できる。		生化学Ⅱ、 衛生薬学Ⅰ			栄養学特論	
３）食品中の三大栄養素の栄養的な価値を説明できる。		衛生薬学Ⅰ				
４）五大栄養素以外の食品成分（食物繊維、抗酸化物質など）の機能について説明できる。						
５）エネルギー代謝に関わる基礎代謝量、呼吸商、推定エネルギー必要量の意味を説明できる。				臨床薬学Ⅰ	臨床代謝栄養学、 栄養学特論	
６）日本人の食事摂取基準について説明できる。					栄養学特論	
７）栄養素の過不足による主な疾病を列挙し、説明できる。			臨床薬学Ⅰ	臨床代謝栄養学、 栄養学特論		
８）疾病治療における栄養の重要性を説明できる。			臨床薬学Ⅰ			
【②食品機能と食品衛生】						
１）炭水化物・タンパク質が変質する機構について説明できる。		衛生薬学Ⅰ	実習ⅢB、 演習ⅢB			応用衛生薬学Ⅰ
２）油脂が変敗する機構を説明し、油脂の変質試験を実施できる。（知識・技能）						
３）食品の変質を防ぐ方法（保存法）を説明できる。						
４）食品成分由来の発がん性物質を列挙し、その生成機構を説明できる。		衛生薬学Ⅱ				
５）代表的な食品添加物を用途別に列挙し、それらの働きを説明できる。		衛生薬学Ⅰ				
６）特別用途食品と保健機能食品について説明できる。						
７）食品衛生に関する法的規制について説明できる。		衛生薬学Ⅱ				

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該 当 科 目					
	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
【③食中毒と食品汚染】						
1）代表的な細菌性・ウイルス性食中毒を列挙し、それらの原因となる微生物の性質、症状、原因食品および予防方法について説明できる。		衛生薬学Ⅱ				応用衛生薬学Ⅰ
2）食中毒の原因となる代表的な自然毒を列挙し、その原因物質、作用機構、症状の特徴を説明できる。						薬剤師活動最前線、 応用衛生薬学Ⅰ
3）化学物質（重金属、残留農薬など）やカビによる食品汚染の具体例を挙げ、ヒトの健康に及ぼす影響を説明できる。						
D2 環境						
（１）化学物質・放射線の生体への影響						
【①化学物質の毒性】						
1）代表的な有害化学物質の吸収、分布、代謝、排泄の基本的なプロセスについて説明できる。			衛生薬学Ⅳ、 演習ⅢB			社会薬学複合科目Ⅰ
2）肝臓、腎臓、神経などに特異的に毒性を示す代表的な化学物質を列挙できる。						
3）重金属、PCB、ダイオキシンなどの代表的な有害化学物質や農薬の急性毒性、慢性毒性の特徴について説明できる。			衛生薬学Ⅳ			
4）重金属や活性酸素による障害を防ぐための生体防御因子について具体例を挙げて説明できる。			衛生薬学Ⅳ、 実習ⅢB			
5）薬物の乱用による健康への影響について説明し、討議する。（知識・態度）						社会薬学複合科目Ⅰ、 薬剤師活動最前線
6）代表的な中毒原因物質の解毒処置法を説明できる。						
7）代表的な中毒原因物質（乱用薬物を含む）の試験法を列挙し、概説できる。			衛生薬学Ⅳ、 実習ⅢB、 演習ⅢB			
【②化学物質の安全性評価と適正使用】						
1）個々の化学物質の使用目的に鑑み、適正使用とリスクコミュニケーションについて討議する。（態度）			衛生薬学Ⅳ			社会薬学複合科目Ⅰ
2）化学物質の毒性を評価するための主な試験法を列挙し、概説できる。						
3）毒性試験の結果を評価するのに必要な量-反応関係、閾値、無毒性量（NOAEL）などについて概説できる。						
4）化学物質の安全摂取量（1日許容摂取量など）について説明できる。						
5）有害化学物質による人体影響を防ぐための法的規制（化審法、化管法など）を説明できる。						
【③化学物質による発がん】						
1）発がん性物質などの代謝的活性化の機構を列挙し、その反応機構を説明できる。			衛生薬学Ⅳ			社会薬学複合科目Ⅰ
2）遺伝毒性試験（Ames試験など）の原理を説明できる。						
3）発がんに至る過程（イニシエーション、プロモーションなど）について概説できる。						
【④放射線の生体への影響】						
1）電離放射線を列挙し、生体への影響を説明できる。			衛生薬学Ⅳ			社会薬学複合科目Ⅰ
2）代表的な放射性核種（天然、人工）と生体との相互作用を説明できる。						
3）電離放射線を防御する方法について概説できる。						
4）非電離放射線（紫外線、赤外線など）を列挙し、生体への影響を説明できる。						
（２）生活環境と健康						
【①地球環境と生態系】						
1）地球規模の環境問題の成因、人に与える影響について説明できる。			衛生薬学Ⅲ			社会薬学複合科目Ⅰ
2）生態系の構成員を列挙し、その特徴と相互関係を説明できる。						
3）化学物質の環境内動態（生物濃縮など）について例を挙げて説明できる。						
4）地球環境の保全に関する国際的な取り組みについて説明できる。						
5）人が生態系の一員であることをふまえて環境問題を討議する。（態度）						

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該 当 科 目					
	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
【②環境保全と法的規制】						
1）典型七公害とその現状、および四大公害について説明できる。			衛生薬学Ⅲ			社会薬学複合科目Ⅰ
2）環境基本法の理念を説明できる。						
3）環境汚染（大気汚染、水質汚濁、土壌汚染など）を防止するための法規制について説明できる。						
【③水環境】						
1）原水の種類を挙げ、特徴を説明できる。			衛生薬学Ⅲ			社会薬学複合科目Ⅰ
2）水の浄化法、塩素処理について説明できる。			衛生薬学Ⅲ、 演習ⅢB			
3）水道水の水質基準の主な項目を列挙し、測定できる。（知識・技能）			衛生薬学Ⅲ、 実習ⅢB、 演習ⅢB			
4）下水処理および排水処理の主な方法について説明できる。			衛生薬学Ⅲ			
5）水質汚濁の主な指標を列挙し、測定できる。（知識・技能）			衛生薬学Ⅲ、 実習ⅢB、 演習ⅢB			
6）富栄養化の原因とそれによってもたらされる問題点を挙げ、対策を説明できる。			衛生薬学Ⅲ			
【④大気環境】						
1）主な大気汚染物質を列挙し、その推移と発生源、健康影響について説明できる。			衛生薬学Ⅲ、 演習ⅢB			社会薬学複合科目Ⅰ
2）主な大気汚染物質を測定できる。（技能）			実習ⅢB、 演習ⅢB			
3）大気汚染に影響する気象要因（逆転層など）を概説できる。			衛生薬学Ⅲ			
【⑤室内環境】						
1）室内環境を評価するための代表的な指標を列挙し、測定できる。（知識・技能）			衛生薬学Ⅲ、 実習ⅢB 演習ⅢB			社会薬学複合科目Ⅰ
2）室内環境と健康との関係について説明できる。			衛生薬学Ⅲ、 演習ⅢB			
【⑥廃棄物】						
1）廃棄物の種類と処理方法を列挙できる。			衛生薬学Ⅲ			社会薬学複合科目Ⅰ
2）廃棄物処理の問題点を列挙し、その対策を説明できる。						
3）マニフェスト制度について説明できる。						
E 医療薬学						
E1 薬の作用と体の変化						
（1）薬の作用						
【①薬の作用】						
1）薬の用量と作用の関係を説明できる。		薬理学Ⅰ	演習ⅢA			医療薬学複合科目Ⅰ
2）アゴニスト（作用薬、作動薬、刺激薬）とアンタゴニスト（拮抗薬、遮断薬）について説明できる。						
3）薬物が作用するしくみについて、受容体、酵素、イオンチャネルおよびトランスポーターを例に挙げて説明できる。						
4）代表的な受容体を列挙し、刺激あるいは遮断された場合の生理反応を説明できる。						
5）薬物の作用発現に関連する代表的な細胞内情報伝達系を列挙し、活性化あるいは抑制された場合の生理反応を説明できる。（C6(6)【②細胞内情報伝達】1.～5.参照）						

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該 当 科 目					
	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
6）薬物の体内動態（吸収、分布、代謝、排泄）と薬効発現の関わりについて説明できる。 （E4（1）【②吸収】、【③分布】、【④代謝】、【⑤排泄】参照）			生物薬剤学Ⅰ	生物薬剤学Ⅱ	製剤技術の最前線	医療薬学複合科目Ⅳ
7）薬物の選択（禁忌を含む）、用法、用量の変更が必要となる要因（年齢、疾病、妊娠等）について具体例を挙げて説明できる。				生物薬剤学Ⅲ		
8）薬理作用に由来する代表的な薬物相互作用を列挙し、その機序を説明できる。 （E4（1）【②吸収】5.【④代謝】5.【⑤排泄】5.参照）			生物薬剤学Ⅱ			
9）薬物依存性、耐性について具体例を挙げて説明できる。			衛生薬学Ⅳ			
【②動物実験】						
1）動物実験における倫理について配慮できる。（態度）		実習ⅡB				
2）実験動物を適正に取り扱うことができる。（技能）						
3）実験動物での代表的な投与方法が実施できる。（技能）						
【③日本薬局方】						
1）日本薬局方収載の生物学的定量法の特徴を説明できる。		日本薬局方Ⅰ				
（2）身体の病的変化を知る						
【①症候】						
1）以下の症候・病態について、生じる原因とそれらを伴う代表的疾患を挙げ、患者情報をもとに疾患を推測できる。 ショック、高血圧、低血圧、発熱、けいれん、意識障害・失神、チアノーゼ、脱水、全身倦怠感、肥満・やせ、黄疸、発疹、貧血、出血傾向、リンパ節腫脹、浮腫、心悸亢進・動悸、胸水、胸痛、呼吸困難、咳・痰、血痰・咯血、めまい、頭痛、運動麻痺・不随意運動・筋力低下、腹痛、悪心・嘔吐、嚥下困難・障害、食欲不振、下痢・便秘、吐血・下血、腹部膨満（腹水を含む）、タンパク尿、血尿、尿量・排尿の異常、月経異常、関節痛・関節腫脹、腰背部痛、記憶障害、知覚異常（しびれを含む）・神経痛、視力障害、聴力障害	病態学Ⅰ	病態学Ⅱ		患者の訴えから考える薬物治療	医療薬学複合科目Ⅲ	
【②病態・臨床検査】						
1）尿検査および糞便検査の検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。		病態学Ⅰ	病態学Ⅱ			医療薬学複合科目Ⅲ
2）血液検査、血液凝固機能検査および脳脊髄液検査の検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。						医療薬学複合科目Ⅲ 薬学総合科目Ⅱ
3）血液生化学検査の検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。				臨床薬学Ⅰ	臨床代謝栄養学	
4）免疫学的検査の検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。						医療薬学複合科目Ⅲ
5）動脈血ガス分析の検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。						
6）代表的な生理機能検査（心機能、腎機能、肝機能、呼吸機能等）、病理組織検査および画像検査の検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。						
7）代表的な微生物検査の検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。						
8）代表的なフィジカルアセスメントの検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。						
（3）薬物治療の位置づけ						
1）代表的な疾患における薬物治療、食事療法、その他の非薬物治療（外科手術など）の位置づけを説明できる。				臨床薬学Ⅰ	臨床代謝栄養学	
2）代表的な疾患における薬物治療の役割について、病態、薬効薬理、薬物動態に基づいて討議する。（知識・技能）				実習Ⅳ、事前実習		
（4）医薬品の安全性						
1）薬物の主作用と副作用、毒性との関連について説明できる。			薬理学Ⅴ			医療薬学複合科目Ⅰ
2）薬物の副作用と有害事象の違いについて説明できる。						
3）以下の障害を呈する代表的な副作用疾患について、推定される原因医薬品、身体所見、検査所見および対処方法を説明できる。 血液障害・電解質異常、肝障害、腎障害、消化器障害、循環器障害、精神障害、皮膚障害、呼吸器障害、薬物アレルギー（ショックを含む）、代謝障害、筋障害						
4）代表的薬害、薬物乱用について、健康リスクの観点から討議する。（態度）						

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該 当 科 目					
	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
E2 薬理・病態・薬物治療						
（１）神経系の疾患と薬						
【①自律神経系に作用する薬】						
１）交感神経系に作用し、その支配器官の機能を修飾する代表的な薬物を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用を説明できる。		薬理学Ⅰ	演習ⅢA			医療薬学複合科目Ⅰ
２）副交感神経系に作用し、その支配器官の機能を修飾する代表的な薬物を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用を説明できる。						
３）神経節に作用する代表的な薬物を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用を説明できる。						
４）自律神経系に作用する代表的な薬物の効果を動物実験で測定できる。（技能）						
【②体性神経系に作用する薬・筋の疾患の薬、病態、治療】						
１）知覚神経に作用する代表的な薬物（局所麻酔薬など）を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用を説明できる。		薬理学Ⅱ				医療薬学複合科目Ⅰ
２）運動神経系に作用する代表的な薬物を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用を説明できる。		薬理学Ⅰ	演習ⅢA			
３）知覚神経、運動神経に作用する代表的な薬物の効果を動物実験で測定できる。（技能）						
４）以下の疾患について説明できる。 進行性筋ジストロフィー、Guillain-Barré（ギラン・バレー）症候群、重症筋無力症（重複）		薬理学Ⅰ				医療薬学複合科目Ⅰ
【③中枢神経系の疾患の薬、病態、治療】						
１）全身麻酔薬、催眠薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）および臨床適用を説明できる。		薬理学Ⅱ	病態治療学Ⅰ			医療薬学複合科目Ⅰ
２）麻薬性鎮痛薬、非麻薬性鎮痛薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）および臨床適用（WHO三段階除痛ラダーを含む）を説明できる。						
３）中枢興奮薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）および臨床適用を説明できる。						
４）統合失調症について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。				臨床薬学Ⅰ		薬剤師活動最前線、 医療薬学複合科目Ⅰ
５）うつ病、躁うつ病（双極性障害）について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。						
６）不安神経症（パニック障害と全般性不安障害）、心身症、不眠症について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。						
７）てんかんについて、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。						
８）脳血管疾患（脳内出血、脳梗塞（脳血栓、脳塞栓、一過性脳虚血）、くも膜下出血）について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。				臨床薬学Ⅰ		
９）Parkinson（パーキンソン）病について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。						
10）認知症（Alzheimer（アルツハイマー）型認知症、脳血管性認知症等）について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。						
11）片頭痛について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）について説明できる。						医療薬学複合科目Ⅰ
12）中枢神経系に作用する薬物の効果を動物実験で測定できる。（技能）						
13）中枢神経系疾患の社会生活への影響および薬物治療の重要性について討議する。（態度）						
14）以下の疾患について説明できる。 脳炎・髄膜炎（重複）、多発性硬化症（重複）、筋萎縮性側索硬化症、Narcolepsy（ナルコレプシー）、薬物依存症、アルコール依存症		薬理学Ⅱ				
【④化学構造と薬効】						
１）神経系の疾患に用いられる代表的な薬物の基本構造と薬効（薬理・薬物動態）の関連を概説できる。		薬理学Ⅱ				医療薬学複合科目Ⅰ

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該 当 科 目					
	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
（２）免疫・炎症・アレルギーおよび骨・関節の疾患と薬						
【①抗炎症薬】						
１）抗炎症薬（ステロイド性および非ステロイド性）および解熱性鎮痛薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）および臨床適用を説明できる。			薬理学Ⅳ	病態治療学Ⅱ		医療薬学複合科目Ⅲ
２）抗炎症薬の作用機序に基づいて炎症について説明できる。						
３）創傷治癒の過程について説明できる。						
【②免疫・炎症・アレルギー疾患の薬、病態、治療】						
１）アレルギー治療薬（抗ヒスタミン薬、抗アレルギー薬等）の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）および臨床適用を説明できる。			薬理学Ⅳ	病態治療学Ⅱ		応用薬理Ⅰ、 医療薬学複合科目Ⅲ、 薬学総合科目Ⅱ
２）免疫抑制薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）および臨床適用を説明できる。						医療薬学複合科目Ⅲ、 薬学総合科目Ⅱ
３）以下のアレルギー疾患について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 アトピー性皮膚炎、蕁麻疹、接触性皮膚炎、アレルギー性鼻炎、アレルギー性結膜炎、花粉症、消化管アレルギー、気管支喘息（重複）						
４）以下の薬物アレルギーについて、原因薬物、病態（病態生理、症状等）および対処法を説明できる。 Stevens-Johnson（スティーブンス-ジョンソン）症候群、中毒性表皮壊死症（重複）、薬剤性過敏症症候群、薬疹						医療薬学複合科目Ⅲ
５）アナフィラキシーショックについて、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。		薬理学Ⅰ				医療薬学複合科目Ⅲ、 薬学総合科目Ⅱ
６）以下の疾患について、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 尋常性乾癬、水疱症、光線過敏症、パーチエツト病						医療薬学複合科目Ⅲ
７）以下の臓器特異的自己免疫疾患について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 バセドウ病（重複）、橋本病（重複）、悪性貧血（重複）、アジソン病、Ⅰ型糖尿病（重複）、重症筋無力症、多発性硬化症、特発性血小板減少性紫斑病、自己免疫性溶血性貧血（重複）、シェーグレン症候群			薬理学Ⅳ	病態治療学Ⅱ		
８）以下の全身性自己免疫疾患について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 全身性エリテマトーデス、強皮症、多発筋炎／皮膚筋炎、関節リウマチ（重複）				病態治療学Ⅱ、 臨床薬学Ⅰ		
９）臓器移植（腎臓、肝臓、骨髄、臍帯血、輸血）について、拒絶反応および移植片対宿主病（GVHD）の病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。				病態治療学Ⅱ		
【③骨・関節・カルシウム代謝疾患の薬、病態、治療】						
１）関節リウマチについて、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。			薬理学Ⅳ	臨床薬学Ⅰ		医療薬学複合科目Ⅲ、 薬学総合科目Ⅱ
２）骨粗鬆症について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。				病態治療学Ⅳ、 臨床薬学Ⅰ		
３）変形性関節症について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。				病態治療学Ⅱ		
４）カルシウム代謝の異常を伴う疾患（副甲状腺機能亢進（低下）症、骨軟化症（くる病を含む）、悪性腫瘍に伴う高カルシウム血症）について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。				病態治療学Ⅵ		
【④化学構造と薬効】						
１）免疫・炎症・アレルギー疾患に用いられる代表的な薬物の基本構造と薬効（薬理・薬物動態）の関連を概説できる。				病態治療学Ⅱ		

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該 当 科 目					
	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
（３）循環器系・血液系・造血管系・泌尿器系・生殖器系の疾患と薬						
【①循環器系疾患の薬、病態、治療】						
１）以下の不整脈および関連疾患について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 不整脈の例示：上室性期外収縮（PAC）、心室性期外収縮（PVC）、心房細動（Af）、発作性上室頻拍（PSVT）、WPW症候群、心室頻拍（VT）、心室細動（Vf）、房室ブロック、QT延長症候群			薬理学Ⅲ	病態治療学Ⅲ		応用薬理Ⅱ、 医療薬学複合科目Ⅲ
２）急性および慢性心不全について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。	薬理学Ⅰ					
３）虚血性心疾患（狭心症、心筋梗塞）について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。				病態治療学Ⅲ、 臨床薬学Ⅰ		応用薬理Ⅱ、 薬剤師活動最前線
４）以下の高血圧症について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 本態性高血圧症、二次性高血圧症（腎性高血圧症、腎血管性高血圧症を含む）	薬理学Ⅰ					応用薬理Ⅱ
５）以下の疾患について概説できる。 閉塞性動脈硬化症（ASO）、心原性ショック、弁膜症、先天性心疾患				病態治療学Ⅲ		
６）循環器系に作用する薬物の効果を動物実験で測定できる。（技能）						
【②血液・造血管系疾患の薬、病態、治療】						
１）止血薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）および臨床適用を説明できる。			病態治療学Ⅰ、 薬理学Ⅲ			応用薬理Ⅱ
２）抗血栓薬、抗凝固薬および血栓溶解薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）および臨床適用を説明できる。				臨床薬学Ⅰ		
３）以下の貧血について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 鉄欠乏性貧血、巨赤芽球性貧血（悪性貧血等）、再生不良性貧血、自己免疫性溶血性貧血（AIHA）、腎性貧血、鉄芽球性貧血			病態治療学Ⅰ			
４）播種性血管内凝固症候群（DIC）について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。						
５）以下の疾患について治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 血友病、血栓性血小板減少性紫斑病（TTP）、白血球減少症、血栓塞栓症、白血病（重複）、悪性リンパ腫（重複） （E2（7）【⑧悪性腫瘍の薬、病態、治療】参照）						
【③泌尿器系、生殖器系疾患の薬、病態、薬物治療】						
１）利尿薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）および臨床適用を説明できる。			薬理学Ⅲ	病態治療学Ⅲ		応用薬理Ⅱ
２）急性および慢性腎不全について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。			病態学Ⅱ	薬理学Ⅵ、 病態治療学Ⅲ		
３）ネフローゼ症候群について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。						
４）過活動膀胱および低活動膀胱について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。	薬理学Ⅰ			病態治療学Ⅲ		医療薬学複合科目Ⅰ
５）以下の泌尿器系疾患について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 慢性腎臓病（CKD）、糸球体腎炎（重複）、糖尿病性腎症（重複）、薬剤性腎症（重複）、腎盂腎炎（重複）、膀胱炎（重複）、尿路感染症（重複）、尿路結石				病態治療学Ⅲ、 臨床薬学Ⅰ		
６）以下の生殖器系疾患について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 前立腺肥大症、子宮内膜症、子宮筋腫	薬理学Ⅰ				薬理学Ⅵ	医療薬学複合科目Ⅰ、 医療薬学複合科目Ⅱ
７）妊娠・分娩・避妊に関連して用いられる薬物について、薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。						
８）以下の生殖器系疾患について説明できる。 異常妊娠、異常分娩、不妊症	薬理学Ⅰ					医療薬学複合科目Ⅰ、 医療薬学複合科目Ⅱ
【④化学構造と薬効】						
１）循環系・泌尿器系・生殖器系疾患の疾患に用いられる代表的な薬物の基本構造と薬効（薬理・薬物動態）の関連を概説できる。				病態治療学Ⅲ		

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該 当 科 目					
	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
（４）呼吸器系・消化器系の疾患と薬						
【①呼吸器系疾患の薬、病態、治療】						
１）気管支喘息について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。		薬理学Ⅰ		病態治療学Ⅲ		医療薬学複合科目Ⅲ
２）慢性閉塞性肺疾患および喫煙に関連する疾患（ニコチン依存症を含む）について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。		薬理学Ⅱ	薬理学Ⅳ			医療薬学複合科目Ⅰ
３）間質性肺炎について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。						
４）鎮咳薬、去痰薬、呼吸興奮薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）および臨床適用を説明できる。		薬理学Ⅱ	薬理学Ⅳ			
【②消化器系疾患の薬、病態、治療】						
１）以下の上部消化器疾患について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 胃食道逆流症（逆流性食道炎を含む）、消化性潰瘍、胃炎				薬理学Ⅵ、 病態治療学Ⅳ、 臨床薬学Ⅰ		応用薬理Ⅱ
２）炎症性腸疾患（潰瘍性大腸炎、クローン病等）について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。				薬理学Ⅵ、 病態治療学Ⅱ、 病態治療学Ⅳ、 臨床薬学Ⅰ		医療薬学複合科目Ⅱ、 医療薬学複合科目Ⅲ、 応用薬理Ⅱ
３）肝疾患（肝炎、肝硬変（ウイルス性を含む）、薬剤性肝障害）について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。				薬理学Ⅵ、 病態治療学Ⅳ		医療薬学複合科目Ⅱ、 応用薬理Ⅱ
４）膵炎について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。						
５）胆道疾患（胆石症、胆道炎）について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。						
６）機能的消化管障害（過敏性腸症候群を含む）について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。						
７）便秘・下痢について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。		薬理学Ⅰ				
８）悪心・嘔吐について、治療薬および関連薬物（催吐薬）の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。		薬理学Ⅱ				
９）痔について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。						
【③化学構造と薬効】						
１）呼吸器系・消化器系の疾患に用いられる代表的な薬物の基本構造と薬効（薬理・薬物動態）の関連を概説できる。		薬理学Ⅰ		病態治療学Ⅲ		
（５）代謝系・内分泌系の疾患と薬						
【①代謝系疾患の薬、病態、治療】						
１）糖尿病とその合併症について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。			薬理学Ⅳ	病態治療学Ⅳ、 臨床薬学Ⅰ	代謝疾患治療薬の最前線	医療薬学複合科目Ⅱ、 応用薬理Ⅱ
２）脂質異常症について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。						
３）高尿酸血症・痛風について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。				病態治療学Ⅳ		
【②内分泌系疾患の薬、病態、治療】						
１）性ホルモン関連薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）および臨床適用を説明できる。			薬理学Ⅴ	薬理学Ⅵ、 病態治療学Ⅳ		医療薬学複合科目Ⅰ

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該 当 科 目					
	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
2）Basedow（バセドウ）病について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。				薬理学Ⅵ、 病態治療学Ⅳ、 臨床薬学Ⅰ		
3）甲状腺炎（慢性（橋本病）、亜急性）について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。						
4）尿崩症について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。				薬理学Ⅵ、 病態治療学Ⅳ		
5）以下の疾患について説明できる。 先端巨大症、高プロラクチン血症、下垂体機能低下症、ADH不適合分泌症候群（SIADH）、副甲状腺機能亢進症・低下症、Cushing（クッシング）症候群、アルドステロン症、褐色細胞腫、副腎不全（急性、慢性）、子宮内膜症（重複）、アジソン病（重複）				病態治療学Ⅳ		
【③化学構造と薬効】						
1）代謝系・内分布系の疾患に用いられる代表的な薬物の基本構造と薬効（薬理・薬物動態）の関連を概説できる。				薬理学Ⅵ		
（6）感覚器・皮膚の疾患と薬						
【①眼疾患の薬、病態、治療】						
1）緑内障について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。		薬理学Ⅰ		病態治療学Ⅴ		医療薬学複合科目Ⅰ、 医療薬学複合科目Ⅱ、 医療薬学複合科目Ⅲ
2）白内障について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。				薬理学Ⅵ、 病態治療学Ⅴ		
3）加齢性黄斑変性について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。						
4）以下の疾患について概説できる。 結膜炎（重複）、網膜炎、ぶどう膜炎、網膜色素変性症				病態治療学Ⅴ		医療薬学複合科目Ⅱ、 医療薬学複合科目Ⅲ
【②耳鼻咽喉疾患の薬、病態、治療】						
1）めまい（動揺病、Meniere（メニエール）病等）について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。				薬理学Ⅵ、 病態治療学Ⅴ		医療薬学複合科目Ⅲ
2）以下の疾患について概説できる。 アレルギー性鼻炎（重複）、花粉症（重複）、副鼻腔炎（重複）、中耳炎（重複）、口内炎・咽頭炎・扁桃腺炎（重複）、喉頭蓋炎				病態治療学Ⅴ		
【③皮膚疾患の薬、病態、治療】						
1）アトピー性皮膚炎について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 （E2（2）【②免疫・炎症・アレルギーの薬、病態、治療】参照）				薬理学Ⅵ、 病態治療学Ⅱ、 病態治療学Ⅴ		医療薬学複合科目Ⅲ
2）皮膚真菌症について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 （E2（7）【⑤真菌感染症の薬、病態、治療】参照）				病態治療学Ⅴ		
3）褥瘡について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。				薬理学Ⅵ、 病態治療学Ⅴ		
4）以下の疾患について概説できる。 蕁麻疹（重複）、薬疹（重複）、水疱症（重複）、乾癬（重複）、接触性皮膚炎（重複）、光線過敏症（重複）						
【④化学構造と薬効】						
1）感覚器・皮膚の疾患に用いられる代表的な薬物の基本構造と薬効（薬理・薬物動態）の関連を概説できる。		薬理学Ⅰ				
（7）病原微生物（感染症）・悪性新生物（がん）と薬						
【①抗菌薬】						
1）以下の抗菌薬の薬理（薬理作用、機序、抗菌スペクトル、主な副作用、相互作用、組織移行性）および臨床適用を説明できる。 β-ラクタム系、テトラサイクリン系、マクロライド系、アミノ配糖体（アミノグリコシド）系、キノロン系、グリコペプチド系、抗結核薬、サルファ剤（ST合剤を含む）、その他の抗菌薬			薬理学Ⅴ			応用薬理Ⅰ、 医療薬学複合科目Ⅲ
2）細菌感染症に関係する代表的な生物学的製剤（ワクチン等）を挙げ、その作用機序を説明できる。				事前実習		

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該 当 科 目					
	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
【②抗菌薬の耐性】						
1）主要な抗菌薬の耐性獲得機構および耐性菌出現への対応を説明できる。			薬理学Ⅴ			応用薬理Ⅰ、 医療薬学複合科目Ⅲ
【③細菌感染症の薬、病態、治療】						
1）以下の呼吸器感染症について、病態（病態生理、症状等）、感染経路と予防方法および薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 上気道炎（かぜ症候群（大部分がウイルス感染症を含む）、気管支炎、扁桃炎、細菌性肺炎、肺結核、レジオネラ感染症、百日咳、マイコプラズマ肺炎				病態治療学Ⅴ、 臨床薬学Ⅰ		医療薬学複合科目Ⅲ
2）以下の消化器感染症について、病態（病態生理、症状等）および薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 急性虫垂炎、胆嚢炎、胆管炎、病原性大腸菌感染症、食中毒、ヘリコバクター・ピロリ感染症、赤痢、コレラ、腸チフス、パラチフス、偽膜性大腸炎						
3）以下の感覚器感染症について、病態（病態生理、症状等）および薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 副鼻腔炎、中耳炎、結膜炎						
4）以下の尿路感染症について、病態（病態生理、症状等）および薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 腎盂腎炎、膀胱炎、尿道炎						
5）以下の性感染症について、病態（病態生理、症状等）、予防方法および薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 梅毒、淋病、クラミジア症等						
6）脳炎、髄膜炎について、病態（病態生理、症状等）および薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。				病態治療学Ⅴ		
7）以下の皮膚細菌感染症について、病態（病態生理、症状等）および薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 伝染性膿痂疹、丹毒、癰、毛囊炎、ハンセン病						
8）感染性心内膜炎、胸膜炎について、病態（病態生理、症状等）および薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。						
9）以下の薬剤耐性菌による院内感染について、感染経路と予防方法、病態（病態生理、症状等）および薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 MRSA、VRE、セラチア、緑膿菌等			薬理学Ⅴ			応用薬理Ⅰ、 医療薬学複合科目Ⅲ
10）以下の全身性細菌感染症について、病態（病態生理、症状等）、感染経路と予防方法および薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 ジフテリア、劇症型A群β溶血性連鎖球菌感染症、新生児B群連鎖球菌感染症、破傷風、敗血症						医療薬学複合科目Ⅲ
【④ウイルス感染症およびプリオン病の薬、病態、治療】						
1）ヘルペスウイルス感染症（単純ヘルペス、水痘・帯状疱疹）について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、予防方法および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。			薬理学Ⅴ	病態治療学Ⅴ		応用薬理Ⅰ、 医療薬学複合科目Ⅲ
2）サイトメガロウイルス感染症について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。						
3）インフルエンザについて、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、感染経路と予防方法および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。				病態治療学Ⅴ、 臨床薬学Ⅰ		
4）ウイルス性肝炎（HAV、HBV、HCV）について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、感染経路と予防方法および病態（病態生理（急性肝炎、慢性肝炎、肝硬変、肝細胞がん）、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。（重複）						
5）後天性免疫不全症候群（AIDS）について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、感染経路と予防方法および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。				病態治療学Ⅱ、 病態治療学Ⅴ		
6）以下のウイルス感染症（プリオン病を含む）について、感染経路と予防方法および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 伝染性紅斑（リンゴ病）、手足口病、伝染性単核球症、突発性発疹、咽頭結膜熱、ウイルス性下痢症、麻疹、風疹、流行性耳下腺炎、風邪症候群、Creutzfeldt-Jakob（クロイツフェルト・ヤコブ）病				病態治療学Ⅴ		医療薬学複合科目Ⅲ

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該 当 科 目					
	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
【⑤真菌感染症の薬、病態、治療】						
1）抗真菌薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）および臨床適用を説明できる。			薬理学Ⅴ			応用薬理Ⅰ、 医療薬学複合科目Ⅲ
2）以下の真菌感染症について、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 皮膚真菌症、カンジダ症、ニューモシスチス肺炎、肺アスペルギルス症、クリプトコックス症				病態治療学Ⅴ		
【⑥原虫・寄生虫感染症の薬、病態、治療】						
1）以下の原虫感染症について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 マラリア、トキソプラズマ症、トリコモナス症、アメーバ赤痢			薬理学Ⅴ	病態治療学Ⅴ		応用薬理Ⅰ、 医療薬学複合科目Ⅲ
2）以下の寄生虫感染症について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 回虫症、蟯虫症、アニサキス症						
【⑦悪性腫瘍】						
1）腫瘍の定義（良性腫瘍と悪性腫瘍の違い）を説明できる。			薬理学Ⅴ	病態治療学Ⅵ		応用薬理Ⅰ、 医療薬学複合科目Ⅲ
2）悪性腫瘍について、以下の項目を概説できる。 組織型分類および病期分類、悪性腫瘍の検査（細胞診、組織診、画像診断、腫瘍マーカー（腫瘍関連の変異遺伝子、遺伝子産物を含む））、悪性腫瘍の疫学（がん罹患の現状およびがん死亡の現状）、悪性腫瘍のリスクおよび予防要因						
3）悪性腫瘍の治療における薬物治療の位置づけを概説できる。				病態治療学Ⅵ、 臨床薬学Ⅰ	がん薬物治療最前線	
【⑧悪性腫瘍の薬、病態、治療】						
1）以下の抗悪性腫瘍薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用、相互作用、組織移行性）および臨床適用を説明できる。 アルキル化薬、代謝拮抗薬、抗腫瘍抗生物質、微小管阻害薬、トポイソメラーゼ阻害薬、抗腫瘍ホルモン関連薬、白金製剤、分子標的治療薬、その他の抗悪性腫瘍薬			薬理学Ⅴ	病態治療学Ⅱ		応用薬理Ⅰ、 医療薬学複合科目Ⅲ
2）抗悪性腫瘍薬に対する耐性獲得機構を説明できる。						
3）抗悪性腫瘍薬の主な副作用（下痢、悪心・嘔吐、白血球減少、皮膚障害（手足症候群を含む）、血小板減少等）の軽減のための対処法を説明できる。				病態治療学Ⅵ、 臨床薬学Ⅰ		薬剤師活動最前線、 応用薬理Ⅰ、 医療薬学複合科目Ⅲ
4）代表的ながん化学療法のレジメン（FOLFOX等）について、構成薬物およびその役割、副作用、対象疾患を概説できる。					がん薬物治療最前線	応用薬理Ⅰ、 医療薬学複合科目Ⅲ
5）以下の白血病について、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 急性（慢性）骨髄性白血病、急性（慢性）リンパ性白血病、成人T細胞白血病（ATL）				病態治療学Ⅵ		
6）悪性リンパ腫および多発性骨髄腫について、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。						
7）骨肉腫について、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。						
8）以下の消化器系の悪性腫瘍について、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 胃癌、食道癌、肝癌、大腸癌、胆嚢・胆管癌、膵癌				病態治療学Ⅵ、 臨床薬学Ⅰ	がん薬物治療最前線	
9）肺癌について、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。			薬理学Ⅴ		医療薬学複合科目Ⅲ	
10）以下の頭頸部および感覚器の悪性腫瘍について、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 脳腫瘍、網膜芽細胞腫、喉頭、咽頭、鼻腔・副鼻腔、口腔の悪性腫瘍				病態治療学Ⅵ		
11）以下の生殖器の悪性腫瘍について、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 前立腺癌、子宮癌、卵巣癌						
12）腎・尿路系の悪性腫瘍（腎癌、膀胱癌）について、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。						
13）乳癌について、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。			薬理学Ⅴ			がん薬物治療最前線

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該 当 科 目					
	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
【⑨がん終末期医療と緩和ケア】						
１）がん終末期の病態（病態生理、症状等）と治療を説明できる。				病態治療学Ⅵ	がんと緩和医療薬学Ⅰ、 がんと緩和医療薬学Ⅱ	
２）がん性疼痛の病態（病態生理、症状等）と薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。		薬理学Ⅱ				医療薬学複合科目Ⅰ、 応用薬理Ⅰ
【⑩化学構造と薬効】						
１）病原微生物・悪性新生物に関わる疾患に用いられる代表的な薬物の基本構造と薬効（薬理・薬物動態）の関連を概説できる。						応用薬理Ⅰ
（８）バイオ・細胞医薬品とゲノム情報						
【①組換え体医薬品】						
１）組換え体医薬品の特色と有用性を説明できる。			薬理学Ⅳ			
２）代表的な組換え体医薬品を列挙できる。						
３）組換え体医薬品の安全性について概説できる。						
【②遺伝子治療】						
１）遺伝子治療の原理、方法と手順、現状、および倫理的問題点を概説できる。（知識・態度）				病態治療学Ⅵ	がん薬物治療最前線	
【③細胞、組織を利用した移植医療】						
１）移植医療の原理、方法と手順、現状およびゲノム情報の取り扱いに関する倫理的問題点を概説できる。（知識・態度）	ヒューマニズム					
２）摘出および培養組織を用いた移植医療について説明できる。						
３）臍帯血、末梢血および骨髄に由来する血液幹細胞を用いた移植医療について説明できる。				病態治療学Ⅵ		
４）胚性幹細胞（ES細胞）、人工多能性幹細胞（iPS細胞）を用いた細胞移植医療について概説できる。						
（９）要指導医薬品・一般用医薬品とセルフメディケーション						
１）地域における疾病予防、健康維持増進、セルフメディケーションのために薬剤師が果たす役割を概説できる。					セルフメディケーション	高齢者介護にかかわる、 薬学総合科目Ⅱ
２）要指導医薬品および一般用医薬品（リスクの程度に応じた区分（第一類、第二類、第三類）も含む）について説明し、各分類に含まれる代表的な製剤を列挙できる。						
３）代表的な症候について、関連する頻度の高い疾患、見逃してはいけない疾患を列挙できる。						高齢者介護にかかわる
４）要指導医薬品・一般用医薬品の選択、受診勧奨の要否を判断するために必要な患者情報を収集できる。（技能）						
５）以下の疾患・症候に対するセルフメディケーションに用いる要指導医薬品・一般用医薬品等に含まれる成分・作用・副作用を列挙できる。 発熱、痛み、かゆみ、消化器症状、アレルギー、細菌・真菌感染症、生活習慣病 等						
６）主な養生法（運動・食事療法、サプリメント、保健機能食品を含む）とその健康の保持・促進における意義を説明できる。						
７）要指導医薬品・一般用医薬品と医療用医薬品、サプリメント、保健機能食品等との代表的な相互作用を説明できる。						
８）要指導医薬品・一般用医薬品等による治療効果と副作用を判定するための情報を収集し評価できる。（技能）						
（10）医療の中の漢方薬						
【①漢方薬の基礎】						
１）漢方の特徴について概説できる。			調剤学	漢方医薬学	セルフメディケーション	高齢者介護にかかわる
２）以下の漢方の基本用語を説明できる。 陰陽、虚実、寒熱、表裏、気血水、証						
３）配合生薬の組み合わせによる漢方薬の系統的な分類が説明できる。						
４）漢方薬と西洋薬、民間薬、サプリメント、保健機能食品などとの相違について説明できる。					セルフメディケーション	

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該 当 科 目					
	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
【②漢方薬の応用】						
1）漢方医学における診断法、体質や病態の捉え方、治療法について概説できる。				漢方医薬学		
2）日本薬局方に収載される漢方薬の適応となる証、症状や疾患について例示して説明できる。						
3）現代医療における漢方薬の役割について説明できる。						
【③漢方薬の注意点】						
1）漢方薬の副作用と使用上の注意点を例示して説明できる。			調剤学	漢方医薬学	セルフメディケーショ ン	高齢者介護にかかわる
(11) 薬物治療の最適化						
【①総合演習】						
1）代表的な疾患の症例について、患者情報および医薬品情報などの情報に基づいて薬物治療の最適化を討議する。（知識・態度）					感染症について学ぶ	高齢者介護にかかわる
2）過剰量の医薬品による副作用への対応（解毒薬を含む）を討議する。（知識・態度）				中毒学と放射薬化学、 実習ⅢB		
3）長期療養に付随する合併症を列挙し、その薬物治療について討議する。（知識・態度）				臨床薬学Ⅱ		
E3 薬物治療に役立つ情報						
（1）医薬品情報						
【①情報】						
1）医薬品を使用したり取り扱う上で、必須の医薬品情報を列挙できる。			医薬品情報			
2）医薬品情報に関わっている職種を列挙し、その役割について概説できる。						
3）医薬品（後発医薬品等を含む）の開発過程で行われる試験（非臨床試験、臨床試験、安定性試験等）と得られる医薬品情報について概説できる。						
4）医薬品の市販後に行われる調査・試験と得られる医薬品情報について概説できる。						
5）医薬品情報に関係する代表的な法律・制度（「医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律」、GCP、GVP、GPSP、RMP など）とレギュラトリーサイエンスについて概説できる。						
【②情報源】						
1）医薬品情報源の一次資料、二次資料、三次資料の分類について概説できる。			医薬品情報			
2）医薬品情報源として代表的な二次資料、三次資料を列挙し、それらの特徴について説明できる。						
3）厚生労働省、医薬品医療機器総合機構、製薬企業などの発行する資料を列挙し、概説できる。						
4）医薬品添付文書（医療用、一般用）の法的位置づけについて説明できる。						
5）医薬品添付文書（医療用、一般用）の記載項目（警告、禁忌、効能・効果、用法・用量、使用上の注意など）を列挙し、それらの意味や記載すべき内容について説明できる。						
6）医薬品インタビューフォームの位置づけと医薬品添付文書との違いについて説明できる。						
【③収集・評価・加工・提供・管理】						
1）目的（効能効果、副作用、相互作用、薬剤鑑別、妊婦への投与、中毒など）に合った適切な情報源を選択し、必要な情報を検索、収集できる。（技能）			医薬品情報		エビデンスに基づいた 薬物治療Ⅰ、 エビデンスに基づいた 薬物治療Ⅱ	
2）MEDLINEなどの医学・薬学文献データベース検索におけるキーワード、シソーラスの重要性を理解し、検索できる。（知識・技能）						
3）医薬品情報の信頼性、科学的妥当性などを評価する際に必要な基本的項目を列挙できる。						
4）臨床試験などの原著論文および三次資料について医薬品情報の質を評価できる。（技能）						
5）医薬品情報をニーズに合わせて加工・提供し管理する際の方法と注意点（知的所有権、守秘義務など）について説明できる。						

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該 当 科 目					
	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
【④EBM（Evidence-based Medicine）】						
1）EBMの基本概念と実践のプロセスについて説明できる。			医薬品情報		エビデンスに基づいた薬物治療Ⅰ、 エビデンスに基づいた薬物治療Ⅱ	薬剤師活動最前線、 症例で考える
2）代表的な臨床研究法（ランダム化比較試験、コホート研究、ケースコントロール研究など）の長所と短所を挙げ、それらのエビデンスレベルについて概説できる。						薬剤師活動最前線
3）臨床研究論文の批判的吟味に必要な基本的項目を列挙し、内的妥当性（研究結果の正確度や再現性）と外的妥当性（研究結果の一般化の可能性）について概説できる。 （E3（1）【③収集・評価・加工・提供・管理】参照）						
4）メタアナリシスの概念を理解し、結果を説明できる。						
【⑤生物統計】						
1）臨床研究における基本的な統計量（平均値、中央値、標準偏差、標準誤差、信頼区間など）の意味と違いを説明できる。			医薬品情報	実習Ⅳ		薬剤師活動最前線、 症例で考える
2）帰無仮説の概念および検定と推定の違いを説明できる。				実習Ⅳ		
3）代表的な分布（正規分布、t分布、二項分布、ポアソン分布、 χ^2 分布、F分布）について概説できる。						
4）主なパラメトリック検定とノンパラメトリック検定を列挙し、それらの使い分けを説明できる。				実習Ⅳ		
5）二群間の差の検定（t検定、 χ^2 検定など）を実施できる。（技能）				実習Ⅳ		
6）主な回帰分析（直線回帰、ロジスティック回帰など）と相関係数の検定について概説できる。				実習Ⅳ		
7）基本的な生存時間解析法（カプラン・マイヤー曲線など）について概説できる。				実習Ⅳ		
【⑥臨床研究デザインと解析】						
1）臨床研究（試験を含む）の代表的な手法（介入研究、観察研究）を列挙し、それらの特徴を概説できる。			医薬品情報		エビデンスに基づいた薬物治療Ⅰ、 エビデンスに基づいた薬物治療Ⅱ	薬剤師活動最前線、 症例で考える
2）臨床研究におけるバイアス・交絡について概説できる。						
3）観察研究での主な疫学研究デザイン（症例報告、症例集積、コホート研究、ケースコントロール研究、ネステッドケースコントロール研究、ケースコホート研究など）について概説できる。						
4）副作用の因果関係を評価するための方法（副作用判定アルゴリズムなど）について概説できる。						症例で考える
5）優越性試験と非劣性試験の違いについて説明できる。					エビデンスに基づいた薬物治療Ⅰ、 エビデンスに基づいた薬物治療Ⅱ	薬剤師活動最前線、 症例で考える
6）介入研究の計画上の技法（症例数設定、ランダム化、盲検化など）について概説できる。						
7）統計解析時の注意点について概説できる。						
8）介入研究の効果指標（真のエンドポイントと代用のエンドポイント、主要エンドポイントと副次的エンドポイント）の違いを、例を挙げて説明できる。						
9）臨床研究の結果（有効性、安全性）の主なパラメータ（相対リスク、相対リスク減少、絶対リスク、絶対リスク減少、治療必要数、オッズ比、発生率、発生割合）を説明し、計算できる。 （知識・技能）						
【⑦医薬品の比較・評価】						
1）病院や薬局において医薬品を採用・選択する際に検討すべき項目を列挙し、その意義を説明できる。			医薬品情報			
2）医薬品情報にもとづいて、代表的な同種同効薬の有効性や安全性について比較・評価できる。 （技能）			調剤学			症例で考える、 高齢者介護にかかわる
3）医薬品情報にもとづいて、先発医薬品と後発医薬品の品質、安全性、経済性などについて、比較・評価できる。（技能）			調剤学			
（2）患者情報						
【①情報と情報源】						
1）薬物治療に必要な患者基本情報を列挙できる。			医薬品情報			薬学総合科目Ⅱ
2）患者情報源の種類を列挙し、それぞれの違いを説明できる。						

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該 当 科 目					
	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
【②収集・評価・管理】						
1）問題志向型システム（POS）を説明できる。			医薬品情報	臨床薬学Ⅱ		薬学総合科目Ⅱ
2）SOAP形式などの患者情報の記録方法について説明できる。						
3）医薬品の効果や副作用を評価するために必要な患者情報について概説できる。						
4）患者情報の取扱いにおける守秘義務と管理の重要性を説明できる。 （A（2）【③患者の権利】参照）			医薬品情報、 実習ⅢB、 演習ⅢB			
（3）個別化医療						
【①遺伝的素因】						
1）薬物の主作用および副作用に影響する代表的な遺伝的素因について、例を挙げて説明できる。				生物薬剤学Ⅲ		
2）薬物動態に影響する代表的な遺伝的素因（薬物代謝酵素・トランスポーターの遺伝子変異など）について、例を挙げて説明できる。						
3）遺伝的素因を考慮した薬物治療について、例を挙げて説明できる。						
【②年齢的要因】						
1）低出生体重児、新生児、乳児、幼児、小児における薬物動態と、薬物治療で注意すべき点を説明できる。			調剤学	生物薬剤学Ⅲ、 事前実習		高齢者介護にかかわる
2）高齢者における薬物動態と、薬物治療で注意すべき点を説明できる。				生物薬剤学Ⅲ		
【③臓器機能低下】						
1）腎疾患・腎機能低下時における薬物動態と、薬物治療・投与設計において注意すべき点を説明できる。			調剤学	生物薬剤学Ⅲ		高齢者介護にかかわる、 薬学総合科目Ⅱ
2）肝疾患・肝機能低下時における薬物動態と、薬物治療・投与設計において注意すべき点を説明できる。						
3）心臓疾患を伴った患者における薬物動態と、薬物治療・投与設計において注意すべき点を説明できる。						
【④その他の要因】						
1）薬物の効果に影響する生理的要因（性差、閉経、日内変動など）を列挙できる。			調剤学	生物薬剤学Ⅲ		高齢者介護にかかわる 高齢者介護にかかわる、 薬学総合科目Ⅱ
2）妊娠・授乳期における薬物動態と、生殖・妊娠・授乳期の薬物治療で注意すべき点を説明できる。						
3）栄養状態の異なる患者（肥満、低アルブミン血症、腹水など）における薬物動態と、薬物治療で注意すべき点を説明できる。				臨床薬学Ⅰ、 生物薬剤学Ⅲ	臨床代謝栄養学	
【⑤個別化医療の計画・立案】						
1）個別の患者情報（遺伝的素因、年齢的要因、臓器機能など）と医薬品情報をもとに、薬物治療を計画・立案できる。（技能）				生物薬剤学Ⅲ		
2）コンパニオン診断にもとづく薬物治療について、例を挙げて説明できる。						
E4 薬の生体内運命						
（1）薬物の体内動態						
【①生体膜透過】						
1）薬物の生体膜透過における単純拡散、促進拡散および能動輸送の特徴を説明できる。			生物薬剤学Ⅰ			医療薬学複合科目Ⅳ
2）薬物の生体膜透過に関わるトランスポーターの例を挙げ、その特徴と薬物動態における役割を説明できる。						
【②吸収】						
1）経口投与された薬物の吸収について説明できる。			生物薬剤学Ⅰ			医療薬学複合科目Ⅳ
2）非経口的に投与される薬物の吸収について説明できる。						
3）薬物の吸収に影響する因子（薬物の物性、生理学的要因など）を列挙し、説明できる。						
4）薬物の吸収過程における相互作用について例を挙げ、説明できる。			生物薬剤学Ⅰ、 演習ⅢA、 演習ⅢB	生物薬剤学Ⅱ		
5）初回通過効果について説明できる。			生物薬剤学Ⅰ			

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該 当 科 目					
	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
【③分布】						
1）薬物が結合する代表的な血漿タンパク質を挙げ、タンパク結合の強い薬物を列挙できる。			生物薬剤学Ⅰ			医療薬学複合科目Ⅳ
2）薬物の組織移行性（分布容積）と血漿タンパク結合ならびに組織結合との関係を、定量的に説明できる。						
3）薬物のタンパク結合および結合阻害の測定・解析方法を説明できる。						
4）血液－組織間門の構造・機能と、薬物の脳や胎児等への移行について説明できる。						
5）薬物のリンパおよび乳汁中への移行について説明できる。						
6）薬物の分布過程における相互作用について例を挙げ、説明できる。			生物薬剤学Ⅰ、 演習ⅢA、 演習ⅢB	生物薬剤学Ⅱ		
【④代謝】						
1）代表的な薬物代謝酵素を列挙し、その代謝反応が起こる組織ならびに細胞内小器官、反応様式について説明できる。			生物薬剤学Ⅰ			医療薬学複合科目Ⅳ、 社会薬学複合科目Ⅱ
2）薬物代謝の第Ⅰ相反応（酸化・還元・加水分解）、第Ⅱ相反応（抱合）について、例を挙げて説明できる。			生物薬剤学Ⅰ、 衛生薬学Ⅳ			
3）代表的な薬物代謝酵素（分子種）により代謝される薬物を列挙できる。			生物薬剤学Ⅰ			
4）プロドラッグと活性代謝物について、例を挙げて説明できる。		薬理学Ⅱ	生物薬剤学Ⅰ、 衛生薬学Ⅳ	製剤学Ⅲ		社会薬学複合科目Ⅱ、 医療薬学複合科目Ⅳ、 製剤設計Ⅳ（開発と生産）
5）薬物代謝酵素の阻害および誘導のメカニズムと、それらに関連して起こる相互作用について、例を挙げ、説明できる。			生物薬剤学Ⅰ、 衛生薬学Ⅳ 演習ⅢA、 演習ⅢB	生物薬剤学Ⅱ		医療薬学複合科目Ⅳ、 社会薬学複合科目Ⅱ
【⑤排泄】						
1）薬物の尿中排泄機構について説明できる。			生物薬剤学Ⅰ			医療薬学複合科目Ⅳ
2）腎クリアランスと、糸球体ろ過、分泌、再吸収の関係を定量的に説明できる。						
3）代表的な腎排泄型薬物を列挙できる。						
4）薬物の胆汁中排泄と腸肝循環について説明できる。			生物薬剤学Ⅰ、 衛生薬学Ⅳ			
5）薬物の排泄過程における相互作用について例を挙げ、説明できる。			生物薬剤学Ⅰ、 演習ⅢA、 演習ⅢB	生物薬剤学Ⅱ		
（2）薬物動態の解析						
【①薬物速度論】						
1）線形コンパートメントモデルと、関連する薬物動態パラメータ（全身クリアランス、分布容積、消失半減期、生物学的利用能など）の概念を説明できる。			生物薬剤学Ⅰ、 演習ⅢA、 演習ⅢB	生物薬剤学Ⅱ		
2）線形1－コンパートメントモデルに基づいた解析ができる（急速静注・経口投与〔単回および反復投与〕、定速静注）。（知識、技能）						
3）体内動態が非線形性を示す薬物の例を挙げ、非線形モデルに基づいた解析ができる。（知識、技能）			演習ⅢA、 演習ⅢB			
4）モーメント解析の意味と、関連するパラメータの計算法について説明できる。						
5）組織クリアランス（肝、腎）および固有クリアランスの意味と、それらの関係について、数式を使って説明できる。						
6）薬物動態学－薬力学解析（PK-PD解析）について概説できる。						

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該 当 科 目					
	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
【②TDM（Therapeutic Drug Monitoring）と投与設計】						
1）治療薬物モニタリング（TDM）の意義を説明し、TDMが有効な薬物を列挙できる。			演習ⅢA、 演習ⅢB	生物薬剤学Ⅲ		医療薬学複合科目Ⅳ、 薬学総合科目Ⅱ
2）TDMを行う際の採血ポイント、試料の取り扱い、測定法について説明できる。						
3）薬物動態パラメータを用いて患者ごとの薬物投与設計ができる。（知識、技能）						医療薬学複合科目Ⅳ
4）ポピュレーションファーマコキネティクスの概念と応用について概説できる。						
E5 製剤化のサイエンス						
（1）製剤の性質						
【①固形材料】						
1）粉体の性質について説明できる。			製剤学Ⅱ、 実習ⅢB、 演習ⅢB			製剤設計Ⅳ（開発と生産）
2）結晶（安定形および準安定形）や非晶質、無水物や水和物の性質について説明できる。			製剤学Ⅰ、 製剤学Ⅱ			
3）固形材料の溶解現象（溶解度、溶解平衡など）や溶解した物質の拡散と溶解速度について説明できる。 （C2（2）【①酸・塩基平衡】1.及び【②各種の化学平衡】2.参照）			製剤学Ⅰ、 製剤学Ⅱ、 実習ⅢB、 演習ⅢB	製剤技術の最前線		
4）固形材料の溶解に影響を及ぼす因子（pHや温度など）について説明できる。			製剤学Ⅰ			
5）固形材料の溶解度や溶解速度を高める代表的な製剤的手法を列挙し、説明できる。			製剤学Ⅰ、 製剤学Ⅱ、 演習ⅢB			
【②半固形・液状材料】						
1）流動と変形（レオロジー）について説明できる。			製剤学Ⅱ			製剤設計Ⅳ（開発と生産）
2）高分子の構造と高分子溶液の性質（粘度など）について説明できる。			製剤学Ⅰ、 実習ⅢB、 演習ⅢB			
【③分散系材料】						
1）界面の性質（界面張力、分配平衡、吸着など）や代表的な界面活性剤の種類と性質について説明できる。 （C2（2）【②各種の化学平衡】4.参照）		物理化学Ⅲ	製剤学Ⅰ、 演習ⅢB			製剤設計Ⅳ（開発と生産）
2）代表的な分散系（分子集合体、コロイド、乳剤、懸濁剤など）を列挙し、その性質について説明できる。			製剤学Ⅰ		製剤技術の最前線	
3）分散した粒子の安定性と分離現象（沈降など）について説明できる。			製剤学Ⅰ、 演習ⅢB			
4）分散安定性を高める代表的な製剤的手法を列挙し、説明できる。						
【④薬物及び製剤材料の物性】						
1）製剤分野で汎用される高分子の構造を理解し、その物性について説明できる。			製剤学Ⅰ、 製剤学Ⅱ、 実習ⅢB、 演習ⅢB			製剤設計Ⅳ（開発と生産）
2）薬物の安定性（反応速度、複合反応など）や安定性に影響を及ぼす因子（pH、温度など）について説明できる。 （C1（3）【①反応速度】1.～7.参照）		物理化学Ⅱ	演習ⅢB			
3）薬物の安定性を高める代表的な製剤的手法を列挙し、説明できる。			製剤学Ⅰ、 製剤学Ⅱ			製剤設計Ⅳ（開発と生産）

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該 当 科 目					
	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
（2）製剤設計						
【①代表的な製剤】						
1）製剤化の概要と意義について説明できる。		日本薬局方Ⅰ	製剤学Ⅰ、 製剤学Ⅱ、 実習ⅢB、 演習ⅢB			製剤設計Ⅳ（開発と生産）
2）経口投与する製剤の種類とその特性について説明できる。						
3）粘膜に適用する製剤（点眼剤、吸入剤など）の種類とその特性について説明できる。			製剤学Ⅰ、 製剤学Ⅱ			
4）注射により投与する製剤の種類とその特性について説明できる。			製剤学Ⅰ			
5）皮膚に適用する製剤の種類とその特性について説明できる。			製剤学Ⅰ、 製剤学Ⅱ			
6）その他の製剤（生薬関連製剤、透析に用いる製剤など）の種類と特性について説明できる。			製剤学Ⅰ			
【②製剤化と製剤試験法】						
1）代表的な医薬品添加物の種類・用途・性質について説明できる。			製剤学Ⅰ、 製剤学Ⅱ、 実習ⅢB、 演習ⅢB			製剤設計Ⅳ（開発と生産）
2）製剤化の単位操作、汎用される製剤機械および代表的な製剤の具体的な製造工程について説明できる。					製剤技術の最前線	
3）汎用される容器、包装の種類や特徴について説明できる。		日本薬局方Ⅰ				
4）製剤に関連する試験法を列挙し、説明できる。						
【③生物学的同等性】						
1）製剤の特性（適用部位、製剤からの薬物の放出性など）を理解した上で、生物学的同等性について説明できる。			製剤学Ⅰ	製剤学Ⅲ		製剤設計Ⅳ（開発と生産）
（3）DDS（Drug Delivery System：薬物送達システム）						
【①DDS の必要性】						
1）DDSの概念と有用性について説明できる。				製剤学Ⅲ		製剤設計Ⅳ（開発と生産）
2）代表的なDDS技術を列挙し、説明できる。 （プロドラッグについては、E4(1)【④代謝】4.も参照）						
【②コントロールドリリース（放出制御）】						
1）コントロールドリリースの概要と意義について説明できる。			実習ⅢB、 演習ⅢB	製剤学Ⅲ		製剤設計Ⅳ（開発と生産）
2）投与部位ごとに、代表的なコントロールドリリース技術を列挙し、その特性について説明できる。						
3）コントロールドリリース技術を適用した代表的な医薬品を列挙できる。						
【③ターゲティング（標的指向化）】						
1）ターゲティングの概要と意義について説明できる。				製剤学Ⅲ		製剤設計Ⅳ（開発と生産）
2）投与部位ごとに、代表的なターゲティング技術を列挙し、その特性について説明できる。						
3）ターゲティング技術を適用した代表的な医薬品を列挙できる。					製剤技術の最前線	
【④吸収改善】						
1）吸収改善の概要と意義について説明できる。				製剤学Ⅲ		製剤設計Ⅳ（開発と生産）
2）投与部位ごとに、代表的な吸収改善技術を列挙し、その特性について説明できる。						
3）吸収改善技術を適用した代表的な医薬品を列挙できる。					製剤技術の最前線	

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該 当 科 目					
	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
F 薬学臨床						
前）：病院・薬局での実務実習履修前に修得すべき事項						
（１）薬学臨床の基礎						
【①早期臨床体験】 ※原則として 2年次修了までに学習する事項						
１）患者・生活者の視点に立って、様々な薬剤師の業務を見聞し、その体験から薬剤師業務の重要性について討議する。（知識・態度）	早期体験、 薬学への招待					
２）地域の保健・福祉を見聞した具体的体験に基づきその重要性や課題を討議する。（知識・態度）						
３）一次救命処置（心肺蘇生、外傷対応等）を説明し、シミュレータを用いて実施できる。（知識・技能）	早期体験					
【②臨床における心構え】〔A（１）、（２）参照〕						
１）前）医療の担い手を守るべき倫理規範や法令について討議する。（態度）				実習Ⅳ		
２）前）患者・生活者中心の医療の視点から患者・生活者の個人情報や自己決定権に配慮すべき個々の対応ができる。（態度）						
３）前）患者・生活者の健康の回復と維持、生活の質の向上に薬剤師が積極的に貢献することの重要性を討議する。（態度）						
４）医療の担い手を守るべき倫理規範を遵守し、ふさわしい態度で行動する。（態度）					病院実習、 薬局実習	
５）患者・生活者の基本的権利、自己決定権について配慮する。（態度）						
６）薬学的管理を実施する際に、インフォームド・コンセントを得ることができる。（態度）						
７）職務上知り得た情報について守秘義務を遵守する。（態度）						
【③臨床実習の基礎】						
１）前）病院・薬局における薬剤師業務全体の流れを概説できる。				臨床薬学Ⅱ		薬学総合科目Ⅱ
２）前）病院・薬局で薬剤師が実践する薬学的管理の重要性について説明できる。			調剤学			
３）前）病院薬剤部門を構成する各セクションの業務を列挙し、その内容と関連を概説できる。						
４）前）病院に所属する医療スタッフの職種名列挙し、その業務内容を相互に関連づけて説明できる。						
５）前）薬剤師の関わる社会保障制度（医療、福祉、介護）の概略を説明できる。 〔B（３）①参照〕				医療システム学		
６）病院における薬剤部門の位置づけと業務の流れについて他部門と関連付けて説明できる。					病院実習	薬学総合科目Ⅱ
７）代表的な疾患の入院治療における適切な薬学的管理について説明できる。						
８）入院から退院に至るまで入院患者の医療に継続して関わるができる。（態度）						
９）急性期医療（救急医療・集中治療・外傷治療等）や周術期医療における適切な薬学的管理について説明できる。						高齢者介護にかかわる
10）周産期医療や小児医療における適切な薬学的管理について説明できる。				事前実習		
11）終末期医療や緩和ケアにおける適切な薬学的管理について説明できる。						
12）外来化学療法における適切な薬学的管理について説明できる。					病院実習、 薬局実習	
13）保険評価要件を薬剤師業務と関連付けて概説することができる。						
14）薬局における薬剤師業務の流れを相互に関連付けて説明できる。					薬局実習	高齢者介護にかかわる
15）末局者の調剤に対して、処方せんの受付から薬剤の交付に至るまで継続して関わるができる。（知識・態度）						
（２）処方せんに基づく調剤						
【①法令・規則等の理解と遵守】〔B（２）、（３）参照〕						
１）前）調剤業務に関わる事項（処方せん、調剤録、疑義照会等）の意義や取り扱いを法的根拠に基づいて説明できる。			調剤学			
２）調剤業務に関わる法的文書（処方せん、調剤録等）の適切な記載と保存・管理ができる。（知識・技能）					病院実習、 薬局実習	高齢者介護にかかわる
３）法的根拠に基づき、一連の調剤業務を適正に実施する。（技能・態度）						

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該 当 科 目					
	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
4）保険薬局として必要な条件や設備等を具体的に関連付けて説明できる。					薬局実習	高齢者介護にかかわる
【②処方せんと疑義照会】						
1）前）代表的な疾患に使用される医薬品について効能・効果、用法・用量、警告・禁忌、副作用、相互作用を列挙できる。			調剤学		病院実習、 薬局実習	薬学総合科目Ⅱ
2）前）処方オーダーリングシステムおよび電子カルテについて概説できる。				臨床薬学Ⅱ		
3）前）処方せんの様式と必要記載事項、記載方法について説明できる。				実習Ⅳ		
4）前）処方せんの監査の意義、その必要性と注意点について説明できる。				実習Ⅳ、事前実習		
5）前）処方せんを監査し、不適切な処方せんについて、その理由が説明できる。				事前実習		
6）前）処方せん等に基づき疑義照会ができる。（技能・態度）						
7）処方せんの記載事項（医薬品名、分量、用法・用量等）が適切であるか確認できる。 （知識・技能）						薬学総合科目Ⅱ
8）注射薬処方せんの記載事項（医薬品名、分量、投与速度、投与ルート等）が適切であるか確認 できる。（知識・技能）						
9）処方せんの正しい記載方法を例示できる。（技能）						
10）薬歴、診療録、患者の状態から処方が妥当であるか判断できる。（知識・技能）						
11）薬歴、診療録、患者の状態から判断して適切に疑義照会ができる。（技能・態度）						
【③処方せんに基づく医薬品の調製】						
1）前）薬袋、薬札（ラベル）に記載すべき事項を適切に記入できる。（技能）				実習Ⅳ、 事前実習		
2）前）主な医薬品の成分（一般名）、商標名、剤形、規格等を列挙できる。				臨床薬学Ⅰ、 実習Ⅳ、 事前実習		
3）前）処方せんに従って、計数・計量調剤ができる。（技能）				実習Ⅳ、 事前実習		
4）前）後発医薬品選択の手順を説明できる。			調剤学	実習Ⅳ		
5）前）代表的な注射剤・散剤・水剤等の配合変化のある組合せとその理由を説明できる。				臨床薬学Ⅱ、 事前実習		高齢者介護に関わる、 薬剤師活動最前線、 薬学総合科目Ⅱ
6）前）無菌操作の原理を説明し、基本的な無菌操作を実施できる。（知識・技能）				実習Ⅳ、 事前実習		
7）前）抗悪性腫瘍薬などの取扱いにおけるケミカルハザード回避の基本的な手技を実施できる。 （技能）				事前実習		
8）前）処方せんに基づき調剤された薬剤の監査ができる。（知識・技能）						
9）主な医薬品の一般名・剤形・規格から該当する製品を選択できる。（技能）					病院実習、 薬局実習	
10）適切な手順で後発医薬品を選択できる。（知識・技能）						
11）処方せんに従って計数・計量調剤ができる。（技能）						
12）錠剤の粉碎、およびカプセル剤の開封の可否を判断し、実施できる。（知識・技能）						
13）一回量（一包化）調剤の必要性を判断し、実施できる。（知識・技能）						薬学総合科目Ⅱ
14）注射処方せんに従って注射薬調剤ができる。（技能）						
15）注射剤・散剤・水剤等の配合変化に関して実施されている回避方法を列挙できる。						薬学総合科目Ⅱ
16）注射剤（高カロリー輸液等）の無菌的混合操作を実施できる。（技能）						
17）抗悪性腫瘍薬などの取扱いにおけるケミカルハザード回避の手技を実施できる。 （知識・技能）						薬学総合科目Ⅱ
18）特別な注意を要する医薬品（劇薬・毒薬・麻薬・向精神薬・抗悪性腫瘍薬等）の調剤と適切な 取扱いができる。（知識・技能）						
19）調製された薬剤に対して、監査が実施できる。（知識・技能）						

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該 当 科 目					
	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
【④患者・来局者対応、服薬指導、患者教育】						
1）前）適切な態度で、患者・来局者と対応できる。（態度）				実習Ⅳ、 事前実習		
2）前）妊婦・授乳婦、小児、高齢者などへの対応や服薬指導において、配慮すべき事項を具体的に列挙できる。				実習Ⅳ、 事前実習 臨床薬学Ⅱ		
3）前）患者・来局者から、必要な情報（症状、心理状態、既往歴、生活習慣、アレルギー歴、薬歴、副作用歴等）を適切な手順で聞き取ることができる。（知識・態度）						
4）前）患者・来局者に、主な医薬品の効能・効果、用法・用量、警告・禁忌、副作用、相互作用、保管方法等について適切に説明できる。（技能・態度）				事前実習		
5）前）代表的な疾患において注意すべき生活指導項目を列挙できる。				事前実習、 臨床薬学Ⅰ、 臨床薬学Ⅱ		
6）前）患者・来局者に使用上の説明が必要な製剤（眼軟膏、坐剤、吸入剤、自己注射剤等）の取扱い方法を説明できる。（技能・態度）				実習Ⅳ、 事前実習		
7）前）薬歴・診療録の基本的な記載事項とその意義・重要性について説明できる。				事前実習、 臨床薬学Ⅱ		薬学総合科目Ⅱ
8）前）代表的な疾患の症例についての患者対応の内容を適切に記録できる。（技能）				事前実習		
9）患者・来局者に合わせて適切な対応ができる。（態度）					病院実習、 薬局実習	
10）患者・来局者から、必要な情報（症状、心理状態、既往歴、生活習慣、アレルギー歴、薬歴、副作用歴等）を適切な手順で聞き取ることができる。（知識・態度）						高齢者介護にかかわる
11）医師の治療方針を理解した上で、患者への適切な服薬指導を実施する。（知識・態度）						
12）患者・来局者の病状や背景に配慮し、医薬品を安全かつ有効に使用するための服薬指導や患者教育ができる。（知識・態度）						
13）妊婦・授乳婦、小児、高齢者等特別な配慮が必要な患者への服薬指導において、適切な対応ができる。（知識・態度）						
14）お薬手帳、健康手帳、患者向け説明書等を使用した服薬指導ができる。（態度）						
15）収集した患者情報を薬歴や診療録に適切に記録することができる。（知識・技能）						薬学総合科目Ⅱ
【⑤医薬品の供給と管理】						
1）前）医薬品管理の意義と必要性について説明できる。			調剤学	臨床薬学Ⅱ		薬学総合科目Ⅱ
2）前）医薬品管理の流れを概説できる。						
3）前）劇薬、毒薬、麻薬、向精神薬および覚醒剤原料等の管理と取り扱いについて説明できる。						
4）前）特定生物由来製品の管理と取り扱いについて説明できる。						
5）前）代表的な放射性医薬品の種類と用途、保管管理方法を説明できる。						
6）前）院内製剤の意義、調製上の手続き、品質管理などについて説明できる。			調剤学	臨床薬学Ⅱ、 実習Ⅳ		
7）前）薬局製剤・漢方製剤について概説できる。						
8）前）医薬品の品質に影響を与える因子と保存条件を説明できる。				臨床薬学Ⅱ		
9）医薬品の供給・保管・廃棄について適切に実施できる。（知識・技能）					病院実習、 薬局実習	
10）医薬品の適切な在庫管理を実施する。（知識・技能）						
11）医薬品の適正な採用と採用中止の流れについて説明できる。						
12）劇薬・毒薬・麻薬・向精神薬および覚醒剤原料の適切な管理と取り扱いができる。（知識・技能）						
13）特定生物由来製品の適切な管理と取り扱いを体験する。（知識・技能）						
【⑥安全管理】						
1）前）処方から服薬（投薬）までの過程で誤りを生じやすい事例を列挙できる。			調剤学	事前実習、 臨床薬学Ⅱ		薬学総合科目Ⅱ
2）前）特にリスクの高い代表的な医薬品（抗悪性腫瘍薬、糖尿病治療薬、使用制限のある薬等）の特徴と注意点を列挙できる。						薬剤師活動最前線、 薬学総合科目Ⅱ
3）前）代表的なインシデント（ヒヤリハット）、アクシデント事例を解析し、その原因、リスクを回避するための具体策と発生後の適切な対処法を討議する。（知識・態度）						

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該 当 科 目					
	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
4）前）感染予防の基本的考え方とその方法が説明できる。				実習Ⅳ、 事前実習、 臨床薬学Ⅱ		薬剤師活動最前線、 薬学総合科目Ⅱ
5）前）衛生的な手洗い、スタンダードプリコーションを実施できる。（技能）						
6）前）代表的な消毒薬の用途、使用濃度および調製時の注意点を説明できる。			調剤学	臨床薬学Ⅱ		薬剤師活動最前線、 薬学総合科目Ⅱ
7）前）医薬品のリスクマネジメントプランを概説できる。				事前実習、 臨床薬学Ⅱ		薬学総合科目Ⅱ
8）特にリスクの高い代表的な医薬品（抗悪性腫瘍薬、糖尿病治療薬、使用制限のある薬等）の安全管理を体験する。（知識・技能・態度）					病院実習、 薬局実習	
9）調剤ミスを防止するために工夫されている事項を具体的に説明できる。						
10）施設内のインシデント（ヒヤリハット）、アクシデントの事例をもとに、リスクを回避するための具体策と発生後の適切な対処法を提案することができる。（知識・態度）						
11）施設内の安全管理指針を遵守する。（態度）						
12）施設内で衛生的な手洗い、スタンダードプリコーションを実施する。（技能）						
13）臨床検体・感染性廃棄物を適切に取り扱うことができる。（技能・態度）						
14）院内での感染対策（予防、蔓延防止など）について具体的な提案ができる。（知識・態度）						薬学総合科目Ⅱ
（3）薬物療法の実践						
【①患者情報の把握】						
1）前）基本的な医療用語、略語の意味を説明できる。				実習Ⅳ、 臨床薬学Ⅱ		薬学総合科目Ⅱ
2）前）患者および種々の情報源（診療録、薬歴・指導記録、看護記録、お薬手帳、持参薬等）から、薬物療法に必要な情報を収集できる。（技能・態度） 〔E3（2）①参照〕				事前実習		
3）前）身体所見の観察・測定（フィジカルアセスメント）の目的と得られた所見の薬学的管理への活用について説明できる。				実習Ⅳ、 事前実習		
4）前）基本的な身体所見を観察・測定し、評価できる。（知識・技能）						
5）基本的な医療用語、略語を適切に使用できる。（知識・態度）					チーム医療を実践する、 病院実習、 薬局実習	高齢者介護にかかわる
6）患者・来局者および種々の情報源（診療録、薬歴・指導記録、看護記録、お薬手帳、持参薬等）から、薬物療法に必要な情報を収集できる。（技能・態度）					病院実習、 薬局実習	
7）患者の身体所見を薬学的管理に活かすことができる。（技能・態度）						
【②医薬品情報の収集と活用】〔E3（1）参照〕						
1）前）薬物療法に必要な医薬品情報を収集・整理・加工できる。（知識・技能）				実習Ⅳ		
2）施設内において使用できる医薬品の情報源を把握し、利用することができる。（知識・技能）					病院実習、 薬局実習	
3）薬物療法に対する問い合わせに対し、根拠に基づいた報告書を作成できる。（知識・技能）						
4）医療スタッフおよび患者のニーズに合った医薬品情報提供を体験する。（知識・態度）						
5）安全で有効な薬物療法に必要な医薬品情報の評価、加工を体験する。（知識・技能）						
6）緊急安全性情報、安全性速報、不良品回収、製造中止などの緊急情報を施設内で適切に取扱うことができる。（知識・態度）						
【③処方設計と薬物療法の実践（処方設計と提案）】						
1）前）代表的な疾患に対して、疾患の重症度等に応じて科学的根拠に基づいた処方設計ができる。				臨床薬学Ⅱ、 実習Ⅳ、 事前実習		
2）前）病態（肝・腎障害など）や生理的特性（妊婦・授乳婦、小児、高齢者など）等を考慮し、 薬剤の選択や用法・用量設定を立案できる。				臨床薬学Ⅱ、 事前実習		薬学総合科目Ⅱ
3）前）患者のアドヒアランスの評価方法、アドヒアランスが良くない原因とその対処法を説明 できる。						
4）前）皮下注射、筋肉内注射、静脈内注射・点滴等の基本的な手技を説明できる。				臨床薬学Ⅱ、 実習Ⅳ		薬学総合科目Ⅱ

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該 当 科 目					
	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
5）前）代表的な輸液の種類と適応を説明できる。				臨床薬学Ⅱ	臨床代謝栄養学	薬剤師活動最前線、 薬学総合科目Ⅱ
6）前）患者の栄養状態や体液量、電解質の過不足などが評価できる。				臨床薬学Ⅰ、 臨床薬学Ⅱ、 実習Ⅳ		
7）代表的な疾患の患者について、診断名、病態、科学的根拠等から薬物治療方針を確認できる。				事前実習	病院実習、 薬局実習	高齢者介護にかかわる
8）治療ガイドライン等を確認し、科学的根拠に基づいた処方を立案できる。				臨床薬学Ⅰ	チーム医療を実践する、 臨床代謝栄養学、 感染症について学ぶ、 病院実習、 薬局実習	
9）患者の状態（疾患、重症度、合併症、肝・腎機能や全身状態、遺伝子の特性、心理・希望等）や薬剤の特徴（作用機序や製剤的性質等）に基づき、適切な処方を提案できる。（知識・態度）					病院実習、 薬局実習	
10）処方設計の提案に際し、薬物投与プロトコルやクリニカルパスを活用できる。（知識・態度）					病院実習、 薬局実習	
11）入院患者の持参薬について、継続・変更・中止の提案ができる。（知識・態度）					チーム医療を実践する、 病院実習、 薬局実習	
12）アドヒアランス向上のために、処方変更、調剤や用法の工夫が提案できる。（知識・態度）				事前実習	病院実習、 薬局実習	
13）処方提案に際して、医薬品の経済性等を考慮して、適切な後発医薬品を選択できる。				事前実習	病院実習、 薬局実習	
14）処方提案に際し、薬剤の選択理由、投与量、投与方法、投与期間等について、医師や看護師等に判りやすく説明できる。（知識・態度）					チーム医療を実践する、 病院実習、 薬局実習	
【④処方設計と薬物療法の実践（薬物療法における効果と副作用の評価）】						
1）前）代表的な疾患に用いられる医薬品の効果、副作用に関してモニタリングすべき症状と検査所見等を具体的に説明できる。				臨床薬学Ⅰ、 臨床薬学Ⅱ、 生物薬剤学Ⅲ、 実習Ⅳ、 事前実習		薬学総合科目Ⅱ
2）前）代表的な疾患における薬物療法の評価に必要な患者情報収集ができる。（知識・技能）						
3）前）代表的な疾患の症例における薬物治療上の問題点を列挙し、適切な評価と薬学的管理の立案を行い、SOAP形式等で記録できる。（知識・技能）				臨床薬学Ⅱ、 事前実習		薬学総合科目Ⅱ
4）医薬品の効果と副作用をモニタリングするための検査項目とその実施を提案できる。（知識・態度）					チーム医療を実践する、 感染症について学ぶ、 病院実習、 薬局実習	
5）薬物血中濃度モニタリングが必要な医薬品が処方されている患者について、血中濃度測定の提案ができる。（知識・態度）					病院実習、 薬局実習	
6）薬物血中濃度の推移から薬物療法の効果および副作用について予測できる。（知識・技能）						高齢者介護にかかわる、 薬学総合科目Ⅱ
7）臨床検査値の変化と使用医薬品の関連性を説明できる。						
8）薬物治療の効果について、患者の症状や検査所見などから評価できる。					チーム医療を実践する、 病院実習、 薬局実習	
9）副作用の発現について、患者の症状や検査所見などから評価できる。						高齢者介護にかかわる、 薬学総合科目Ⅱ
10）薬物治療の効果、副作用の発現、薬物血中濃度等に基づき、医師に対し、薬剤の種類、投与量、投与方法、投与期間等の変更を提案できる。（知識・態度）						
11）報告に必要な要素（5W1H）に留意して、収集した患者情報を正確に記載できる。（技能）						
12）患者の薬物治療上の問題点を列挙し、適切な評価と薬学的管理の立案を行い、SOAP形式等で適切に記録する。（知識・技能）					病院実習、 薬局実習	高齢者介護にかかわる
13）医薬品・医療機器等安全性情報報告用紙に、必要事項を記載できる。（知識・技能）						

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該 当 科 目					
	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
（４）チーム医療への参画　〔A（４）参照〕						
【①医療機関におけるチーム医療】						
１）前）チーム医療における薬剤師の役割と重要性について説明できる。		医療の中の薬学		臨床薬学Ⅱ、 実習Ⅳ	臨床代謝栄養学、 チーム医療を実践する、 薬剂学特論Ⅰ、 薬剂学特論Ⅱ	薬学総合科目Ⅱ
２）前）多様な医療チームの目的と構成、構成員の役割を説明できる。					チーム医療を実践する、 薬剂学特論Ⅰ、 薬剂学特論Ⅱ	
３）前）病院と地域の医療連携の意義と具体的な方法（連携クリニカルパス、退院時共同指導、病院・薬局連携、関連施設との連携等）を説明できる。					薬剂学特論Ⅰ、 薬剂学特論Ⅱ	
４）薬物療法上の問題点を解決するために、他の薬剤師および医師・看護師等の医療スタッフと連携できる。（態度）						
５）医師・看護師等の他職種と患者の状態（病状、検査値、アレルギー歴、心理、生活環境等）、治療　開始後の変化（治療効果、副作用、心理状態、QOL等）の情報を共有する。（知識・態度）					チーム医療を実践する、 薬剂学特論Ⅰ、 薬剂学特論Ⅱ、 病院実習	高齢者介護にかかわる
６）医療チームの一員として、医師・看護師等の医療スタッフと患者の治療目標と治療方針について討議（カンファレンスや患者回診への参加等）する。（知識・態度）						
７）医師・看護師等の医療スタッフと連携・協力して、患者の最善の治療・ケア提案を体験する。（知識・態度）						
８）医師・看護師等の医療スタッフと連携して退院後の治療・ケアの計画を検討できる。（知識・態度）					薬剂学特論Ⅰ、 薬剂学特論Ⅱ、 病院実習	高齢者介護にかかわる
９）病院内の多様な医療チーム（ICT、NST、緩和ケアチーム、褥瘡チーム等）の活動に薬剤師の立場で参加できる。（知識・態度）						
【②地域におけるチーム医療】						
１）前）地域の保健、医療、福祉に関わる職種とその連携体制（地域包括ケア）およびその意義について説明できる。				臨床薬学Ⅱ、 実習Ⅳ		薬学総合科目Ⅱ
２）前）地域における医療機関と薬局薬剤師の連携の重要性を討議する。（知識・態度）						
３）地域における医療機関と薬局薬剤師の連携を体験する。（知識・態度）					病院実習、 薬局実習	
４）地域医療を担う職種間で地域住民に関する情報共有を体験する。（技能・態度）						
（５）地域の保健・医療・福祉への参画　〔B（４）参照〕						
【①在宅（訪問）医療・介護への参画】						
１）前）在宅医療・介護の目的、仕組み、支援の内容を具体的に説明できる。				臨床薬学Ⅱ、 実習Ⅳ		
２）前）在宅医療・介護を受ける患者の特色と背景を説明できる。						
３）前）在宅医療・介護に関わる薬剤師の役割とその重要性について説明できる。				臨床薬学Ⅱ、 実習Ⅳ、 事前実習		
４）在宅医療・介護に関する薬剤師の管理業務（訪問薬剤管理指導業務、居宅療養管理指導業務）を体験する。（知識・態度）					薬局実習	
５）地域における介護サービスや介護支援専門員等の活動と薬剤師との関わりを体験する。（知識・態度）						
６）在宅患者の病状（症状、疾患と重症度、栄養状態等）とその変化、生活環境等の情報収集と報告を体験する。（知識・態度）						

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該 当 科 目					
	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
【②地域保健（公衆衛生、学校薬剤師、啓発活動）への参画】						
1）前）地域保健における薬剤師の役割と代表的な活動（薬物乱用防止、自殺防止、感染予防、アンチドーピング活動等）について説明できる。				臨床薬学Ⅱ、 実習Ⅳ		薬学総合科目Ⅱ
2）前）公衆衛生に求められる具体的な感染防止対策を説明できる。				臨床薬学Ⅱ、 実習Ⅳ、 事前実習		
3）学校薬剤師の業務を体験する。（知識・技能）					薬局実習	
4）地域住民の衛生管理（消毒、食中毒の予防、日用品に含まれる化学物質の誤嚥誤飲の予防等）における薬剤師活動を体験する。（知識・技能）						
【③プライマリケア、セルフメディケーションの実践】〔E2（9）参照〕						
1）前）現在の医療システムの中でのプライマリケア、セルフメディケーションの重要性を討議する。（態度）				臨床薬学Ⅱ、 実習Ⅳ	セルフメディケーシ ョン	
2）前）代表的な症候（頭痛・腹痛・発熱等）を示す来局者について、適切な情報収集と疾患の推測、適切な対応の選択ができる。（知識・態度）						
3）前）代表的な症候に対する薬局製剤（漢方製剤含む）、要指導医薬品・一般用医薬品の適切な取り扱いと説明ができる。（技能・態度）				実習Ⅳ		
4）前）代表的な生活習慣の改善に対するアドバイスができる。（知識・態度）				臨床薬学Ⅱ、 実習Ⅳ		
5）薬局製剤（漢方製剤含む）、要指導医薬品・一般用医薬品、健康食品、サプリメント、医療機器等をリスクに応じ適切に取り扱い、管理できる。（技能・態度）					薬局実習	
6）来局者から収集した情報や身体所見などに基づき、来局者の病状（疾患、重症度等）や体調を推測できる。（知識・態度）						高齢者介護にかかわる
7）来局者に対して、病状に合わせた適切な対応（医師への受診勧奨、救急対応、要指導医薬品・一般用医薬品および検査薬などの推奨、生活指導等）を選択できる。（知識・態度）						
8）選択した薬局製剤（漢方製剤含む）、要指導医薬品・一般用医薬品、健康食品、サプリメント、医療機器等の使用方法や注意点を来局者に適切に判りやすく説明できる。（知識・態度）						
9）疾病の予防および健康管理についてのアドバイスを体験する。（知識・態度）						
【④災害時医療と薬剤師】						
1）前）災害時医療について概説できる。				臨床薬学Ⅱ		
2）災害時における地域の医薬品供給体制・医療救護体制について説明できる。					病院実習、 薬局実習	高齢者介護にかかわる
3）災害時における病院・薬局と薬剤師の役割について討議する。（態度）						
G 薬学研究						
（1）薬学における研究の位置づけ						
1）基礎から臨床に至る研究の目的と役割について説明できる。				卒業研究Ⅰ	卒業研究Ⅱ	卒業研究Ⅲ
2）研究には自立性と独創性が求められていることを知る。					製剤技術の最前線、 卒業研究Ⅱ	
3）現象を客観的に捉える観察眼をもち、論理的に思考できる。（知識・技能・態度）						
4）新たな課題にチャレンジする創造的精神を養う。（態度）					卒業研究Ⅱ	
（2）研究に必要な法規範と倫理						
1）自らが実施する研究に係る法令、指針について概説できる。				卒業研究Ⅰ	卒業研究Ⅱ	卒業研究Ⅲ
2）研究の実施、患者情報の取扱い等において配慮すべき事項について説明できる。						
3）正義性、社会性、誠実性に配慮し、法規範を遵守して研究に取り組む。（態度）A-(2)-④-3再掲						

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該 当 科 目					
	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
（3）研究の実践						
1）研究課題に関する国内外の研究成果を調査し、読解、評価できる。（知識・技能）				卒業研究Ⅰ	卒業研究Ⅱ	卒業研究Ⅲ
2）課題達成のために解決すべき問題点を抽出し、研究計画を立案する。（知識・技能）						
3）研究計画に沿って、意欲的に研究を実施できる。（技能・態度）						
4）研究の各プロセスを適切に記録し、結果を考察する。（知識・技能・態度）						
5）研究成果の効果的なプレゼンテーションを行い、適切な質疑応答ができる。（知識・技能・態度）						
6）研究成果を報告書や論文としてまとめることができる。（技能）						

（基礎資料３－１） 評価実施年度における学年別在籍状況

学年		1年	2年	3年	4年	5年	6年
入学年度の入学定員 ¹⁾		250	250	250	250	250	250
入学時の学生数 ²⁾	A	236	250	224	245	256	241
在籍学生数 ³⁾	B	258	266	235	209	215	279
過年度在籍者数 ⁴⁾	留年による者 C	17	35	54	43	30	81
	休学による者 D	5	6	13	4	3	6
編入学などによる在籍者数 E		0	0	0	0	0	1
ストレート在籍者数 ⁵⁾	F	236	225	168	162	182	191
ストレート在籍率（％） ⁶⁾	F/A	100.0%	90.0%	75.0%	66.1%	71.1%	79.3%
過年度在籍率（％） ⁷⁾	(C+D) /B	8.5%	15.4%	28.5%	22.5%	15.3%	31.2%

- [注]
- 1) 各学年が入学した年度の入学者選抜で設定されていた入学定員を記入してください。
 - 2) 当該学年が入学した時点での実入学者数を記入してください。
 - 3) 評価実施年度の５月１日現在における各学年の在籍学生数を記入してください。
 - 4) 過年度在籍者数を「留年による者」と「休学による者」に分けて記入してください。休学と留年が重複する学生は留年者に算入してください。
 - 5) (在籍学生数)－{(過年度在籍者数)＋(編入学などによる在籍者数)}を記入してください。 $F = B - (C + D + E)$ となります。
 - 6) F/A の値を％で記入してください（小数点以下第１位まで表示）。
 - 7) (C+D) /B の値を％で記入してください（小数点以下第１位まで表示）。

(基礎資料 3-2) 評価実施年度の直近 5 年間における 6 年制学科の学年別進級状況

		2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
1年次	在籍者数 ¹⁾	281	253	232	272	258
	休学者数 ²⁾	4	1	1	4	2
	退学者数 ²⁾	10	7	7	8	10
	留年者数 ²⁾	9	8	22	23	28
	進級率 (%) ³⁾	91.8%	93.7%	87.1%	87.1%	84.5%
2年次	在籍者数 ¹⁾	259	274	246	229	266
	休学者数 ²⁾	0	2	1	3	3
	退学者数 ²⁾	7	3	3	10	11
	留年者数 ²⁾	18	11	26	33	24
	進級率 (%) ³⁾	90.3%	94.2%	87.8%	79.9%	85.7%
3年次	在籍者数 ¹⁾	236	245	259	265	235
	休学者数 ²⁾	0	0	1	1	2
	退学者数 ²⁾	2	1	1	14	18
	留年者数 ²⁾	12	3	53	54	30
	進級率 (%) ³⁾	94.1%	98.4%	78.8%	74.0%	78.7%
4年次	在籍者数 ¹⁾	230	227	244	220	209
	休学者数 ²⁾	3	2	0	0	4
	退学者数 ²⁾	0	2	0	3	3
	留年者数 ²⁾	3	2	16	14	8
	進級率 (%) ³⁾	97.4%	97.4%	93.4%	92.3%	92.8%
5年次	在籍者数 ¹⁾	223	224	223	235	215
	休学者数 ²⁾	0	0	0	0	1
	退学者数 ²⁾	0	1	0	1	0
	留年者数 ²⁾	0	3	7	14	9
	進級率 (%) ³⁾	100.0%	98.2%	96.9%	93.6%	95.3%

1) 各年度の 5 月 1 日における各学年の在籍者数を記入してください。ただし、2023年度のデータは、草案提出時には空欄でかまいません。調書提出時に、その時点でのデータを記入して提出してください。

2) 各年度末に在学年から上級学年に進級出来なかった学生数を、休学、退学、留年に分けて記入してください。

3) 各年度の各学年について、{ (在籍者数) - (休学者数 + 退学者数 + 留年者数) } / 在籍者数の値を%で記入してください(小数点以下第 1 位まで表示)。

（基礎資料３－３） 評価実施年度の直近５年間における学士課程修了（卒業）状況の実態

		2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
卒業判定時（年度末）の在籍学生数 ¹⁾ A		244	227	223	220	227
学士課程修了（卒業）者数 ¹⁾ B		212	175	203	160	158
卒業率（％） ²⁾ B/A		86.9%	77.1%	91.0%	72.7%	69.6%
卒業までに要した 在学期間別の 内訳 ³⁾	6年 C	167	155	174	150	152
	7年	29	19	24	10	5
	8年	14	0	2	0	0
	9年以上	2	1	3	0	1
入学時の学生数（実入学者数） ⁴⁾ D		263	252	247	249	241
ストレート卒業率（％） ⁵⁾ C/D		63.5%	61.5%	70.4%	60.2%	63.1%

- 1) 年度途中で卒業した学生（秋卒者など）の数は除いてください。
- 2) B/Aの値を％で記入してください（小数点以下第１位まで表示）。
- 3) Bの人数（編入学者があれば除く）の卒業までに要した在学期間別の内訳を記入してください。
- 4) 各年度の正規卒業学生が入学した年度の実入学者数（編入学者を除く）を記入してください。
- 5) C/Dの値を％で記入してください（小数点以下第１位まで表示）。

(基礎資料 3－4) 直近 6 年間の定員充足状況と編入学者の動向

入学年度		2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	平均値 ⁵⁾
入学定員	A	250	250	250	250	250	250	242
実入学者数 ¹⁾	B	241	256	245	224	250	236	
入学定員充足率 (%) ²⁾ B/A		96.4%	102.4%	98.0%	89.6%	100.0%	94.4%	96.8%
編入学定員		若干名	若干名	若干名	若干名	若干名	若干名	0
編入学者数 ³⁾ C+D+E		0	1	0	0	0	0	
編入学した学年別の内数 ⁴⁾	2 年次 C	0	1	0	0	0	0	0
	3 年次 D	0	0	0	0	0	0	0
	4 年次 E	0	0	0	0	0	0	0

- 1) 各年度の 5 月 1 日において 1 年次に在籍していた新入生数を記入してください。
- 2) 各年度の B/A の値を % で記入してください（小数点以下第 1 位まで表示）。
- 3) 各年度に受け入れた編入学者（転学部、転学科などを含む）の合計数を記入してください。
- 4) 編入学者の受け入れ学年別の内数を記入してください。
- 5) 人数は整数（端数は四捨五入）で、入学定員充足率については %（小数点以下第 1 位まで表示）で記入してください。

（基礎資料４）学生受入れ状況（入学試験種類別）

	学科名	入試の種類		2019年度入試 (2018年度実施)	2020年度入試 (2019年度実施)	2021年度入試 (2020年度実施)	2022年度入試 (2021年度実施)	2023年度入試 (2022年度実施)	2024年度入試 (2023年度実施)	募集定員数に対する 入学者数の比率 (６年間の平均)
薬学部	薬学	一般入試	受験者数	1,961	1,675	1,454	928	1,033	668	93.4%
			合格者数	728	695	856	668	628	481	
			入学者数(A)	137	134	131	103	96	73	
			募集定員数(B)	115	115	115	115	115	115	
			充足率(A/B)(%)	83.9%	116.5%	113.9%	89.6%	83.5%	63.5%	
		大学入学共通テスト 利用入試	受験者数	128	176	129	93	107	93	
			合格者数	54	73	52	62	17	24	
			入学者数(A)	6	2	0	1	0	0	
			募集定員数(B)	10	10	10	10	10	10	
			充足率(A/B)(%)	60.0%	20.0%	0.0%	10.0%	0.0%	0.0%	
		附属校推薦	受験者数	5	15	9	8	8	16	
			合格者数	5	15	9	8	7	10	
			入学者数(A)	5	15	9	7	7	6	
			募集定員数(B)	30	30	30	30	20	20	
			充足率(A/B)(%)	16.7%	50.0%	30.0%	23.3%	35.0%	30.0%	
		指定校推薦	受験者数	25	18	39	45	62	37	
			合格者数	25	18	39	45	62	37	
			入学者数(A)	25	18	39	45	61	37	
			募集定員数(B)	30	30	30	30	40	40	
			充足率(A/B)(%)	83.3%	60.0%	130.0%	150.0%	152.5%	92.5%	
		公募推薦入試	受験者数	733	728	605	568	583	417	
			合格者数	243	334	285	354	391	359	
			入学者数(A)	68	87	66	68	86	69	
			募集定員数(B)	65	65	65	65	65	65	
			充足率(A/B)(%)	104.6%	133.8%	101.5%	104.6%	132.3%	106.2%	
		外国人留学生入試	受験者数	0	0	0	1	0	1	
			合格者数	0	0	0	0	0	0	
			入学者数(A)	0	0	0	0	0	0	
			募集定員数(B)	若干名	若干名	若干名	若干名	若干名	若干名	
			充足率(A/B)(%)	—	—	—	—	—	—	
		帰国生入試	受験者数	0	0	0	0	0	0	
			合格者数	0	0	0	0	0	0	
			入学者数(A)	0	0	0	0	0	0	
			募集定員数(B)	若干名	若干名	若干名	若干名	若干名	若干名	
			充足率(A/B)(%)	—	—	—	—	—	—	
		学 科 計	受験者数	2,852	2,612	2,236	1,643	1,793	1,232	
			合格者数	1,055	1,135	1,241	1,137	1,105	911	
			入学者数(A)	241	256	245	224	250	185	
			募集定員数(B)	250	250	250	250	250	250	
			充足率(A/B)(%)	96.4%	102.4%	98.0%	89.6%	100.0%	74.0%	
		編入試	受験者数	1	4	0	1	1	2	
			合格者数	0	1	0	1	0	1	
			入学者数(A)	0	1	0	0	0	1	
			募集定員数(B)	若干名	若干名	若干名	若干名	若干名	若干名	
			充足率(A/B)(%)	—	—	—	—	—	—	

〔注〕 1 入試の種類は例示です。受審大学の実態に即した名称を記入してください。

2 6年制課程が複数学科あるが入試は学部一括で行っている場合は、「学科名」欄に連記して「学科計」欄を「学部計」としてください。

3 6年制課程が複数学科あり入試を学科別に行っている場合は、学科毎に欄を設けた上で、末尾に「学部合計」欄も設けてください。

4 4年制学科を併設するが入試は学部一括で行っている場合は、「学科名」欄に4年制学科名も記入し、「学科計」欄を「学部計」とした上で、欄外に『（備考）○年次進級時に6年制学科と4年制学科に分割する。なお、薬学科（6年制）の定員は△△△名である。』という「注」を記載してください。

5 「入試の種類」が対象年度の間に変更されている場合は、すべての種類を記入した上で、対応のない年度の欄に斜線を入れてください。

6 「入学者数（A）」には、各年度の5月1日に在籍した新入学者を構成する入試の種類ごとの入学者数を記入してください。

7 「募集定員数（B）」には、各年度の募集要項に記載した人数を記入してください。

8 充足率は募集定員に対する入学者の割合（A/B）を％で記入してください（小数点以下第1位まで表示）。ただし、募集定員が「若干名」の場合は「—」とします。

（基礎資料５）教員・職員の数

表１．大学設置基準（別表第１）の対象となる薬学科（６年制）の専任教員

教授	准教授	専任講師	助教	合計	基準数 ¹⁾
20名	7名	13名	12名	52名	37名
上記における臨床実務経験を有する者の内数					
教授	准教授	専任講師	助教	合計	必要数 ²⁾
0名	3名	4名	0名	7名	7名

1) 大学設置基準第13条別表第１のイ（表１）及び備考４に基づく数で、別表２の数は含めない。

2) 上記基準数の６分の１（大学設置基準第13条別表第１のイ備考10）に相当する数

表２．薬学科（６年制）の教育研究に携わっている表１．以外の薬学部教員

助手 ¹⁾	兼任教員 ²⁾
3名	0名

1) 学校教育法第92条⑨による教員として大学設置基準第10条２の教育業務及び研究に携わる常勤者

2) ４年制学科を併設する薬学部で、薬学科の専門教育を担当する４年制学科の専任教員

表３．演習、実習、実験などの補助に当たる教員以外の者

TA	SA	その他 ¹⁾	合計
5名	107名	名	112名

自己点検・評価を実施した年度の実績を延べ人数ではなく正味の人数で記入

1) 実習などの補助を担当する臨時、契約職員など（無給は除く）

表４．薬学部専任の職員¹⁾

事務職員	技能職員 ²⁾	その他 ³⁾	合計
3名	2名	0名	5

1) 薬学部の業務を専門に行う職員（非常勤を含む。ただし非常勤数は（ ）に内数で記入。複数学部の兼任は含まないこと。）

2) 薬用植物園や実験動物の管理、電気施設など保守管理に携わる職員

3) 司書、保健・看護職員など

(基礎資料6) 専任教員(基礎資料5の表1)の年齢構成

	教授	准教授	専任講師	助教	合計	比率(%)
70代	0名	0名	0名	0名	0名	0%
60代	14名	1名	0名	2名	17名	32.7%
50代	4名	3名	5名	3名	15名	28.9%
40代	2名	3名	5名	3名	13名	25.0%
30代	0名	0名	3名	4名	7名	13.5%
20代	0名	0名	0名	0名	0名	0%
合計	20名	7名	13名	12名	52名	

専任教員の定年年齢：(70 歳)

(参考資料) 専任教員(基礎資料5の表1)の男女構成

	教授	准教授	専任講師	助教	合計	比率(%)
男性	17名	5名	8名	8名	35名	67.3%
女性	3名	2名	5名	4名	17名	32.7%

(基礎資料7) 教員の教育担当状況

表1. 薬学科(6年制)専任教員(基礎資料5の表1)が担当する授業科目と担当時間

学科 ¹⁾	職名 ²⁾	氏 名	年齢	性別	学位称号	現職就任 年 月 日	授業担当科目 ³⁾		授業時間 ⁴⁾	年間で平均した 週当たり授業時間 ⁵⁾
薬学科	教授	■■■■■	■	■	■■■■■	■■■■■	日本薬局方Ⅰ[19～]	兼	9.00	0.30
							日本薬局方Ⅰ[再]	兼	9.00	0.30
							製剤学Ⅱ[19～]		18.00	0.60
							製剤設計Ⅱ(半固形・固形)[15～18]			
							製剤技術の最前線[19～]	兼	3.00	0.10
							分析・製剤技術の最前線Ⅰ[15～18]	兼		
							製剤設計Ⅳ(開発と生産)[15～18]	兼	6.00	0.20
							製剤設計Ⅳ(開発と生産)[13～14]	兼		
							実習ⅢB[19～]	◎	36.00	1.20
							演習ⅢB[19～]		1.50	0.05
							授業担当時間の合計		82.50	2.75
							薬学科	教授	■■■■■	■
有機化学Ⅱ[再]		18.00	0.60							
有機反応論Ⅰ[19～]		18.00	0.60							
有機化合物の性質と反応Ⅳ[15～18]										
有機反応論Ⅱ[19～]		18.00	0.60							
有機反応論Ⅱ[15～18]										
有機合成化学[19～]	兼	3.00	0.10							
実習ⅡA[19～]	◎	18.00	0.60							
実習ⅡB[19～]	◎	9.00	0.30							
実習ⅢB[19～]	◎	12.00	0.40							
演習ⅡA[19～]		3.00	0.10							
授業担当時間の合計		117.00	3.90							
薬学科	教授	■■■■■	■	■	■■■■■	■■■■■	有機化学Ⅲ[19～]		18.00	0.60
							有機化合物の性質と反応Ⅲ[15～18]			
							有機化学Ⅲ[再]		18.00	0.60
							生体関連化合物の分子化学[15～18]		18.00	0.60
							有機構造解析[19～]		18.00	0.60
							有機化合物の構造決定[15～18]			
							有機化学Ⅳ[19～]		18.00	0.60
							有機反応論Ⅰ[15～18]			
							有機化学最前線[19～]	兼	3.00	0.10
							有機反応論Ⅲ[15～18]		22.50	0.75
							有機反応論Ⅲ[13～14]			
							医薬品の開発と生産[12]			
							生物有機化学[15～18]	兼	10.50	0.35
							生物有機化学[13～14]	兼		
							分子設計学[12]	兼		
							薬学への招待[19～]		1.50	0.05
							実習ⅡA[19～]	◎	12.00	0.40
							実習ⅡB[19～]	◎	12.00	0.40
							演習ⅡB[19～]		6.00	0.20
授業担当時間の合計		157.50	5.25							
薬学科	教授	■■ ■■	■	■	■■■■■	■■■■■	機能形態学[19～]		18.00	0.60
							機能形態学[再]		18.00	0.60
							衛生薬学Ⅴ[19～]		18.00	0.60
							衛生Ⅴ(公衆衛生)[15～18]			
							抗加齢薬学[19～]	兼	3.00	0.10
							栄養学特論[19～]	兼	3.00	0.10
							応用衛生薬学Ⅱ[15～18]		22.50	0.75
							応用衛生薬学Ⅱ[13～14]			
							エコロジーを考える[12]			
							薬学への招待[19～]		1.50	0.05
							実習ⅢB[19～]	◎	27.00	0.90
							演習ⅠA[19～]		7.50	0.25
							演習ⅢB[19～]		13.50	0.45
							授業担当時間の合計		132.00	4.40

薬学科	教授	■■■■■	■	■	■■■	■■■■■	衛生薬学Ⅳ[19～]		18.00	0.60
							衛生Ⅳ(毒性)[15～18]			
							薬事関連法規[19～]			
							薬事関連法規・制度[15～18]		18.00	0.60
							中毒学と放射薬化学[15～18]	兼		
							社会薬学複合科目Ⅰ[15～18]	兼	12.00	0.40
							社会薬学複合科目Ⅰ[13～14]	兼		
							社会薬学複合科目Ⅰ[12]	兼		
							社会薬学複合科目Ⅱ[15～18]	兼	12.00	0.40
							社会薬学複合科目Ⅱ[13～14]	兼		
							社会薬学複合科目Ⅱ[12]	兼		
							実習ⅢB[19～]	◎	28.50	0.48
							演習ⅢB[19～]		9.00	0.30
							授業担当時間の合計		109.50	3.18
薬学科	教授	■■■	■	■	■■■	■■■■■	生物薬剤学Ⅰ[19～]	兼	15.00	0.50
							生物薬剤学Ⅰ(薬物の体内動態)[15～18]	兼		
							中毒学と放射薬化学[15～18]	兼	6.00	0.20
							病態治療学Ⅵ[19～]	兼	13.50	0.45
							薬物治療Ⅴ(化学療法)[15～18]	兼		
							がん薬物治療最前線[19～]		6.00	0.20
							癌薬物治療最前線[15～18]			
							薬剤学特論Ⅱ[19～]	兼	1.50	0.05
							医療薬学複合科目Ⅲ[15～18]	兼	6.00	0.20
							医療薬学複合科目Ⅲ[13～14]	兼		
							医療薬学複合科目Ⅲ[12]	兼		
							医療薬学複合科目Ⅳ[15～18]	兼	6.00	0.20
							医療薬学複合科目Ⅳ[13～14]	兼		
							医療薬学複合科目Ⅳ[12]	兼		
							実習ⅢA[19～]	◎	48.00	1.60
							実習ⅢB[19～]	◎	21.00	0.70
							演習ⅢA[19～]		22.50	0.75
							演習ⅢB[19～]		4.50	0.15
							個別化治療設計学	院兼	4.50	0.15
							授業担当時間の合計		154.50	5.15
薬学科	教授	■■■■■	■	■	■■■	■■■■■	医薬品化学Ⅰ[19～]		18.00	0.60
							医薬品の分子化学Ⅰ[15～18]			
							医薬品化学Ⅰ[再]		18.00	0.60
							医薬品化学Ⅱ[19～]		18.00	0.60
							医薬品の分子化学Ⅱ[15～18]			
							機能性分子化学[19～]	兼	3.00	0.10
							基礎薬学複合科目Ⅰ[15～18]		18.00	0.60
							基礎薬学複合科目Ⅰ[13～14]			
							実習ⅡA[19～]	◎	12.00	0.40
							実習ⅢB[19～]	◎	9.00	0.30
							演習ⅢB[19～]		9.00	0.30
							授業担当時間の合計		105.00	3.50
薬学科	教授	■■■■■	■	■	■■■	■■■■■	病態学Ⅱ[19～]		18.00	0.60
							病態学Ⅱ(病態と診断)[15～18]			
							代謝疾患治療薬の最前線[19～]		12.00	0.40
							代謝疾患治療薬の最前線[15～18]			
							海外の薬剤師に学ぶⅢ[19～]	兼	3.00	0.10
							医療薬学複合科目Ⅲ[15～18]	兼	6.00	0.20
							医療薬学複合科目Ⅲ[13～14]	兼		
							医療薬学複合科目Ⅲ[12]	兼		
							実習Ⅳ[19～]	◎	45.00	1.50
							事前実習[19～]	◎	54.00	1.80
							先進医療薬学	院兼	6.00	0.20
							授業担当時間の合計		144.00	4.80

薬学科	教授	■■■■■	■	■	■■■■■	■■■■■	ヒューマニズム[19～]		18.00	0.60
							病態学Ⅰ[19～]		18.00	0.60
							病態学Ⅰ(症候と臨床検査値)[15～18]			
							病態学Ⅰ[再]		18.00	0.60
							病態治療学Ⅱ[19～]	兼	9.00	0.30
							薬物治療Ⅰ(免疫)[15～18]	兼		
							患者の訴えから考える薬物治療[19～]		12.00	0.40
							患者の訴えから考える薬物治療[15～18]			
							医療薬学複合科目Ⅲ[15～18]	兼	6.00	0.20
							医療薬学複合科目Ⅲ[13～14]	兼		
							医療薬学複合科目Ⅲ[12]	兼		
							実習Ⅳ[19～]	◎	33.00	1.10
							事前実習[19～]	◎	64.50	2.15
							処方解析学	院兼	4.50	0.15
							授業担当時間の合計		183.00	6.10
薬学科	教授	■■■■■	■	■	■■■■■	■■■■■	生物薬剤学Ⅱ(薬物動態の解析)[15～18]	兼	9.00	0.30
							生物薬剤学Ⅱ[19～]	兼		
							病態治療学Ⅴ[19～]		18.00	0.60
							生物薬剤学Ⅲ[19～]	兼	9.00	0.30
							テーラーメイド薬物治療[15～18]	兼		
							薬剤学特論Ⅰ[19～]	兼	6.00	0.20
							WinNonlinによるPKモデリングの実践[15～18]	兼		
							薬剤学特論Ⅱ[19～]	兼	1.50	0.05
							症例で考える[15～18]		9.00	0.30
							症例で考える[13～14]	兼		
							症例で考える[12]			
							医療薬学複合科目Ⅳ[15～18]	兼	6.00	0.20
							医療薬学複合科目Ⅳ[13～14]	兼		
							医療薬学複合科目Ⅳ[12]	兼		
							薬学への招待[19～]		1.50	0.05
							実習ⅢA[19～]	◎	121.50	4.05
							実習ⅢB[19～]	◎	40.50	1.35
							個別化治療設計学	院兼	4.50	0.15
							授業担当時間の合計		226.50	7.55
薬学科	教授	■■■■■	■	■	■■■■■	■■■■■	細胞の分子生物学Ⅰ[19～]		18.00	0.60
							細胞の分子生物学Ⅰ(生体成分と細胞)[15～18]			
							細胞の分子生物学Ⅰ[再]		18.00	0.60
							細胞の分子生物学Ⅱ[19～]		18.00	0.60
							細胞の分子生物学Ⅱ[再]		18.00	0.60
							生命薬学最前線Ⅰ[19～]	兼	3.00	0.10
							生命薬学最前線Ⅰ[15～18]	兼		
							生物薬学複合科目Ⅱ[15～18]		18.00	0.60
							生物薬学複合科目Ⅱ[13～14]			
							実習ⅢA[19～]	◎	55.50	1.85
							演習ⅢA[19～]		27.00	0.90
							先進医療薬学	院兼	4.50	0.08
							授業担当時間の合計		180.00	5.93
薬学科	教授	■■■■■	■	■	■■■■■	■■■■■	製剤学Ⅰ[19～]		18.00	0.60
							製剤設計Ⅰ(液状・分散系)[15～18]			
							製剤技術の最前線[19～]	兼	3.00	0.10
							分析・製剤技術の最前線Ⅰ[15～18]	兼		
							製剤設計Ⅳ(開発と生産)[15～18]	兼	6.00	0.20
							製剤設計Ⅳ(開発と生産)[13～14]	兼		
							薬学への招待[19～]		1.50	0.05
							実習ⅢB[19～]	◎	18.00	0.60
							医薬品安全性評価学	院兼	6.00	0.20
							授業担当時間の合計		52.50	1.75

薬学科	教授	■■■■■	■	■	■■■■■	■■■■■	生理学[19～]		18.00	0.60
							生理学[再]		18.00	0.60
							細胞の分子生物学Ⅲ[19～]		18.00	0.60
							細胞の分子生物学Ⅲ(遺伝子の機能)[15～18]			
							細胞の分子生物学Ⅲ[再]		18.00	0.60
							微生物学[19～]		18.00	0.60
							微生物と感染症[15～18]			
							生命薬学最前線Ⅱ[19～]	兼	3.00	0.10
							生命薬学最前線[15～18]	兼		
							生物薬学複合科目Ⅰ[12]	兼	13.50	0.45
							生物薬学複合科目Ⅰ[13～14]	兼		
							生物薬学複合科目Ⅰ[15～18]	兼		
							実習ⅡB[19～]	◎	37.50	1.25
							演習ⅠB[19～]		3.00	0.10
							演習ⅡB[19～]		18.00	0.60
							授業担当時間の合計		165.00	5.50
薬学科	教授	■■■■■	■	■	■■■■■	■■■■■	病態治療学Ⅰ[19～]		18.00	0.60
							薬物治療Ⅱ(中枢)[15～18]			
							病態治療学Ⅳ[19～]		18.00	0.60
							薬物治療Ⅳ(代謝)[15～18]			
							医療薬学複合科目Ⅱ[15～18]	兼	12.00	0.40
							医療薬学複合科目Ⅱ[13～14]	兼		
							医療薬学複合科目Ⅱ[12]	兼		
							薬学への招待[19～]		1.50	0.05
							実習Ⅳ[19～]	◎	27.00	0.90
							事前実習[19～]	◎	27.00	0.90
							処方解析学	院兼	4.50	0.15
							授業担当時間の合計		108.00	3.60
薬学科	教授	■■■■■	■	■	■■■■■	■■■■■	衛生薬学Ⅰ[19～]		18.00	0.60
							衛生Ⅱ(栄養と食品衛生)[15～18]			
							衛生薬学Ⅰ[再]		18.00	0.60
							衛生薬学Ⅱ[19～]		18.00	0.60
							衛生薬学Ⅱ[再]		18.00	0.60
							衛生薬学Ⅲ[19～]		18.00	0.60
							衛生Ⅲ(環境衛生)[15～18]			
							抗加齢薬学[19～]	兼	6.00	0.20
							栄養学特論[19～]	兼	1.50	0.05
							応用衛生薬学Ⅰ[15～18]	兼	10.50	0.35
							応用衛生薬学Ⅰ[13～14]	兼		
							健康食品・サプリメントを知る[12]	兼		
							社会薬学複合科目Ⅰ[15～18]	兼	9.00	0.30
							社会薬学複合科目Ⅰ[13～14]	兼		
							社会薬学複合科目Ⅰ[12]	兼		
							実習ⅢB[19～]	◎	28.50	0.95
							授業担当時間の合計		145.50	4.85
薬学科	教授	■■■■■	■	■	■■■■■	■■■■■	薬剤学特論Ⅰ[19～]	兼	4.50	0.15
							WinNonlinによるPKモデリングの実践[15～18]	兼		
							チーム医療を実践する[19～]	兼	1.50	0.05
							薬学への招待[19～]		1.50	0.05
							実習ⅢA[19～]	◎	13.50	0.45
							実習Ⅳ[19～]	◎	4.50	0.15
							事前実習[19～]	◎	4.50	0.15
							個別化治療設計学	院兼	4.50	0.15
							授業担当時間の合計		34.50	1.15

薬学科	教授	■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■	■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■	■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■	■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■	薬理学Ⅴ[19～]		18.00	0.60
						薬理Ⅴ(化学療法)[15～18]			
						薬理学最前線[19～]	兼	1.50	0.05
						応用薬理学[19～]	兼	1.50	0.05
						医療薬学複合科目Ⅰ[15～18]	兼	6.00	0.20
						医療薬学複合科目Ⅰ[13～14]	兼		
						応用薬理Ⅰ[15～18]		22.50	0.75
						応用薬理Ⅰ[13～14]			
						がんとの闘い[12]			
						実習ⅢA[19～]	◎	90.00	3.00
						演習ⅢA[19～]		45.00	1.50
授業担当時間の合計								184.50	6.15
薬学科	教授	■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■	■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■	■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■	■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■	コミュニティーファーマシー・薬剤師の心構え[15～18]	兼	1.50	0.05
						生物薬剤学Ⅱ[19～]	兼	9.00	0.30
						生物薬剤学Ⅱ(薬物動態の解析)[15～18]	兼		
						病態治療学Ⅲ[19～]		18.00	0.60
						薬物治療Ⅲ(循環器)[15～18]			
						生物薬剤学Ⅲ[19～]	兼	9.00	0.30
						テーラーメイド薬物治療[15～18]	兼		
						薬剤学特論Ⅱ[19～]	兼	1.50	0.05
						症例で考える[15～18]	兼	9.00	0.30
						症例で考える[13～14]	兼		
						症例で考える[12]	兼		
						薬学への招待[19～]		1.50	0.05
						実習ⅢA[19～]	◎	55.50	1.85
						実習ⅢB[19～]	◎	27.00	0.90
						演習ⅢA[19～]		18.00	0.60
						演習ⅢB[19～]		10.50	0.35
						個別化治療設計学	院兼	4.50	0.15
						医薬品安全性評価学	院兼	9.00	0.30
授業担当時間の合計								174.00	5.80
薬学科	教授	■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■	■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■	■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■	■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■	物理化学Ⅱ[19～]		18.00	0.60
						物質の状態Ⅲ(変化と移動)[15～18]			
						物理化学Ⅱ[再]		18.00	0.60
						物理化学Ⅳ[19～]		18.00	0.60
						物理化学Ⅳ[再]		18.00	0.60
						薬品分析学Ⅲ[19～]	兼	9.00	0.30
						分析・製剤技術の最前線Ⅰ[15～18]	兼	1.50	0.05
						多職種連携実践A[19～]	兼	12.00	0.40
						多職種連携実践B[19～]	兼	3.00	0.10
						多職種連携実践C[19～]	兼	15.00	0.50
						多職種連携実践D[19～]	兼	15.00	0.50
						分析技術の最前線[19～]	兼	1.50	0.05
						物質の分析Ⅴ(医薬品の評価)[15～18]	兼	10.50	0.35
						物質の分析Ⅴ(医薬品の評価)[13～14]	兼		
						医薬品を評価する[12]	兼		
						基礎薬学複合科目Ⅱ[15～18]	兼	10.50	0.35
						基礎薬学複合科目Ⅱ[13～14]	兼		
						基礎薬学複合科目Ⅱ[12]	兼		
						実習ⅡA[19～]	◎	55.50	1.85
						実習ⅡB[19～]	◎	54.00	1.80
						演習ⅡA[19～]		18.00	0.60
						演習ⅡB[19～]		18.00	0.60
授業担当時間の合計								295.50	9.85

薬学科	教授	■■■ ■■■	■	■	■■■	■■■■■	薬理学Ⅲ〔19～〕		18.00	0.60							
							薬理Ⅲ（循環器）〔15～18〕										
							薬理学Ⅳ〔19～〕		18.00	0.60							
							薬理Ⅳ（代謝性疾患）〔15～18〕										
							薬理学Ⅵ〔19～〕		18.00	0.60							
							薬理学最前線〔19～〕	兼	3.00	0.10							
							応用薬理学〔19～〕	兼	3.00	0.10							
							応用薬理Ⅱ〔15～18〕		18.00	0.60							
							応用薬理Ⅱ〔13～14〕										
							薬学への招待〔19～〕		1.50	0.05							
							社会の中の薬学〔19～〕	兼	4.50	0.15							
							薬剤師の仕事〔15～18〕	兼									
							実習ⅢA〔19～〕	◎	81.00	2.70							
							演習ⅢA〔19～〕		10.50	0.35							
							授業担当時間の合計		175.50	5.85							
							薬学科	准教授	■■■■■	■	■	■■■■■	■■■■■	製剤学Ⅲ〔19～〕		18.00	0.60
製剤設計Ⅲ（薬物送達システム）〔15～18〕																	
製剤技術の最前線〔19～〕	兼	3.00	0.10														
分析・製剤技術の最前線Ⅰ〔15～18〕																	
海外の薬剤師に学ぶⅡ〔19～〕	兼	3.00	0.10														
製剤設計Ⅳ（開発と生産）〔15～18〕	兼	6.00	0.20														
製剤設計Ⅳ（開発と生産）〔13～14〕																	
実習ⅢB〔19～〕	◎	82.50	2.75														
演習ⅢB〔19～〕		18.00	0.60														
授業担当時間の合計		130.50	4.35														
薬学科	准教授 （実務）	■■■■■	■	■	■■■■■	■■■■■	臨床薬学Ⅰ〔19～〕		18.00	0.60							
							患者情報の収集とコミュニケーション〔15～18〕	兼	9.00	0.30							
							臨床代謝栄養学〔19～〕		18.00	0.60							
							臨床代謝栄養学〔15～18〕										
							医療英語コミュニケーション〔19～〕		12.00	0.40							
							医療英語コミュニケーション〔15～18〕	兼	15.00	0.50							
							医療英語コミュニケーション〔13～14〕	兼									
							医療英語コミュニケーション〔12〕	兼									
							海外の薬剤師に学ぶⅢ〔19～〕	兼	6.00	0.20							
							医療の中の薬学〔19～〕	兼	1.50	0.05							
							早期体験〔19～〕	兼	3.00	0.10							
							実習Ⅳ〔19～〕	◎	52.50	1.75							
							事前実習〔19～〕	◎	127.50	4.25							
							授業担当時間の合計		262.50	8.75							
							薬学科	准教授 （実務）	■■■■■	■	■	■■■■■	■■■■■	コミュニケーション〔19～〕	兼	9.00	0.30
														コミュニケーション〔再〕	兼	9.00	0.30
信頼関係の構築・調剤の基礎〔15～18〕	兼	9.00	0.30														
病態治療学Ⅵ〔19～〕	兼	4.50	0.15														
薬物治療Ⅴ（化学療法）〔15～18〕	兼																
がんと緩和医療薬学Ⅰ〔19～〕		6.00	0.20														
がんと緩和医療薬学〔15～18〕																	
がんと緩和医療薬学Ⅱ〔19～〕		6.00	0.20														
医療英語コミュニケーション〔15～18〕	兼	6.00	0.20														
医療英語コミュニケーション〔13～14〕	兼																
医療英語コミュニケーション〔12〕	兼																
薬剤師活動最前線〔15～18〕	兼	9.00	0.30														
薬剤師活動最前線〔13～14〕	兼																
薬剤師活動最前線〔12〕	兼																
医療の中の薬学〔19～〕	兼	1.50	0.05														
早期体験〔19～〕	兼	3.00	0.10														
実習Ⅳ〔19～〕	◎	49.50	1.65														
事前実習〔19～〕	◎	135.00	4.50														
医薬品安全性評価学	院兼	3.00	0.10														
授業担当時間の合計		304.50	10.15														

薬学科	准教授	■■■■■	■	■	■■■■■	■■■■■	医療薬学複合科目Ⅱ [15～18]	兼	6.00	0.20
							医療薬学複合科目Ⅱ [13～14]	兼		
							医療薬学複合科目Ⅱ [12]	兼		
							社会の中の薬学 [19～]	兼	4.50	0.15
							薬剤師の仕事 [15～18]	兼		
							海外の薬剤師に学ぶⅡ [19～]	兼		
							実習Ⅳ [19～]	◎	22.50	0.75
							事前実習 [19～]	◎	40.50	1.35
							授業担当時間の合計		79.50	2.65
薬学科	准教授 (実務)	■■■■■	■	■	■■■■■	■■■■■	コミュニティーファーマシー・薬剤師の心構え [15～18]	兼	16.50	0.55
							医薬品情報 [19～]	兼	13.50	0.45
							医薬品情報学 [15～18]	兼		
							エビデンスに基づいた薬物治療Ⅰ [19～]		12.00	0.40
							エビデンスに基づいた薬物治療を考える [15～18]			
							エビデンスに基づいた薬物治療Ⅱ [19～]		12.00	0.40
							薬剤師活動最前線 [15～18]	兼	9.00	0.30
							薬剤師活動最前線 [13～14]	兼		
							薬剤師活動最前線 [12]	兼		
							医療の中の薬学 [19～]	兼	1.50	0.05
							早期体験 [19～]	兼	3.00	0.10
							実習ⅠA [19～]	◎	3.00	0.10
							実習Ⅳ [19～]	◎	48.00	1.60
							事前実習 [19～]	◎	102.00	3.40
							先進医療薬学	院兼	4.50	0.15
							授業担当時間の合計		225.00	7.50
薬学科	准教授	■■■ ■■	■	■	■■■■■	■■■■■	基礎化学 [19～]		18.00	0.60
							基礎化学 [再]		18.00	0.60
							有機化学Ⅰ [19～]		18.00	0.60
							有機化学Ⅰ [再]		18.00	0.60
							薬学への招待 [19～]		1.50	0.05
							実習ⅠA [19～]	◎	24.00	0.80
							実習ⅠB [19～]	◎	27.00	0.90
							実習ⅡA [19～]	◎	9.00	0.30
							実習ⅡB [19～]	◎	18.00	0.60
							演習ⅠA [19～]		13.50	0.45
							演習ⅠB [19～]		16.50	0.55
							演習ⅡA [19～]		9.00	0.30
							演習ⅢB [19～]		3.00	0.10
							授業担当時間の合計		193.50	6.45
薬学科	准教授	■■■■■	■	■	■■■■■	■■■■■	物理化学Ⅰ [19～]		18.00	0.60
							物理化学Ⅰ [再]		18.00	0.60
							物理化学Ⅲ [19～]		18.00	0.60
							物理化学Ⅲ [再]		18.00	0.60
							分析技術の最前線 [19～]	兼	3.00	0.10
							分析・製剤技術の最前線Ⅰ [15～18]	兼		
							物質の分析Ⅴ (医薬品の評価) [15～18]	兼	4.50	0.15
							物質の分析Ⅴ (医薬品の評価) [13～14]	兼		
							医薬品を評価する [12]	兼		
							基礎薬学複合科目Ⅱ [12]	兼	4.50	0.15
							基礎薬学複合科目Ⅱ [13～14]	兼		
							基礎薬学複合科目Ⅱ [15～18]	兼		
							実習ⅡA [19～]	◎	45.00	1.50
							実習ⅡB [19～]	◎	55.50	1.85
							演習ⅡA [19～]		18.00	0.60
							演習ⅡB [19～]		18.00	0.60
							授業担当時間の合計		220.50	7.35

薬学科	講師 (実務)	■■■■■	■	■	■■■■■	■■■■■	病態治療学Ⅱ[19～]	兼	9.00	0.30
							薬物治療Ⅰ(免疫)[15～18]	兼		
							臨床薬学Ⅱ[19～]	兼	9.00	0.30
							チーム医療を実践する[19～]		12.00	0.40
							医療の中の薬学[19～]	兼	1.50	0.05
							薬学総合科目Ⅱ		12.00	0.40
							早期体験[19～]	兼	3.00	0.10
							実習Ⅳ[19～]	◎	55.50	1.85
							事前実習[19～]	◎	144.00	4.80
							授業担当時間の合計		246.00	8.20
薬学科	講師	■■■■■	■	■	■■■■■	■■■■■	薬品分析学Ⅳ[19～]		18.00	0.60
							物質の分析Ⅳ(臨床応用)[15～18]			
							多職種連携実践A[19～]	兼	12.00	0.40
							多職種連携実践B[19～]	兼	18.00	0.60
							多職種連携実践C[19～]	兼	15.00	0.50
							多職種連携実践D[19～]	兼	15.00	0.50
							物質の分析Ⅴ(医薬品の評価)[15～18]	兼	18.00	0.60
							物質の分析Ⅴ(医薬品の評価)[13～14]	兼		
							医薬品を評価する[12]	兼	4.50	0.15
							基礎薬学複合科目Ⅱ[15～18]	兼		
							基礎薬学複合科目Ⅱ[13～14]	兼		
							基礎薬学複合科目Ⅱ[12]	兼		
							実習ⅢB[19～]	◎	54.00	1.80
							演習ⅢB[19～]		27.00	0.90
							授業担当時間の合計		181.50	6.05
薬学科	講師 (実務)	■■■■■	■	■	■■■■■	■■■■■	信頼関係の構築・調剤の基礎[15～18]	兼	9.00	0.30
							調剤学[19～]		18.00	0.60
							セルフメディケーション[19～]		12.00	0.40
							セルフメディケーション[15～18]			
							高齢者介護にかかわる[15～18]	兼	9.00	0.30
							高齢者介護にかかわる[13～14]	兼		
							高齢者介護にかかわる[12]	兼		
							医療の中の薬学[19～]	兼	1.50	0.05
							実習Ⅳ[19～]	◎	48.00	1.60
							事前実習[19～]	◎	97.50	3.25
							授業担当時間の合計		195.00	6.50
薬学科	講師	■■■■■	■	■	■■■■■	■■■■■	薬理学Ⅰ[19～]		18.00	0.60
							薬理学Ⅰ[再]		18.00	0.60
							薬理学Ⅱ[19～]		18.00	0.60
							薬理Ⅱ(中枢)[15～18]			
							薬理学Ⅱ[再]		18.00	0.60
							薬理学最前線[19～]	兼	1.50	0.05
							応用薬理学[19～]	兼	1.50	0.05
							医療薬学複合科目Ⅰ[13～14]	兼	12.00	0.40
							医療薬学複合科目Ⅰ[15～18]	兼		
							実習ⅢA[19～]	◎	100.50	3.35
							演習ⅢA[19～]		49.50	1.65
							授業担当時間の合計		237.00	7.90

薬学科	講師	■ ■	■ ■	■ ■	■ ■	■ ■	生薬学[19～]		18.00	0.60
							自然が生み出す薬物Ⅰ[15～18]			
							漢方医薬学[19～]		18.00	0.60
							自然が生み出す薬物Ⅱ[15～18]			
							天然医薬品化学[19～]		12.00	0.40
							生物有機化学[15～18]	兼	7.50	0.25
							生物有機化学[13～14]	兼		
							分子設計学[12]	兼		
							早期体験[19～]	◎	27.00	0.90
							実習ⅡA[19～]	◎	13.50	0.45
							実習ⅡB[19～]	◎	27.00	0.90
							演習ⅡA[19～]		9.00	0.30
							演習ⅡB[19～]		3.00	0.10
							授業担当時間の合計		135.00	4.50
薬学科	講師	■ ■	■ ■	■ ■	■ ■	■ ■	免疫学[19～]		18.00	0.60
							免疫学[15～18]			
							生命薬学最前線Ⅰ[19～]	兼	3.00	0.10
							生命薬学最前線[15～18]	兼		
							社会の中の薬学[19～]	兼	1.50	0.05
							薬剤師の仕事[15～18]	兼		
							実習ⅡB[19～]	◎	54.00	1.80
							授業担当時間の合計		76.50	2.55
薬学科	講師 (実務)	■ ■	■ ■	■ ■	■ ■	■ ■	コミュニケーション[19～]	兼	9.00	0.30
							コミュニケーション[再]	兼	9.00	0.30
							患者情報の収集とコミュニケーション[15～18]	兼	9.00	0.30
							臨床薬学Ⅱ[19～]	兼	9.00	0.30
							アドバンストコミュニケーションⅠ[19～]		12.00	0.40
							アドバンストコミュニケーション[15～18]			
							アドバンストコミュニケーションⅡ[19～]		12.00	0.40
							高齢者介護にかかわる[15～18]	兼	9.00	0.30
							高齢者介護にかかわる[13～14]	兼		
							高齢者介護にかかわる[12]	兼		
							医療の中の薬学[19～]	兼	3.00	0.10
							早期体験[19～]	兼	3.00	0.10
							実習Ⅳ[19～]	◎	42.00	1.40
							事前実習[19～]	◎	124.50	4.15
							授業担当時間の合計		241.50	8.05
薬学科	講師	■ ■	■ ■	■ ■	■ ■	■ ■	生化学Ⅰ[19～]		18.00	0.60
							生化学Ⅰ[再]		18.00	0.60
							生化学Ⅱ[19～]		18.00	0.60
							生化学Ⅱ[再]		18.00	0.60
							抗加齢薬学[19～]	兼	3.00	0.10
							栄養学特論[19～]	兼	1.50	0.05
							応用衛生薬学Ⅰ[15～18]	兼	9.00	0.30
							応用衛生薬学Ⅰ[13～14]	兼		
							健康食品・サプリメントを知る[12]	兼		
							生物薬学複合科目Ⅰ[15～18]	兼	9.00	0.30
							生物薬学複合科目Ⅰ[13～14]	兼		
							生物薬学複合科目Ⅰ[12]	兼		
							実習ⅢB[19～]	◎	27.00	0.90
							演習ⅠB[19～]		7.50	0.25
							演習ⅢB[19～]		4.50	0.15
							授業担当時間の合計		133.50	4.45

薬学科	講師 (実務)	■■■■■	■	■	■■■■■	■■■■■	医薬品情報〔19～〕	兼	4.50	0.15
							医薬品情報学〔15～18〕	兼		
							医療システム学〔19～〕		18.00	0.60
							社会保障制度と薬剤経済〔15～18〕			
							感染症について学ぶ〔19～〕		12.00	0.40
							社会薬学複合科目Ⅱ〔15～18〕	兼	9.00	0.30
							社会薬学複合科目Ⅱ〔13～14〕	兼		
							社会薬学複合科目Ⅱ〔12〕	兼		
							医療の中の薬学〔19～〕	兼	1.50	0.05
							早期体験〔19～〕	兼	3.00	0.10
							実習Ⅳ〔19～〕	◎	55.50	1.85
							事前実習〔19～〕	◎	130.50	4.35
							授業担当時間の合計		234.00	7.80
薬学科	講師	■■■■■	■	■	■■■■■	■■■■■	基礎生物学〔19～〕		18.00	0.60
							基礎生物学〔再〕		18.00	0.60
							実習ⅠA〔19～〕	◎	10.50	0.35
							実習ⅠB〔19～〕	◎	18.00	0.60
							実習ⅡB〔19～〕	◎	18.00	0.60
							演習ⅠA〔19～〕		21.00	0.70
							演習ⅡA〔19～〕		18.00	0.60
							演習ⅡB〔19～〕		34.50	1.15
							演習ⅢA〔19～〕		18.00	0.60
							演習ⅢB〔19～〕		16.50	0.55
							薬学応用演習		87.00	2.90
							授業担当時間の合計		277.50	9.25
薬学科	講師	■■■■■	■	■	■■■■■	■■■■■	薬品分析学Ⅰ〔19～〕		18.00	0.60
							薬品分析学Ⅰ〔再〕		18.00	0.60
							薬品分析学Ⅱ〔19～〕		18.00	0.60
							薬品分析学Ⅱ〔再〕		18.00	0.60
							薬品分析学Ⅲ	兼	9.00	0.30
							日本薬局方Ⅰ〔19～〕	兼	9.00	0.30
							日本薬局方Ⅰ〔再〕	兼	9.00	0.30
							分析・製剤技術の最前線Ⅰ〔15～18〕	兼	3.00	0.10
							分析技術の最前線〔19～〕	兼	3.00	0.10
							物質の分析Ⅴ（医薬品の評価）〔15～18〕	兼	4.50	0.15
							物質の分析Ⅴ（医薬品の評価）〔13～14〕	兼		
							医薬品を評価する〔12〕	兼		
							基礎薬学複合科目Ⅱ〔15～18〕	兼	6.00	0.20
							基礎薬学複合科目Ⅱ〔13～14〕	兼		
							基礎薬学複合科目Ⅱ〔12〕	兼		
							薬学への招待〔19～〕		1.50	0.05
							実習ⅡA〔19～〕	◎	54.00	1.80
							実習ⅡB〔19～〕	◎	54.00	1.80
							演習ⅡA〔19～〕		18.00	0.60
							演習ⅡB〔19～〕		18.00	0.60
							授業担当時間の合計		261.00	8.70
薬学科	講師	■■■■■	■	■	■■■■■	■■■■■	生物薬剤学Ⅰ〔19～〕	兼	3.00	0.10
							生物薬剤学Ⅰ（薬物の体内動態）〔15～18〕	兼		
							薬剤学特論Ⅱ〔19～〕	兼	1.50	0.05
							医療薬学複合科目Ⅳ〔15～18〕	兼	6.00	0.20
							医療薬学複合科目Ⅳ〔13～14〕	兼		
							医療薬学複合科目Ⅳ〔12〕	兼		
							実習ⅢA〔19～〕	◎	67.50	2.25
							実習ⅢB〔19～〕	◎	40.50	1.35
							授業担当時間の合計		118.50	3.95

薬学科	講師	■■■■■	■	■	■■■■■	■■■■■	基礎物理学[19～]		18.00	0.60
							基礎物理学[再]		18.00	0.60
							有機化学最前線[19～]	兼	1.50	0.05
							実習ⅠA[19～]	◎	19.50	0.65
							実習ⅠB[19～]	◎	18.00	0.60
							実習ⅡA[19～]	◎	27.00	0.90
							実習ⅢB[19～]	◎	27.00	0.90
							演習ⅡA[19～]		15.00	0.50
							演習ⅡB[19～]		12.00	0.40
							演習ⅢA[19～]		15.00	0.50
							演習ⅢB[19～]		12.00	0.40
							授業担当時間の合計		183.00	6.10
薬学科	助教	■■■■■	■	■	■■■■■	■■■■■	製剤技術の最前線[19～]	兼	3.00	0.10
							分析・製剤技術の最前線Ⅰ[15～18]	兼		
							実習ⅢB[19～]	◎	90.00	3.00
							演習ⅢB[19～]		15.00	0.50
							授業担当時間の合計		108.00	3.60
薬学科	助教	■■■■■	■	■	■■■■■	■■■■■	生命薬学最前線[15～18]	兼	3.00	0.10
							生命薬学最前線Ⅱ[19～]	兼		
							実習ⅢA[19～]	◎	54.00	1.80
							演習ⅢA[19～]		18.00	0.60
							授業担当時間の合計		75.00	2.50
薬学科	助教	■■■■■	■	■	■■■■■	■■■■■	生命薬学最前線[15～18]	兼	3.00	0.10
							実習ⅡB[19～]	◎	55.50	1.85
							演習ⅡB[19～]		18.00	0.60
							授業担当時間の合計		76.50	2.55
薬学科	助教	■■■■■	■	■	■■■■■	■■■■■	分析・製剤技術の最前線Ⅰ[15～18]	兼	3.00	0.10
							分析技術の最前線[19～]	兼		
							実習ⅡA[19～]	◎	36.00	1.20
							実習ⅡB[19～]	◎	54.00	1.80
							演習ⅡA[19～]		18.00	0.60
							演習ⅡB[19～]		18.00	0.60
							授業担当時間の合計		129.00	4.30
薬学科	助教	■■■■■	■	■	■■■■■	■■■■■	有機化学最前線[19～]	兼	1.50	0.05
							実習ⅡA[19～]	◎	37.50	1.25
							実習ⅢB[19～]	◎	30.00	1.00
							演習ⅡA[19～]		12.00	0.40
							演習ⅢB[19～]		6.00	0.20
							授業担当時間の合計		87.00	2.90
薬学科	助教	■■■■■	■	■	■■■■■	■■■■■	薬理学最前線[19～]	兼	6.00	0.20
							応用薬理学[19～]	兼	6.00	0.20
							実習ⅢA[19～]	◎	90.00	3.00
							演習ⅢA[19～]		39.00	1.30
							授業担当時間の合計		141.00	4.70
薬学科	助教	■■■■■	■	■	■■■■■	■■■■■	早期体験[19～]	◎	9.00	0.30
							実習ⅠA[19～]	◎	22.50	0.75
							実習ⅠB[19～]	◎	25.50	0.85
							演習ⅠA[19～]		10.50	0.35
							演習ⅠB[19～]		6.00	0.20
							授業担当時間の合計		73.50	2.45
薬学科	助教	■■■■■	■	■	■■■■■	■■■■■	(長期海外研究員)			
							授業担当時間の合計		0.00	0.00
薬学科	助教	■■■■■	■	■	■■■■■	■■■■■	機能性分子化学[19～]	兼	3.00	0.10
							実習ⅡA[19～]	◎	37.50	1.25
							実習ⅢB[19～]	◎	45.00	1.50
							演習ⅡB[19～]		3.00	0.10
							演習ⅢB[19～]		22.50	0.75
							授業担当時間の合計		111.00	3.70

薬学科	助教	■ ■	■ ■	■ ■	■ ■	■ ■	早期体験[19～]	◎	9.00	0.30
							社会の中の薬学[19～]	兼	1.50	0.05
							薬剤師の仕事[15～18]	兼		
							実習ⅠA[19～]	◎	19.50	0.65
							実習ⅠB[19～]		27.00	0.90
							演習ⅠA[19～]		9.00	0.30
							授業担当時間の合計		66.00	2.20
薬学科	助教	■ ■	■ ■	■ ■	■ ■	■ ■	有機合成化学[19～]	兼	3.00	0.10
							実習ⅡA[19～]	◎	36.00	1.20
							実習ⅡB[19～]	◎	9.00	0.30
							実習ⅢB[19～]	◎	24.00	0.80
							演習ⅡA[19～]		12.00	0.40
							演習ⅡB[19～]		9.00	0.30
							授業担当時間の合計		93.00	3.10
薬学科	助教	■ ■	■ ■	■ ■	■ ■	■ ■	実習ⅠA[19～]	◎	15.00	0.50
							実習ⅢB[19～]	◎	58.50	1.95
							演習ⅢB[19～]		21.00	0.70
							授業担当時間の合計		94.50	3.15

- 2 学科制薬学部で4年制学科の兼任教員となっている場合は（兼任学科名）を付記してください。
- 臨床における実務経験を有する専任教員には、職名に（実務）と付記してください。
- 「授業担当科目」には、「卒業研究」の指導を除く全ての授業担当科目（兼任学科・兼任学科の科目、大学院の授業科目も含む）を記入し、実習科目は科目名の右欄に◎を、大学院科目は「院」の字を記入してください。
- 「授業時間」には、当該教員がその科目で行う延べ授業時間（実働時間）の時間数を、以下に従ってご記入ください（小数点以下2桁まで）。
※講義科目は時間割から計算される実際の時間数（1コマ90分の授業15回担当すれば、90×15÷60＝22.5時間）を記入します。
※複数教員で分担している場合は授業回数を分担回数とし、履修者が多いため同一科目を反復開講している場合は授業時間数に反復回数を乗じます。
※実習科目では、同一科目を複数教員（例えば、教授1名と助教、助手2名）が担当していても、常時共同で指導している場合は分担担当としません。
- 「年間で平均した週当たり授業時間」には、総授業時間を「30」（授業が実施される1年間の基準週数）で除した値を記入してください。
開講する週数が30週ではない大学でも、大学間の比較ができるよう「30」で除してください。
- 基礎資料7に記載の氏名・年齢・性別・学位称号・現職就任年月日は、個人情報保護の観点から、公表時には黒塗りにして当機構WEBページに掲載いたします。
評価用の基礎資料とは別に、該当箇所（項目名以外）を黒塗りした基礎資料7を含む、基礎資料全体のPDFファイルをご提出ください。

（基礎資料 7）教員の教育担当状況（続）

表 2. 助手（基礎資料 5 の表 2）の教育担当状況

学科	職名	氏名	年齢	性別	学位	就任年月日	授業担当科目		総授業時間	年間で平均した 週当たり授業時間
薬学科	助手	■■■■■	■	■	■■■■■	■■■■■				
薬学科	助手	■■■■■	■	■	■■■■■ ■■■■■	■■■■■	実習ⅢA[19～]	◎	81.00	2.70
薬学科	助手	■■■■■	■	■	■■■■■ ■■■■■	■■■■■	実習ⅢA[19～]	◎	54.00	1.80

[注] 担当時間数などの記入については（基礎資料 7）の表 1 の脚注に倣ってください。助手については、「授業担当時間の合計」の算出は不要です。

表 3. 兼任教員（基礎資料 5 の表 2）が担当する薬学科（6 年制）の専門科目と担当時間

学科	職名	氏 名	年齢	性別	学位	現職就任 年 月 日	授業担当科目		総授業時間	年間で平均した 週当たり授業時間
		(該当なし)								

[注] 担当時間数などの記入については（基礎資料 7）の表 1 の脚注に倣ってください。兼任教員については、「授業担当時間の合計」の算出は不要です。

(基礎資料8) 卒業研究の学生配属状況および研究室の広さ

4年生の在籍学生数 209 名
 5年生の在籍学生数 215 名
 6年生の在籍学生数 279 名

	配属講座など	指導教員数	4年生 配属学生数	5年生 配属学生数	6年生 配属学生数	合計	卒業研究を実施する 研究室の面積 (㎡)
1	有機反応化学研究室	2	7	10	6	23	225.3
2	機能性分子化学研究室	2	9	10	12	31	225.3
3	生物有機化学研究室	2	10	4	7	21	225.3
4	薬用資源学研究室	1	6	7	9	22	67.1
5	レギュラトリーサイエンス研究室	2	6	9	12	27	225.3
6	生体光計測研究室	2	11	9	8	28	225.3
7	細胞分子生物学研究室	2	12	9	13	34	225.3
8	生体機能制御学研究室	3	16	11	12	39	225.3
9	生化学研究室	2	13	13	18	44	225.3
10	毒性学研究室	1	0	2	9	11	19.0
11	衛生化学研究室(1)	1	6	7	9	22	190.8
12	製剤学研究室	2	11	10	13	34	225.3
13	薬物送達システム学研究室	2	12	14	17	43	225.3
14	薬理学研究室	2	2	1	14	17	225.3
15	循環器薬理學研究室	2	10	13	11	34	225.3
16	病態代謝研究室	2	12	10	16	38	225.3
17	フィジカル・アセスメント研究室	1	7	6	11	24	19.0
18	臨床薬学研究室	3	8	13	12	33	225.3
19	臨床薬剤学研究室	3	14	15	14	43	225.3
20	臨床薬物動態学研究室	3	14	14	17	45	225.3
21	臨床代謝栄養学研究室	1	2	4	2	8	65.9
22	緩和医療研究室	1	3	2	4	9	65.9
23	こころの健康研究室	1	3	5	2	10	65.9
24	医療連携研究室	1	2	2	4	8	65.9
25	臨床医薬品評価学研究室	1	2	0	0	2	65.9
26	医療コミュニケーション研究室	1	2	2	2	6	65.9
27	実践薬学研究室	1	3	1	2	6	65.9
28	有機薬化学研究室	1	0	1	2	3	206.3
29	分析化学研究室	1	0	5	4	9	206.3
30	細胞生物学研究室	1	0	0	3	3	206.3
31	衛生化学研究室(2)	1	0	1	5	6	206.3
32	医薬品情報学研究室	1	6	5	9	20	19.0
合 計			209	215	279	703	

- [注] 1 卒業研究を実施している学年にあわせ、欄を増減して作成してください。
 2 指導教員数には担当する教員（助手を含む）の数を記入してください。
 3 講座制をとっていない大学は、配属講座名を適宜変更して作成してください。
 4 隣接する複数の講座などで共有して使用する実験室などは、基礎資料11-2に記載してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
神戸学院大学	講座名 医療薬学領域製剤系	職名 教授	氏名 市川 秀喜
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫			
e-ラーニングの活用		2020年4月～	学習内容の習熟度を確保する目的で、毎授業に学習管理システム(LMS)を用いてオンラインポストテスト(5～10問程度/回)を実施している。コロナ禍においては、ポストテストの解説動画を作成し、学内LMSを通じて毎テスト実施後に配信して、受講生がポストテストの内容の振り返りができるようにした。
反転型授業の実施(製剤学Ⅱ、日本薬局方Ⅰ)		2022年9月～	事前学習用に作成した全授業回分のオンデマンドビデオ教材(スライド提示+教員による説明ナレーション)を各授業1週間前に配信し、受講生は事前視聴にて予習してから、対面授業に臨む形式で進めている。対面授業時には、ビデオ内容の補足、質問に対する解説、課題演習の取り組みを通じて受講生がアウトプットを確認できるようにしている。
2 作成した教科書、教材、参考書			
担当科目のオリジナル教材		2019年4月～	担当科目(日本薬局方Ⅱ、製剤学Ⅱ、製剤技術の最前線、製剤設計Ⅳ)のオリジナル教材(講義用パワーポイントスライド、製剤学資料集)を作成し、冊子体にして受講生へ配付した。
『パートナー薬剤学』改訂第4版、原島秀吉・伊藤智夫・寺田勝英・伊藤清美 編(南江堂)		2022年2月15日	第4章製剤設計 2. 製剤化と製剤試験法の「医薬品添加物、製剤化の単位操作と製剤機械、代表的な製剤の具体的な製造工程、容器と包装」(pp. 322-339)、「演習問題と解説」(pp. 351-352, pp. 417-418)を執筆した。
『HANDY INTELLIGENCE 日本薬局方』18局準拠版、平野裕之・市川秀喜 著(京都廣川書店)		2022年3月18日	Chapter3 製剤総則(pp. 15-88)、Chapter4 一般試験法の「熱分析法」(pp. 170-172)、「粉末X線回折法」(pp. 182-184)、「粉体物性測定法」(pp. 204-217)、「製剤試験法」(pp. 238-279)を執筆した。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			なし
4 その他教育活動上特記すべき事項			
製剤技術伝承講習会の講師担当		2019年7月2日	(公社)日本薬剤学会主催の左記講習会にて、製薬関連企業等所属の受講生を対象に「医薬品微粒子のコーティングテクニック」について理論と実践面の解説講義を行った。
次世代スーパーエンジニア養成コースの講師担当		2022年2月5日 2023年2月11日	(大)富山大学主催の左記養成コースの製剤工学特論にて、製薬企業技術者等を対象に「固形製剤製法(主に打錠、コーティング)」について理論と実践面の解説講義を行った。
高校生向け模擬授業		2022年10月21日 2023年7月11日	兵庫県立相生高等学校と兵庫県立東播磨高等学校にて、各在学1-2年生を対象に「製剤ってなんだろうーくすりの使い易さと効き目をよくする仕掛け」と題して講義とミニ実験を行った。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) Mathematical modeling of coating time in dry particulate coating using mild vibration field with bead media described by DEM simulation	共著	2022年11月	Elsevier, Adv Powder Technol, 33, 103779
(著書) 医薬品添加剤における開発および製剤設計・評価の新展開(監修・寺田勝英)第Ⅲ編 第1章 微粒子コーティングのための添加剤・処方設計	共著	2022年4月	シーエムシー出版、pp. 137-150
(論文) Design and preparation of nanocomposite acrylate coating agents for binder-free dry coating of 100 μm-sized drug-containing particles and their coating performance	共著	2022年1月	Elsevier, Eur J Pharm Biopharm, 170, 133-143

(論文) BNCT for primary synovial sarcoma	共著	2021年3月	Elsevier、Appl Radiat Isot, 169, 109407
(論文) Influence of the particle size of gadolinium-loaded chitosan nanoparticles on their tumor-killing effect in neutron capture therapy in vitro	共著	2020年10月	Elsevier、Appl Radiat Isot, 164, 109270
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) がん中性子捕捉療法用Gd含有キトサンナノ粒子の表面修飾が腫瘍内滞留性と抗腫瘍効果に与える影響		2023年11月	第40回製剤と粒子設計シンポジウム
(演題名) ペプチド医薬の経口送達のための多機能性ナノゲル粒子の開発: スルホン酸系ビニルモノマーの導入が薬物封入・放出特性に与える影響		2023年10月	日本薬学会第73回関西支部大会
(演題名) がん中性子捕捉療法用Gd含有キトサンナノ粒子の開発: 粒子表面修飾が及ぼす腫瘍内直接投与後の腫瘍殺傷効果への影響		2023年3月	日本薬学会第143年会
Ⅲ 学会および社会における主な活動 (直近5年間に携わったものの数件)			
2013年1月～現在	(一社) 粉体工学会 理事		
2014年4月～現在	(公財) ホソカワ粉体工学振興財団 選考委員		
2016年4月～2021年3月	厚生労働省生活衛生局 薬剤師試験委員		
2018年4月～現在	(一社) 粉体工学会 製剤と粒子設計部会 副部会長		
2020年4月～2024年3月	(公社) 日本薬剤学会 代議員		
2022年3月～現在	白石科学振興会 理事		
2022年6月～現在	粉体工学情報センター学術奨励賞選考委員会 委員		
2024年1月～現在	(一社) 日本中性子捕捉療法学会 理事		

- [注] 1 対象期限: 評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください(年度ごとに代表的なもの2件まで)。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
神戸学院大学	講座名 基礎薬学領域化学系	職名 教授	氏名 稲垣 冬彦
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫		2022年4月1日	講義:有機反応論II 講義内容考案 講義ビデオ作成, 演習問題/解説作成, dotCampus (オンライン) 上での小テスト問題作成
		2020年4月1日	講義:有機反応論I 講義用教材 講義内容考案 講義ビデオ作成, 演習問題/解説作成, dotCampus (オンライン) 上での小テスト問題作成
		2019年4月1日	講義:有機化学II 講義用教材 講義内容考案 講義ビデオ作成, 演習問題/解説作成, dotCampus (オンライン) 上での小テスト問題作成
2 作成した教科書、教材、参考書		2022年4月1日	講義:有機反応論II 講義用教材
		2020年4月1日	講義:有機反応論I 講義用教材
		2019年4月1日	講義:有機化学II 講義用教材
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		2023年3月26日	日本薬学会第143年会(札幌): 基礎化学実習が薬学生のエンゲージメントに与える影響
4 その他教育活動上特記すべき事項		2021年5月28日	出張講義: 明石南高校
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称		単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦) 発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) Photoisomerization of Alkenes via Energy Transfer Enabled by Cu-Acetylide Complexes		共著	2023年11月 <i>Eur. J. Org. Chem.</i> , 2023, e202300948.
(論文) Solidification of aerial CO ₂ -captured aralkylamines in water triggered by self-assembly against affinity for formation of reverse lipid bilayer		共著	2023年12月 <i>Adv. Mater. Interfaces</i> 2023, 2300881.
(著書) 世界のCCUS総合分析: 水分を分離するCO ₂ 吸収/放出剤の開発		共著	2022年8月 (株)シーエムシー・リサーチ ISBN 978-4-910581-25-5
(論文) Copper Complex Featuring Cation-Excess Alternation Counterion Catalyzing Mukaiyama-Aldol Reaction of Ketene Silyl Acetals and Ketones		共著	2022年6月 <i>Tetrahedron Lett.</i> 2022, 100, 153885.
(論文) Diastereoselective Tricyclization/Dimerization of Yne-Indoles Catalyzed by a Au(III) Complex Featuring an L2/Z-type Ligand		共著	2021年8月 <i>Tetrahedron Lett.</i> 2021, 78, 153267.
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(招待講演) 水分離可能な大気中CO ₂ 選択的回収剤		2023年9月	2023年度神戸大学膜工学秋季講演会・膜工学サロン
(招待講演) 2050カーボンニュートラル・ロードマップ実現の救世主 DAC (Direct Air Capture) 技術開発最新動向と応用展開 ~CO ₂ 回収ボトルネック課題である加熱回収時のエネルギー削減を実現~		2023年9月	日本計画研究所
(招待講演) Direct Air Capture (DAC): 水分を分離可能な選択的CO ₂ 回収剤開発~		2023年8月	情報機構
(招待講演) 大気中CO ₂ 選択的回収剤の開発		2023年6月	技術情報センター
(招待講演) 「CO ₂ 」を吸着・吸収する材料・技術の設計、応用、今後の展望: DAC (Direct Air Capture): 大気中のCO ₂ を選択的に吸収する		2023年4月	情報技術協会
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったものの数件)			
2023年9月	第73回 日本薬学会関西支部総会 運営委員		
2020年4月~2021年3月	NEDO技術委員		
2020年4月~現在	神戸市消防局 特殊災害課程実習(年1回)		

2002年10月～現在	日本薬学会会員
-------------	---------

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
神戸学院大学	講座名 基礎薬学領域化学系	職名 教授	氏名 袁 徳其
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫			
オンライン授業および講義動画の配信		2020年4月～	新型コロナウイルス感染症の拡大により、Zoomを用いるオンライン講義を実施した。毎回の授業の後、講義の動画を編集し、オンデマンド資料として受講生がいつでも視聴できるようにした。 毎回授業終了後に、当日の講義内容に関連するオンライン演習(10問)を実施し、理解度をチェックしている。また、復習のために課題を与えてレポートとして提出させている。さらに、章ごとにオンラインで確認テスト(一回につき30問)を実施している。演習および確認テスト終了後に問題及びその解説を常にウェブ上に公開し、いつでも復習できるようにしている。 「有機化学Ⅲ」(2年生)、「有機化学Ⅳ」(3年生)、「有機構造解析学」(3年生、2023年度より)、「有機反応論Ⅲ」(6年生)、「生物有機化学」(6年生、2名で分担、2023年度より)の講義科目を担当している。すべての科目に対して、授業に使用予定のスライド、授業・演習・確認テスト実施計画、レポート提出スケジュールなどをまとめた冊子体を製作し、1回目の授業開始前に履修生全員に配布し、予習・復習を促している。 自分の担当科目の授業・課題・演習問題・確認テストなどに関する質問を(対面またはメールで)随時受け付け、時間をかけて丁寧に解説している。同学問分野や関連分野の他の教員の講義内容に関して質問に来た学生に対しても同様な対応をしている。
形成的評価を測る小テストの実施		2019年4月～	
講義用冊子の作成と配布		2019年4月～	
質疑の受付		2019年4月～	
2 作成した教科書、教材、参考書			なし
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			なし
4 その他教育活動上特記すべき事項			なし
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
Three-in-One: Miniature Models of Natural Acyl-Transfer Systems Enable Vector-Selective Reaction on the Primary Side of Cyclodextrins	共著	2022年2月	Chem. Eur. J. 28 (8), e202103940 (2022).
Cucurbit[7]uril: Synthesis and quenching the quorum sensing in bacteria,	共著	2022年1月	J. Mol. Struct. 1248, 131505 (2022).
An Ultimate Stereocontrol in Supramolecular Photochirogenesis: Photocyclodimerization of 2-Anthracenecarboxylate Mediated by Sulfur-Linked β -Cyclodextrin Dimers	共著	2019年1月	J. Am. Chem. Soc. 141, 9225-9238 (2019).
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
隣接グルコースの二級ヒドロキシ基をヘテロニ官能化した β -シクロデキストリン誘導体の水溶液中における分子挙動と性質		2024年3月	日本薬学会第144年会(横浜市)
6A-アミノ β -シクロデキストリンの方位選択的キャッピング反応の開発		2023年9月	第39回シクロデキストリンシンポジウムプログラム(名古屋市)
修飾糖回転に起因した疑似ロタキサンを形成するHead-to-tail型シクロデキストリンヘテロニ量体: 修飾糖回転運動の熱力学的・速度論的評価		2023年9月	第39回シクロデキストリンシンポジウムプログラム(名古屋市)
Vecto-Selective Reactions on the Primary Side of Cyclodextrin		2023年8月	The 11th Asian Cyclodextrin Conference(中国・昆明市、招待講演)
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2018年9月～現在	シクロデキストリン学会理事		

2019年9月	第36回シクロデキストリンシンポジウム 執行委員長
2022年9月	シクロデキストリン学会賞受賞

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

（基礎資料 9）専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
神戸学院大学	講座名 医療薬学領域衛生系	職名 教授	氏名 岡本 正志
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫			なし
2 作成した教科書、教材、参考書		2021年	教科書改訂（分担執筆）：My衛生薬学（高橋典子、山崎正博 編集）第2版，株式会社テコム，第3章 栄養と健康 pp 87-109
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			なし
4 その他教育活動上特記すべき事項			なし
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称		単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦）
コエンザイムQ10含有健康食品の品質管理		共著	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称 Fragrance Journal, 47(1), 19-24 (2019)
Extracellular coenzyme Q10 (CoQ10) is reduced to ubiquinol-10 by intact Hep G2 cells independent of intracellular CoQ10 reduction.		共著	Arch. Biochem. Biophys. 672, 108067 (2019)
Matcha and its components control angiogenic potential.		共著	J. Nutr. Sci. Vitaminol. 67(2), 118-125 (2021)
Protective effects of coenzyme Q10 on cell damage induced by hydrogen peroxides in cultured skin fibroblasts.		共著	J. Clin. Biochem. Nutr. 69(3), 247-255 (2021)
Stimulatory effects of collagen production induced by coenzyme Q10 in cultured skin fibroblasts.		共著	J. Clin. Biochem. Nutr. 71(1), 29-33 (2022)
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
なし			
III 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったものの数件）			
2016年4月～2021年3月	日本ビタミン学会評議員		
2002年11月～現在	日本コエンザイムQ協会理事		

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「II 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「III 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
神戸学院大学	講座名 医療薬学領域衛生系	職名 教授	氏名 糟谷 史代
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 ・講義用スライドとオリジナルテキストの作成 ・理解度確認のための問題作成 ・授業に対する質問対応 ・定期試験の解答開示 ・授業アンケートによる授業内容の改善 コロナ禍以降におけるマルチメディア機器を用いた授業		2019年4月～ 2020年4月～	講義科目:「衛生薬学IV(毒性)」「薬事関連法規」「中毒学・放射薬化学」「社会薬学複合科目I」「社会薬学複合科目II」「分子薬理学」「実習III」「演習III」 ・要点を分かりやすくまとめたスライドとオリジナルテキストを作成し、講義の理解の助けとした。 ・重要ポイント確認のため、穴あき練習問題を作成し書く操作を取り入れて知識の定着を図った。 ・質問に対しては次回の講義で回答し、情報を共有した。 ・学生授業評価アンケートの指摘事項を踏まえて、改善策を考え、次年度の授業に反映させた。 Zoomによる授業実施、あるいはオンデマンドビデオを作成し、配信した。
2 作成した教科書、教材、参考書 オリジナルテキストの作成(教材)		2019年4月～	講義の理解度向上のため、基本的事項の纏めだけでなく、見やすいまとめの図表を多く作成した。更に、理解度・習得度の確認のため、穴あき練習問題や項目別に分類した国家試験過去問を練習問題として加え、教材とした。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			なし
4 その他教育活動上特記すべき事項 FD研修会・講演会への参加		2019年4月～	薬学部主催のFD研修会・講演会に適宜参加している。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) N-3 fatty acids modulate repeated stress-evoked pain chronicity	共著	2019年7月	Brain Res., vol.1714, 218-226
(論文) Disfunctional GPR40/FFAR1 signaling exacerbates pain behavior in mice	共著	2019年1月	PloS One., vol. 12, e0180610
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
なし			
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったものの数件)			
2003年9月～現在	日本医用マズスペクトル学会、理事(2017年9月～2020年、4年ごとに改選)、監査(2023年9月～現在)、評議員(2003年9月～現在)		
2008年11月～現在	日本薬物動態学会(評議員)		
2014年9月～現在	日本法中毒学会(評議員)		
2015年4月～現在	大阪大学薬友会(理事)		

[注] 1 対象期限: 評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。

各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。

2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。

3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください(年度ごとに代表的なもの2件まで)。

4 「II 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。

5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

※ 「III 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。

※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
神戸学院大学	講座名 医療薬学領域薬剤系	職名 教授	氏名 岸本 修一
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫		2019年4月～	「病態治療学Ⅵ（薬物治療学Ⅴ）」、「癌薬物治療最前線」、「生物薬剤学Ⅰ（2022年～）」を主に担当し、オリジナル配付資料の作成、講義後の演習問題の実施により、理解を高める工夫を行った。
2 作成した教科書、教材、参考書			なし
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			なし
4 その他教育活動上特記すべき事項			なし
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
神戸学院大学薬学部教職員・大学院生による新型コロナウイルスワクチン調製業務実施の事例報告とそれに関する意識調査	共著	2023年2月	兵薬界, 805, 43-49, 2023.
Comparison of Pregnane X Receptor Antagonists for Enhancing the Antitumor Effect of Cisplatin	共著	2019年9月	Anticancer Res. 2019 Sep;39(9):4749-4755.
Effect of Magnesium Supplementation to Prevent Nephrotoxicity on the Antitumor Activity of Cisplatin	共著	2019年9月	J. Cancer Treat. Res. 2019, 7(2), 41-46.
The Involvement of Pregnane X Receptor-regulated Pathways in the Antitumor Activity of Cisplatin	共著	2019年7月	Anticancer Res. 2019 Jul;39(7):3601-3608.
Angiographic Evaluation of Vascular Damage in Rat Liver After Administration of Epirubicin or Miriplatin	共著	2018年1月	Anticancer Res. 2018 Jan;38(1):247-251.
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
酸性微小環境の形成に関与するトランスポーターに対する阻害剤が免疫チェックポイント分子の発現に与える影響		2024年3月	日本薬学会第144年会
シスプラチン耐性細胞においてPXRアンタゴニストが排出系トランスポーターの発現量に与える効果		2024年3月	日本薬学会第144年会
BCG-CWS 製剤を用いたがんワクチン療法における抗原の事前処理の影響		2023年10月	第73回日本薬学会関西支部大会
グルコース濃度の違いが腫瘍微小環境の形成に関わる分子の発現に与える影響		2023年10月	第73回日本薬学会関西支部大会
イオントフォレーシス単独によるインスリンアナログの経皮吸収		2023年5月	日本薬剤学会第38年会
高グルコース条件がエトポシドの殺細胞効果に与える影響		2023年5月	日本薬剤学会第38年会
III 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）			
2020年5月～現在	兵庫県病院薬剤会理事		
2020年8月	第36回日本DDS学会学術集会実行委員		
2021年6月～2021年11月	新型コロナウイルスワクチン調製業務		

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「II 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「III 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
神戸学院大学	講座名 基礎薬学領域化学系	職名 教授	氏名 国嶋 崇隆
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫	2020年度～ 2022年度	(有機化学Ⅰ：金沢大学)講義に関する内容を理解し習得させる目的で、LMS(学習管理システム)に演習問題をアップロードし、履修学生に自宅学習用の課題として提供した。取り組み時間と定期試験の成績にかなり相関性が見られたことから、LMSが学力向上に有効であることが明らかとなった。	
	2020年度～ 2022年度	(有機化学Ⅰ、有機化学演習Ⅰ：金沢大学) LMSのチャット機能をコミュニケーションツールとして利用して、学生の質問を随時受け付け回答することにより履修者全員が共通して理解を深められるよう努めた。	
	2023年度	(医薬品化学Ⅰ：神戸学院大学)金沢大学での経験を活かして、LMSに演習問題をアップロードし、これを自宅学習用の課題とした。	
2 作成した教科書、教材、参考書	1998年4月～ 現在	神戸学院大学で担当した科目(有機反応論、薬学英語、有機薬化学特論)、金沢大学で担当した科目(化学エクササイズⅠ及びⅡ、化学Ⅰ、細胞の社会、生物有機化学、有機化学Ⅰ、有機化学演習Ⅰ、初学者ゼミ、大学社会生活論、地域概論、創薬化学基礎、生物有機化学特論、ファーマケミストリー特論、アドバンスト有機化学特論、生体機能を志向した有機化学)においてパワーポイント等で講義用および配布用資料を作成し、講義に用いた)。COVID-19感染症蔓延以降は有機化学Ⅰ、生物有機化学、有機化学演習Ⅰについてはビデオ教材を作って、現在も活用している。2023年4月より神戸学院大学へ移動後は、医薬品化学Ⅰ及びⅡ、基礎薬学複合科目Ⅰ及びⅢ、機能性分子科学を担当し、医薬品化学Ⅰ、機能性分子科学、基礎薬学複合科目Ⅲについてはビデオ教材を作成しこれを用いた。	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等	2020年11月8日	第15回 有機化学系教科担当教員会議 「薬学教育ならびにコアカリキュラム改訂の現状について」のタイトルで講演	
	2021年3月28日	日本薬学会141年会 シンポジウム 「薬学実践としての卒論研究と実務実習の在り方」のタイトルで講演	
	2021年9月25日	第1回「国公立大学高度薬学人材育成ワークショップ」ミニシンポジウム 「4年制博士課程の在り方」のタイトルで講演	
	2022年3月28日	日本薬学会142年会 シンポジウム 「大学院教育制度改革(1)：金沢大学医薬保健学総合研究科」のタイトルで講演	
	#####	日本学術会議薬学委員会 公開シンポジウム 「21世紀の新しい人材育成に向け薬学教育はどこへ向かうのか？」 「金沢大学薬学系の人材育成方針とその実現に向けた取組み」のタイトルで講演	
	2022年8月	「薬学実践としての卒業研究と実務実習の在り方」、単著 薬誌, 142, 821-827 (2022)。	
	2023年10月	「金沢大学薬学系の人材育成方針とその実現に向けた取組み」、単著 薬誌, 143, 821-825 (2023)。	
4 その他教育活動上特記すべき事項	2018年度	金沢大学薬学系長として、金沢大学薬学類・創薬科学類の入試改革として、学部入学時点で大学院博士課程へ進学し博士号取得を確約できる学生のみを受け入れる入試制度を導入し、合わせて学部から博士課程までの一貫的教育コースを設置した。現在は薬学類高大院接続入試として継続している。	

	2019年度	金沢大学薬学系長として、金沢大学薬学類において2019年度から開始した実務実習において、薬局11週-病院11週と言う枠組みにとらわれない全国唯一の金沢大学モデル（アカンサス薬局4週-附属病院11週-市中保険薬局6週-市中病院1週）を実現することに努めた。	
	2021年度	金沢大学薬学系長として、金沢大学薬学類の定員増（35名から65名）を実現するとともに、創薬科学類を改組し、新たに日本で初めての医学・薬学による完全共同運営の学科として医薬科学類を設置することに努めた。	
Ⅱ 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
Epitope-Based Specific Antibody Modifications	共著	2023年10月	Bioconjugate Chem., 34, 2022-2033 (2023).
Synthesis and Characterization of Tetraphenylammonium Salts.	共著	2022年5月	Nature Commun., 13, 2537 (2022).
Development of a Triazinedione-Based Dehydrative Condensing Reagent Containing 4-(Dimethylamino)pyridine as an Acyl Transfer Catalyst	共著	2021年6月	Org. Biomol. Chem., 19, 4712-4719 (2021).
Development of Triazinone-Based Condensing Reagents for Amide Formation.	共著	2019年12月	J. Org. Chem., 84, 15042-15051 (2019).
Development of a Storable Triazinone-Based Reagent for O-p-Methoxybenzylation under Mild Heating Conditions.	共著	2019年5月	Org. Lett., 21, 3093-3097 (2019).
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
（高いアルキル化能を有する新規活性種カルボカチオノイドのNMR解析）高社和行、藤田 光、島田大地、工藤丈太郎、国嶋崇隆		2023年11月13日	第40回メディシナルケミストリーシンポジウム
（新たな高求電子性活性種カルボカチオノイドの構造及び反応性の解析）高社和行、藤田 光、島田大地、工藤丈太郎、国嶋崇隆		2023年10月20日	2023年度有機合成化学北陸セミナー
（カルボカチオノイド：不安定カチオン種を制御する新規方法論）島田大地、藤田 光、高社和行、工藤丈太郎、国嶋崇隆		2023年10月20日	2023年度有機合成化学北陸セミナー
（分子間反応によるO-アルキル化を利用したエポキシドの開環反応）松井孝憲、藤田 光、国嶋崇隆		2023年10月13日	第52回複素環化学討論会
（エビトープ構造を利用する抗体のFab領域修飾法の開発）堀江彩紀、三代憲司、西野未桜、堂前いのり、若杉光生、松永 司、国嶋崇隆		2023年5月29日	日本ケミカルバイオロジー学会第17年会
Ⅲ 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）			
2014年4月～2020年3月	石川県薬事審議会 委員		
2014年10月～2020年6月	NPO健康環境教育の会 副理事長		
2018年7月～2020年6月	薬学共用試験センター 副理事長		
2019年4月～2020年6月	薬学教育協議会 理事		
2021年3月～現在	日本化学会 医農薬化学ディビジョン 主査		
2021年4月～2022年3月	日本薬学会 医薬化学部会 部長		
2021年11月	AIMECS2021プログラム委員長		
2022年4月～現在	日本薬学会 監事		

〔注〕 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。

各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。

2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。

3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。

4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。

5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。

※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
神戸学院大学	講座名 医療薬学領域治療系	職名 教授	氏名 久米 典昭
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫		2019年4月～	「病態学II」、「薬物治療III」、「医療薬学複合科目III」、「代謝疾患治療薬の最前線」の授業資料、および「事前実習」の「チーム医療」の架空症例による実習資料を作成した。現在の薬剤師の実務にとって重要な話題を取り込むとともに、最近の薬剤師国家試験問題の内容を取り上げた。学生の興味をひくために、架空症例や演習問題を増やした。
2 作成した教科書、教材、参考書			なし
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			なし
4 その他教育活動上特記すべき事項			なし
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
Deficiency of nardilysin in the liver reduces serum cholesterol levels	共著	2021年1月	Bio. Pharm. Bull. vol.44 No.3
Reduced serum cholesterol and triglyceride levels in a mouse model of non-alcoholic steatohepatitis (NASH) induced by choline-deficient high-fat diet (CDAHFD)	共著	2020年1月	Bio. Pharm. Bull. vol.43 No.4
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
Reduced serum chylomicron triglyceride (CM-TG) and HDL cholesterol as well as increased CM cholesterol and HDL-TG levels in a mouse model of non-alcoholic steatohepatitis (NASH) induced by choline		2020年6月 (コロナ禍のため中止)	欧州動脈硬化学会(EAS)
Reduced hepatic microsomal triglyceride transfer protein (MTP) in a mouse model of non-alcoholic steatohepatitis (NASH) induced by choline-deficient high fat diet (CDAHFD)		2019年6月	欧州動脈硬化学会(EAS)
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったものの数件)			
2015年4月～現在	日本動脈硬化学会認定指導医		
2009年6月～現在	京都府社会保険診療報酬支払基金審査委員		
2013年4月～現在	日本血液製剤機構(JB)ヒト組織研究倫理審査委員会外部委員		
2012年4月～現在	日本薬学会会員		

[注] 1 対象期限: 評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。

各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。

2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。

3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください(年度ごとに代表的なもの2件まで)。

4 「II 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。

5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

※ 「III 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。

※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
神戸学院大学	講座名 医療薬学領域治療系	職名 教授	氏名 白川 晶一
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 講義の工夫		2023年9月25日 ～12月18日	250人収容の大講義室において、病態学Ⅰの90分授業の間に、学生自身の手や身体を動かさせて、フィジカルアセスメントを体験させた。
2 作成した教科書、教材、参考書 薬剤師・薬学生のためのフィジカルアセスメントハンドブック		2014年4月20日 第1刷, 2020年2月20日第3刷	病態学Ⅰ(2年次)の授業ならびに事前実習(4年次)にて使用し、授業や実習の理解を深めた。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			なし
4 その他教育活動上特記すべき事項 アリゾナ大学薬学生と本学学生とのSGD 1年生向けの薬学英语授業の設定		2023年8月8日 2023年10月9日	アリゾナ大学薬学生12名と本学の学部生や大学院生等8名の計20名を4つのグループに分け、3例の臨床症例につき、症状や検査所見から病気を想定し薬物治療までのSGDを英語で行った。 1年次の「ヒューマニズム」の授業において、パシフィック大の客員教授による「バイタルサイン」の英語授業を90分間設定し、その内容を逐次、低学年にわかりやすいように通訳した。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
薬剤師、在宅へ行く	共著	2022年8月	南山堂 分担執筆 p57-67
The evaluation of clinical problem based learning and small group discussion in the outcome-based education in revised pharmacy curriculum	単著	2019年4月	Journal of Asian Association of Schools of Pharmacy vol.8 p15-21
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
Effect of consumption of food intake sequence on postprandial glucose in pharmacy students		2024年3月	The 7th AASP 2024 Pharmacy Education Forum
海外の薬学生たちとの国際交流		2023年8月	第8回日本薬学教育学会
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったものの数件)			
2017年11月～現在	国立病院機構神戸医療センター倫理審査委員会 外部委員		
2019年4月～現在	特定非営利法人エナガの会(神戸市垂水区, 医療・介護・福祉の会) 監事		

- [注] 1 対象期限: 評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください(年度ごとに代表的なもの2件まで)。
- 4 「II 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「III 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
神戸学院大学	講座名 医療薬学領域薬剤系	職名 教授	氏名 杉岡 信幸
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 小テスト、課題 薬剤師の講演		2019年～ 2022年～	薬物動態学の臨床応用に対する概念を伝える 実際のチーム医療について（90分）
2 作成した教科書、教材、参考書		2019年～ 2022年～ 2019年～	生物薬剤学Ⅱ、Ⅲ テキスト 病態治療Ⅴ テキスト 薬剤学実習 実習書（分担）
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			なし
4 その他教育活動上特記すべき事項 薬剤学特論Ⅰ		2022年、2023年	薬剤師・医師との公開討論
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
Comparison of cisplatin-induced nephrotoxicity between single-dose and split-dose administration to rats.	共著	2022年3月	Biomed Pharmacother. 147, 2022
Population pharmacokinetics of tacrolimus in umbilical cord blood transplant patients focusing on the variation in red blood cell counts. J Clin Pharm Ther.	共著	2021年2月	J Clin Pharm Ther. 2021 Feb;46(1):190-197.
A simplified method for therapeutic drug monitoring of mitotane by gas chromatography-electron ionization-mass spectrometry.	共著	2020年3月	Biomed Chromatogr. 2020 Mar;34(3):e4776.
Re-elevation of serum amlodipine level after lipid emulsion therapy in an overdose case.	共著	2019年12月	J Clin Pharm Ther. 2019 Dec;44(6):970-973.
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
タクロリムスの全血/血漿中濃度比モデルのin vitro-in vivo外挿性の比較		2024年3月	日本薬学会第144年会
糖尿病モデルラットにおけるタクロリムスの脳移行性評価		2023年9月	第11回くすりと糖尿病学会
脂肪乳剤個別化投与速度設計の妥当性試験およびupdate		2023年5月	第38回日本臨床栄養代謝学会学術集会
III 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったものの数件）			
2022年4月～現在	日本薬学会関西支部幹事		

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「II 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「III 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
神戸学院大学	講座名 基礎薬学領域生物系	職名 教授	氏名 鷹野 正興
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫		2021年4月	細胞の分子生物学 I・II、免疫学において、active learningを導入した。また、学生によるSGD, 資料作製、プレゼンテーションを導入している。
2 作成した教科書、教材、参考書			なし
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			なし
4 その他教育活動上特記すべき事項			なし
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称		単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)
Bradykinin deficiency causes high blood pressure in mice.		共著	2023年9月
Proteomic analysis of the heart in normal aging mice.		共著	2022年8月
Proteomic analysis involved with synaptic plasticity improvement by GABAA receptor blockade in hippocampus of a mouse model of Rimklb mutation causes male infertility in mice		共著	2021年4月
Changes in the expression of prefoldin subunit 5		共著	2019年9月
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) ブラジキニン欠損マウスに見られた高血圧とその機序の探索		2023年3月	日本薬学会
(演題名) Rimklb mutation causes male infertility in mice.		2021年2月	日本分子生物学会
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2020年4月~2024年3月	神戸学院大学ボランティア実行委員長		
2021年4月~現在	神戸学院大学法人評議員		

- [注] 1 対象期限: 評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください(年度ごとに代表的なもの2件まで)。
- 4 「II 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「III 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧					
神戸学院大学	講座名	医療薬学領域製剤系	職名 教授	氏名	武田 真莉子
I 教育活動					
教育実践上の主な業績			年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫			2019年9月10日	5年次生特別学習プログラムの企画と実施	
			2023年6月9日	臨床薬学教育における仮想現実（VR）を活用した新たな薬学教育手法の実践と評価（調剤）	
			2023年9月9日	臨床薬学教育における仮想現実（VR）を活用した新たな薬学教育手法の実践と評価（無菌操作と監査）	
2 作成した教科書、教材、参考書			2022年4月1日	製剤学Ⅰ・テキスト修正版	
			2022年7月11日	演習ⅢA・講義レジメ	
			2023年5月23日	製剤技術の最前線・講義レジメ	
			2023年9月30日	大学院「医薬品安全性評価学」・講義レジメ	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			2022年9月18日	薬学部の臨床準備教育におけるVR（バーチャル・リアリティ）物理トレーニングを活用した革新的自己学習ツールの開発 第10回 日本くすりと糖尿病学会学術集会	
			#####	日本学会会議薬学委員会 公開シンポジウム「21世紀の新しい人材育成に向け薬学教育はどこへ向かうのか？」企画並びに座長	
			2023年3月29日	ウィズコロナ・ポストコロナ時代に対応した薬学教育手法のパラダイムシフト—デジタルトランスフォーメーション（DX）を活用した臨床準備教育の進展 日本薬学会第143年会（シンポジウムオーガナイザー、シンポジスト）	
			2023年5月18日	臨床薬学教育における仮想現実（VR）を活用した新たな薬学教育手法の開発 日本薬剤学会第38年会	
4 その他教育活動上特記すべき事項			2021年1月25日	FD委員会主催 教育・研究改善に向けた All-Hands Meeting（全教員会議）オーガナイザー、講演	
			2021年4月15日	FD委員会主催ファカルティセミナー オーガナイザー、講演	
			2021年9月15日	第11回全国学生ワークショップ 日本薬学会・薬学教育委員会タスクフォース	
			2022年1月14日	教育FD：課題「学部教育を充実させる」 オーガナイザー	
			#####	学位（博士）取得者のキャリアデザインに関するワークショップ 日本薬学会・薬学教育委員会タスクフォース	
II 研究活動					
1. 著書・論文等の名称			単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
Comparative study on protocols using commercial kits for isolation of extracellular vesicles derived from mesenchymal stem cells with high recovery and purity and their efficient labeling with fluorescent dye			共著	2021年4月	Nanomedicine (2021) 102396.
Investigation of the transport pathways associated with enhanced brain delivery of peptide drugs by intranasal coadministration with penetra			共著	2021年10月	Pharmaceutics 13 (2021) 1745.
Therapeutic effects of anti-amyloid β antibody after intravenous injection and efficient nose-to-brain delivery in Alzheimer’s disease mouse model			共著	2022年1月	Drug Deliv. Transl. Res. 12 (2022) 2667-2677.

In vivo proof of biological safety and physiological effects of orally ingested water containing H ₂ -filled ultrafine bubbles (UFBs)	共著	2023年2月	Biol. Pharm. Bull. 46 (2023) 343-347.
Evaluation of Function and Features of Human Induced Pluripotent Stem Cell-Derived Small Intestinal Epithelial Cells for Analyzing Peptide Drug Intestinal Absorption Profile	共著	2023年9月	J. Pharm. Sci. 112 (2023) 2591-2595.
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
セマグチドの経口経口化を可能とした高度技術・開発の経緯、それを踏まえた最適な服薬方法（特別講演）		2024年3月	Novo Nordisk 主催GLP-1セミナー
セマグチドの経口経口化を可能とした高度技術・開発の経緯、それを踏まえた最適な服薬方法（招待講演）		2024年2月	New Horizon 『GLP-1RA』 in HATA
経口ペプチド薬セマグチドとその製剤化のサイエンスから考察する最適な服用方法（招待講演）		2024年2月	兵庫県病院薬剤師会 東西神戸支部合同学術講演会
経口セマグチドの吸収挙動から考える最適な服薬方法とは（招待講演）		2023年12月	高知県病院薬剤師会学術講演会
ファインバブルの創薬・創剤における利活用の可能性および経口・経皮適用時の生体への安全性評価（招待講演）		2023年12月	第4回超音波分子診断治療研究会
ファインバブルの創薬・創剤における利活用の可能性および経口・経皮適用時の生体への安全性評価（招待講演）		2023年11月	ファインバブルの経口安全性セミナー
ユニオーブ®技術を活用した新規インスリン経口製剤の開発研究		2023年10月	第73回日本薬学会関西支部総会・大会
NanoGAS® (Nanobubble) 水によるインスリン経口吸収促進作用の評価～臨床への応用を想定したインスリン経口製剤との併用効果～		2023年10月	第73回日本薬学会関西支部総会・大会
水素封入超微細気泡 (H ₂ NanoGAS®) 水による酸化ストレス軽減効果の評価		2023年9月	第11回日本くすりと糖尿病学会学術集会
ユニオーブ®技術を活用した新規インスリン経口製剤の開発研究		2023年9月	第11回日本くすりと糖尿病学会学術集会
ユニオーブ®技術を活用したインスリン経口製剤創成への期待（招待講演）		2023年9月	第11回日本くすりと糖尿病学会学術集会
経口セマグチドの吸収挙動から考える最適な服薬方法とは（招待講演）		2023年9月	経口GLP-1 WEB Seminar
ペドサイドの製剤学～経口 GLP-1 受容体作動薬の吸収挙動から考える最適な服薬方法～（招待講演）		2023年9月	第29回鳥取県東中部糖尿病セミナー
経口セマグチドの吸収挙動から考える最適な服薬方法とは（招待講演）		2023年9月	Diabetes Forum2023 in Akita
経口セマグチドの吸収挙動から考える最適な服薬方法とは（招待講演）		2023年9月	Oral GLP-1 Web講演会
経口GLP-1受容体作動薬セマグチド：その製剤化のサイエンスと最適な服用方法（招待講演）		2023年9月	多摩血糖変動研究会
ペドサイドの製剤学～経口 GLP-1 受容体作動薬セマグチドの吸収挙動と最適な服用方法～（招待講演）		2023年7月	第13回庄内薬剤師糖尿病Web研修会
経口セマグチドの吸収挙動から考える最適な服薬方法とは（招待講演）		2023年6月	荻往還エリアGLP-1WEBセミナー
経口 GLP-1 受容体作動薬セマグチドとその製剤化のサイエンスと最適な服用方法（招待講演）		2023年6月	Oral GLP-1 WEB Conference
ペドサイドの製剤学～経口GLP-1 受容体作動薬の吸収挙動と最適な服用方法～（招待講演）		2023年6月	足利佐野市薬剤師会web講演会
ペドサイドの製剤学～経口 GLP-1 受容体作動薬の吸収挙動から考える最適な服薬方法～（招待講演）		2023年6月	GLP-1講演会 in YONAGO
水素封入超微細気泡 (H ₂ NanoGAS®) 水によるエタノール誘導酸化ストレス軽減効果の評価		2023年5月	日本薬剤学会 第38年会
ユニオーブ®化インスリン経口製剤の糖尿病治療薬としての有効性評価		2023年5月	日本薬剤学会 第38年会
海馬標的能を有するバイオ医薬の設計と脳送達後の海馬集積性評価		2023年5月	日本薬剤学会 第38年会
海馬標的化リガンド融合タンパク質の細胞集積および取り込みメカニズムの評価		2023年5月	日本薬剤学会 第38年会
ウルトラファインバブル (UFB) の創薬・創剤における有用性（招待講演）		2023年5月	日本薬剤学会 第38年会
バイオ医薬の経口化という夢を叶えたGLP-1アナログ製剤セマグチド（特別講演）		2023年5月	GLP-1 Scientific Seminar Novo本社
バイオ医薬の経口化という夢を叶えたGLP-1アナログ製剤セマグチド（招待講演）		2023年5月	第1回糖尿病治療実践セミナー
ペドサイドの製剤学～経口 GLP-1 受容体作動薬セマグチドの吸収挙動と最適な服用方法（招待講演）		2023年4月	GLP-1 Update Meeting
経口セマグチドの吸収挙動から考える最適な服薬方法とは（特別講演）		2023年4月	第57回糖尿病の治療を考える会
Ⅲ 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）			

2012年4月1日～	日本くすりと糖尿病学会理事
2019年4月1日～	日本DDS学会理事
2019年6月28日～	第36年会日本DDS学会学術集会大会長（8月28-29日、2020年開催）
2021年7月1日～	日本学術会議連携会員
2022年5月26日～	日本薬剤学会理事
2022年9月8日～	第11回日本くすりと糖尿病学会学術集会大会長（9月2-3日、2023年開催）
2022年5月26日～	日本薬剤学会第39年年会会長（5月23-25日、2024年開催）

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
神戸学院大学	講座名 基礎薬学領域生物系	職名 教授	氏名 角田 慎一
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫		2019年4月～	「生理学」「細胞の分子生物学Ⅲ(2020年度～)」「微生物学(2023年度～)」を主に担当。毎回演習問題を提供し、次の授業で復習を兼ねて確認を行った。
2 作成した教科書、教材、参考書			なし
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			なし
4 その他教育活動上特記すべき事項			なし
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称		単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦) 発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
An antisense oligonucleotide targeting SRRM4 is a therapeutic medicine for lung cancer		共著	2019年5月 Scientific Reports, 9, 7618
Structural optimization of a TNFR1-selective antagonistic TNF- α mutant to create new-modality TNF-regulating biologics.		共著	2020年7月 Journal of Biological Chemistry, 295, 9379-9391
Characterization of a TNFR2-selective agonistic TNF- α mutant and its derivatives as an optimal regulatory T cell expander.		共著	2021年4月 The Journal of Immunology, 206, 1740-1751
タンパク質機能改変技術による2型TNF受容体シグナルのユニーク性の解析と創薬応用		共著	2022年12月 薬学雑誌, 142, 1297-1305
Bivalent structure of a TNFR2-selective and agonistic TNF- α mutein Fc-fusion protein enhances the expansion activity of regulatory T cells.		共著	2023年8月 Scientific Reports, 13, 13762
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
2型TNF受容体に着目した免疫抑制細胞の機能解析(共著)		2023年3月	日本薬学会第144年会
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったものの数件)			
2019年4月～現在	日本薬学会関西支部委員		
2023年2月～現在	日本薬学会代議員		

- [注] 1 対象期限: 評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください(年度ごとに代表的なもの2件まで)。
- 4 「II 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「III 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
神戸学院大学	講座名 医療薬学領域治療系	職名 教授	氏名 徳山 尚吾
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫		2019年4月から 2023年3月まで	使用しているテキストの理解を徹底している。講義の前後で何度も読み返すことを習慣化し、章末問題なども反復して学習させている。
2 作成した教科書、教材、参考書		2021年12月1日 2022年12月 2022/12/1 2023年4月	上手に使いたい薬学ナレッジ 101(じほう) コンパス薬物治療学(改訂第2版)(南江堂) 新しい疾患薬理学 改訂第2版(南江堂) 緩和医療薬学 改訂第2版(南江堂)
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			なし
4 その他教育活動上特記すべき事項		2023年11月 2022年8月 2022年11月 2021年8月 2021年度 2020年度8月 2020年度 2019年度8月 2020年度	日本薬学会大学院生および博士取得者のための キャリアデザインワークショップ実施委員長 第114回近畿地区指導者養成ワークショップ チーフタスクフォース 日本薬学会キャリアデザインワークショップ タスクフォース 日本薬学会学生ワークショップタスクフォース 第107回薬剤師国家試験作成委員 日本薬学会学生ワークショップタスクフォース 第106回薬剤師国家試験作成委員 日本薬学会学生ワークショップタスクフォース 第105回薬剤師国家試験作成委員
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
Changes in opioid receptors, opioid peptides and morphine antinociception in mice subjected to early life stress.	共著	2020年8月	European journal of pharmacology, 881, 173173-173173
FFAR1/GPR40 Contributes to the Regulation of Striatal Monoamine Releases and Facilitation of Cocaine-Induced Locomotor Activity in Mice.	共著	2021年8月	Frontiers in pharmacology, 12, 699026-699026
Docosahexaenoic acid attenuates the progression of nonalcoholic steatohepatitis by suppressing the adipocyte inflammation via the G protein-coupled receptor 120/free fatty acid receptor 4.	共著	2022年2月	Pharmacology (IF: 3.429), 107, 330-338, 2022.
Changes in median eminence of Fatty Acid-Binding Receptor 3 in a Mouse Model of Pain.	共著	2022年3月	Neuropsychopharmacology Report, 42, 52-58, 2022.
Nicotine suppresses central post-stroke pain via facilitation of descending noradrenergic neuron through activation of orexinergic neuron	共著	2023年4月	Eur J Pharmacol (IF: 5.195), 943:175518, 2023.
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
The involvement of spinal glial cell-derived lipocalin 2 in the development of central post-stroke pain		2023年12月	第97回日本薬理学会年会
A Long chain Fatty acid receptor signaling as a new therapeutic target for stress-induced chronic pain (シンポジウム)		2023年12月	第97回日本薬理学会年会

Involvement of fatty acid-binding protein 3 in the mechanism for exacerbation of postoperative pain of high fat-induced obesity model mice	2023年12月	第97回日本薬理学会年会
活性化ミクログリアにおけるFABP3を介した炎症性サイトカインの発現誘導機構	2024年3月	日本薬学会第144年
疼痛制御機構における脳内脂肪酸結合タンパク質3 (FABP3) の関与	2024年3月	日本薬学会第144年
Ⅲ 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったものの数件）		
2023年5月	第16回日本緩和医療薬学会年会長	
2019年から2023年	日本薬学会教育委員会委員	
2022年から2023年	日本薬剤師会生涯学習委員会委員	
2022年から2023年	兵庫県薬事審議会委員	

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧							
神戸学院大学	講座名	医療薬学領域衛生系	職名 教授	氏名	中川 公恵		
I 教育活動							
教育実践上の主な業績		年 月 日		概 要			
1 教育内容・方法の工夫							
オリジナルの講義資料を用いた講義を実施		2020年4月～		教科書の内容に加え、最新の情報や薬剤師国家試験で必要となる知識を含めた講義資料を用いて講義を行った。講義資料は常に学生が重要点を把握できるように配慮してまとめている。			
毎回の講義後に講師内容に関する演習問題を実施		2020年4月～		その日の講義で学んだ内容に関する1問1答形式の問題や薬剤師国家試験問題を5～10分程度取り組ませ、学習内容の復習を行った。スライドに写したQRコードを読み込ませてスマートフォンなどで回答できるシステムを利用した。			
講義内容に関する質問への対応		2020年4月～		講義内容に関する質問を気軽にどこからでもできるように、QRコードを読み込むことで質問ができるFormsを活用した。学生は講義後だけでなく自宅学習時でも質問ができるため、教員に直接質問しにくいと感じる学生も気軽に質問するようになった。また、質問への回答は、内容によって個別あるいは全員に共有するように、1週間以内での回答を行った。			
講義内容のオンデマンド配信		2020年4月～		講義内容の復習、体調不良による欠席者や障がいを持つ学生への対応のため、毎回の講義をレコーディングしてオンデマンド配信を行った。			
2 作成した教科書、教材、参考書							
My衛生薬学 第2版（エムスリーエデュケーション）		2021年3月		執筆及び編集を担当した			
アグリバイオ ビタミンDのケミカルバイオロジーと新機能		2021年10月		「ビタミンDとがん・免疫・感染症」を執筆した			
月刊 糖尿病 糖尿病患者に忍び寄る骨折リスクとその対応		2022年4月		「糖尿病性骨症における栄養指導」を執筆した			
バイオインダストリー ビタミンと健康増進の今		2023年8月		「ビタミンK栄養と疾病予防」を執筆した			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等				なし			
4 その他教育活動上特記すべき事項							
大学及び薬学部主催のFD研修、講演会への参加		2020年4月～		毎年開催される大学及び薬学部主催のFD研修、講演会に参加している。			
薬学教育協議会衛生薬学教科担当委員		2020年4月～		薬学教育協議会衛生薬学教科担当会議への参加及び報告を行なっている。□			
大学都市K0BE発信プロジェクトにて、常設展示及び健康フェアを開催		2023年5月～8月		神戸市及び大学が主催する大学都市K0BE発信プロジェクトにおいて、「安全・安心」そして「暮らしと健康」をコンセプトに体験型の展示を実施した。			
大学が主催する2023年度秋季土曜公開講座における講演を担当		2023年12月		「人生100年時代、骨の健康、考えていますか？」というタイトルにて、骨の健康維持に必要な栄養や骨疾患予防方法などについて講演を行った。			
II 研究活動							
1. 著書・論文等の名称		単著・共著の別		発行または発表の年月（西暦）		発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称	
UBIAD1 Plays an Essential Role in the Survival of Pancreatic Acinar Cells.		共著		2019年4月		Int. J. Mol. Sci., 2019;20(8), E1971	
Generation of 1,25-dihydroxyvitamin D3 in Cyp27b1 knockout mice by treatment with 25-hydroxyvitamin D3 rescued their rachitic phenotypes.		共著		2019年1月		J. Steroid Biochem. Mol. Biol., 2019;185:71-79	

Vitamin D Status in Japanese Young Women in 2016–2017 and 2020: Seasonal Variation and the Effect of Lifestyle Including Changes Caused by the COVID-19 Pandemic.	共著	2022年6月	J Nutr Sci Vitaminol (Tokyo). 2022;68(3):172–180.
Characterization of Astrocytes in the Minocycline-Administered Mouse Photothrombotic Ischemic Stroke Model.	共著	2022年9月	Neurochem Res. 2022;47(9):2839–2855.
Vitamin K Converting Enzyme UBIAD1 Promotes the Proliferation and Differentiation of Mouse Chondrogenic ATDC5 Cells.	共著	2023年11月	BPB Reports. 2023; 6(6):176–182
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
ラットの25-Hydroxyvitamin D3代謝に与えるカルシウム摂取の影響		2023年6月	日本ビタミン学会第75回大会
時期特異的遺伝子欠損マウスを用いた内軟骨性骨化におけるビタミンK変換酵素UBIAD1の機能解明		2023年6月	日本ビタミン学会第75回大会
ビタミンK変換酵素UBIAD1の活性を制御するHMG-CoA還元酵素阻害剤とMenadione類縁体の構造特性解析		2023年9月	フォーラム2023 衛生薬学・環境トキシコロジー
骨形成におけるビタミンK変換酵素UBIAD1の機能解明		2023年9月	フォーラム2023 衛生薬学・環境トキシコロジー
時期特異的遺伝子欠損マウスを用いた脂肪組織におけるビタミンKの機能解析		2023年9月	フォーラム2023 衛生薬学・環境トキシコロジー
ビタミンK栄養の重要性と不足による疾患リスク		2023年9月	フォーラム2023 衛生薬学・環境トキシコロジー フォーラムⅢ
ビタミンK変換酵素UBIAD1欠損マウスを用いた脂肪組織におけるビタミンKの機能解析		2023年10月	第73回日本薬学会関西支部総会・大会
ビタミンK変換酵素UBIAD1の活性に対するHMG-CoA還元酵素阻害剤およびビタミンK類縁体の相互作用解析		2023年10月	第73回日本薬学会関西支部総会・大会
時期特異的遺伝子欠損マウスを用いた骨軟骨形成におけるビタミンK変換酵素UBIAD1の機能解析		2023年10月	第73回日本薬学会関西支部総会・大会
ビタミンK変換酵素UBIAD1の欠損は脂肪組織を萎縮させる		2023年11月	日本ビタミン学会「第1回次世代のビタミン学に繋げるイノベーションミーティング」
軟骨特異的ビタミンK変換酵素UBIAD1欠損マウスの表現型解析		2023年11月	日本ビタミン学会「第1回次世代のビタミン学に繋げるイノベーションミーティング」
ビタミンK変換酵素UBIAD1の欠損は骨形成を低下させる		2023年11月	日本ビタミン学会「第1回次世代のビタミン学に繋げるイノベーションミーティング」
骨形成におけるビタミンK変換機構の機能解明		2024年3月	日本薬学会第144年会
Ⅲ 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）			
2016年4月～現在	兵庫県成長産業育成のための研究支援事業の実施に関する有識者会議構成員		
2016年10月～現在	姫路市環境審議会委員		
2017年11月～現在	公益財団法人 日本ビタミン学会代議員		
2018年4月～現在	脂溶性ビタミン総合研究委員会委員		
2018年4月～現在	Journal of Nutritional Science and Vitaminology編集委員		
2018年4月～現在	日本薬学会環境・衛生部会 BPB Reports編集委員会委員		
2019年4月～現在	厚生労働省 薬剤師国家試験・試験委員会委員		
2020年4月～現在	薬学共用試験センター CBT問題管理委員会 委員		
2020年4月～現在	薬学教育協議会・衛生薬学担当教員会議委員		
2021年4月～現在	日本ビタミン学会将来構想委員会副委員長		
2022年4月～現在	日本薬学会 環境・衛生部会 食品成分試験法専門委員		
2022年4月～現在	日本薬学会 環境・衛生部会 関連法規情報委員会		
2022年4月～現在	日本薬学会 環境・衛生部会 試験法出版委員会委員		
2022年4月～現在	日本薬学会 環境・衛生部会 必携・衛生試験法編集委員会 委員		
2022年4月～現在	日本薬学会環境・衛生部会 2022・2023・2024年度 環境・衛生部会 関連法規情報委員会委員		

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
神戸学院大学	講座名 医療連携教育グループ	職名 教授	氏名 橋田 亨
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫		2022年5月12日 ～現在	大学一医療連携講義：臨床薬剤師の実践を医療の最前線で活躍する医師・薬剤師とディスカッションで構成された講義を企画・運営した。
		2019年4月1日 ～現在	本学と教育・研究連携協定を結ぶ神戸市立医療センター中央市民病院の協力を得て卒業研究のテーマとして臨床研究に取り組む学生を指導している。
2 作成した教科書、教材、参考書		2021年3月15日	薬剤師レジデントマニュアル3版、(医学書院)
		2021年11月30日	1年目薬剤師の強化書(じほう)
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		2018年	誌上シンポジウム：薬学教育における屋根瓦方式教育の実践例、教育効果、課題 医療現場で活躍する実力派薬剤師の養成は最初の一步が肝心、薬学教育、2018年、2巻
		2022年8月20日	薬剤師レジデント研修への地域連携カリキュラム導入効果の検証、第7回日本薬学教育学会
4 その他教育活動上特記すべき事項		2022年6月14日	薬剤師の卒後研修カリキュラムの調査研究総括報告厚生労働科学研究費補助金 健康安全確保総合研究分野 医薬品・医療機器等レギュラトリーサイエンス政策研究(研究分担者)
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
Population pharmacokinetics and exposure-clinical outcome relationship of remdesivir major metabolite GS-441524 in patients with moderate and severe COVID-19	共著	2023年4月	CPT pharmacometrics Syst Pharmacol. 12:513-521, 2023.
Population Pharmacokinetics of Nivolumab in Japanese Patients with Non-small Cell Lung Cancer	共著	2023年2月	Ther Drug Monit. 45(1): 110-116. 2023.
Risk factors of proteinuria and potentially protective effect of renin-angiotensin system inhibitors in patients with renal cell carcinoma receiving axitinib.	共著	2022年4月	Cancer Chemother Pharmacol. 89: 833-838, 2022.
Pharmacist-urologist collaborative management improves clinical outcomes in patients with castration-resistant prostate cancer receiving enzalutamide.	共著	2022年5月	Front Pharmacol. 13: 901099, 2022.
Population pharmacokinetics of favipiravir in patients with COVID-19	共著	2021年10月	CPT pharmacometrics Syst Pharmacol. 10:1161-1170, 2021.
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
Transforming Pharmacy Practice with AI and Robo (Invited Keynote Lecture)		2024年3月	The 7th Asian Association of Schools of Pharmacy (AASP) Pharmacy Education Forum 2024 in
Population pharmacokinetics and exposure-clinical outcome relationship of remdesivir major metabolite GS-441524 in patients with moderate and severe COVID-19		2023年9月	21st Congress of the International Association of Therapeutic Drug Monitoring & Clinical Toxicology (IATDMCT) 2023 in Oslo
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったものの数件)			
2014年4月 - 2021年3月	日本薬剤師レジデント制度研究会会長		
2014年4月 - 現在	日本医療薬学会代議員		
2014年 4月 - 2021年5月	兵庫県病院薬剤師会会長		
2021年5月 - 現在	兵庫県病院薬剤師会顧問		

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

（基礎資料 9）専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
神戸学院大学	講座名 医療薬学領域薬理系	職名 教授	氏名 平岩 英培
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫			
医療薬学複合科目 I（6年次前期、榎本講師と分担）		2023年4月-6月	2023年4月-6月医療薬学複合科目 I（6年次前期、榎本講師と分担）①講義内容の要点をまとめたプリント冊子を自作した。
応用薬理 I（6年次後期）		2023年9月-11月	②毎時間ごとに、講義内容に関する小テストを実施した。これにより学生の理解度を知ることができ苦手な内容については次回の講義に補足することができた。
薬理学 V（3年次後期）		2023年9月-12月	①主に抗悪性腫瘍薬の標的をまとめたプリント冊子を自作した。 ②毎時間ごとに小テストを実施することにより学生の講義内容の理解度を知ることができた。 ③小テスト問題を学生が復習できるように dotCampus に問題を解けるように設定した。 ③理解不足な内容については次回以降に補充した。
2 作成した教科書、教材、参考書			
医療薬学複合科目 I			中枢薬理の範囲でパワーポイントで作成したスライド102枚を印刷したもの
応用薬理 I			抗悪性腫瘍薬を中心に抗菌薬の標的をまとめたプリント作成（9ページ）
薬理学 V			臨床使用されている化学療法薬を作用機序ごとにまとめたプリント（3分冊232ページ）
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			なし
4 その他教育活動上特記すべき事項			なし
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
（論文）Elimination of the Causes of Poor Sleep Underlying Delirium is a Basic Strategy to Prevent Delirium	共著	2021年4月	Curr Mol Pharmacol. 14(2):132-137.
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
なし			
III 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったものの数件）			
なし			

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「II 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
神戸学院大学	講座名 医療薬学領域薬剤系	職名 教授	氏名 福島 昭二
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫			「生物薬剤学Ⅱ、Ⅲ（2022年～）」、「病態治療学Ⅲ（2022年～）」、「症例で考える（2011年～）」、「薬の科学Ⅰ（2020年～）」、を主に担当し、オリジナル配付資料の作成、講義後の演習問題の実施により、理解を高める工夫を行った。
2 作成した教科書、教材、参考書			なし
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			なし
4 その他教育活動上特記すべき事項			なし
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
Effects of ABCB1 and ABCG2 Polymorphisms on the Pharmacokinetics of Abemaciclib Metabolites (M2, M20, M18).	共著	2023年3月	Anticancer Res. 2023 Mar;43(3):1283-1289
Population pharmacokinetics and exposure-clinical outcome relationship of remdesivir major metabolite GS-441524 in patients with moderate and severe COVID-19.	共著	2023年2月	CPT Pharmacometrics Syst Pharmacol. 2023 Feb 16. doi: 10.1002/psp4.12936.
Population Pharmacokinetics of Nivolumab in Japanese Patients with Nonsmall Cell Lung Cancer.	共著	2023年2月	Ther Drug Monit. 2023 Feb 1;45(1):110-116.
Effects of ABCB1 and ABCG2 polymorphisms on the pharmacokinetics of abemaciclib.	共著	2022年8月	Eur J Clin Pharmacol. 2022 Aug;78(8):1239-1247.
Use of liquid chromatography-tandem mass spectrometry for foscarnet quantification in human serum and cerebrospinal fluid.	共著	2022年4月	Rapid Commun Mass Spectrom. 2022 Apr 15;36(7):e9255.
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
シスプラチン耐性細胞においてPXRアンタゴニストが排出系トランスポーターの発現量に与える効果		2024年3月	日本薬学会第144年会
酸性微小環境の形成に関与するトランスポーターに対する阻害剤が免疫チェックポイント分子の発現に与える影響		2024年3月	日本薬学会第144年会
グルコース濃度の違いが腫瘍微小環境の形成に関わる分子の発現に与える影響		2023年10月	第73回日本薬学会関西支部大会
BCG-CWS 製剤を用いたがんワクチン療法における抗原の事前処理の影響		2023年10月	第73回日本薬学会関西支部大会
イオントフォーシス単独によるインスリンアナログの経皮吸収		2023年5月	日本薬剤学会第38年会
高グルコース条件がエトポシドの殺細胞効果に与える影響		2023年5月	日本薬剤学会第38年会
III 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）			
2010年4月～現在	神戸市立医療センター西市民病院IRB外部委員		
2014年4月～現在	日本薬剤学会代議員		
2020年4月～現在	共和薬品工業株式会社社内試験審査委員会委員		
2020年8月	第36回日本DDS学会学術集会実行委員		
2021年6月～2021年11月	新型コロナワクチン調製業務		
2023年10月	第73回日本薬学会関西支部総会・大会実施副委員長		

[注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。

各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。

- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 - 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
 - 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 - 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
神戸学院大学	講座名 基礎薬学領域物理系	職名 教授	氏名 山原 弘
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫	2021年度 2022年度～現在 2021年度～現在	授業・実習のオンライン化に伴って、zoomでの授業及び動画教材を作成した。 実習室の収容人数減の対策として、実習ⅡA、BにおいてSGDを組み入れた内容に対応した。 1年次科目において授業に加えて演習、定期試験解説を行った。	
2 作成した教科書、教材、参考書	2019年度～現在 2018年度～現在	物理化学Ⅱ、物理化学Ⅳ、薬品分析Ⅲの授業レジメを作成した。 多職種連携実践A～Dの4科目において、授業レジメの作成を分担した。	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等	2023年	兵庫県立、大阪府立、私立高校の計7校において、模擬講義（薬学）を行った。	
4 その他教育活動上特記すべき事項	2021～2023年月 2022、2023年度	オープンキャンパスのミニ実験（ビタミン錠を作ろう）を担当し、解説を行った。 教育懇談会（大阪会場）に参加し、保護者からの質問に対応した。	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
薬学部物理系実習におけるルーブリック評価の試み	共著	2023年1月	教育開発ジャーナル, 13, 1-14 (2023) .
コロナ禍における薬学部 2 年次の実験実習オンライン化の取り組みの一例	共著	2022年1月	教育開発ジャーナル, 第12号, 11-24 (2022) .
新型コロナウイルス感染症（COVID-19）流行下における専門職連携教育の実践	共著	2022年1月	教育開発ジャーナル, 第12号, 39-53 (2022) .
神戸学院大学における専門職連携教育の取り組みⅡ	共著	2020年3月	教育開発ジャーナル, 第11号, 85-98 (2021) .
薬学部物理系実習のルーブリック評価に与えるSGDの影響 ―実施順序と学習効果の一考察―	共著	in press	
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
イメージング質量分析（IMS）を用いた生薬中の指標成分の分布分析 ―ミカン科の生薬、枳実、陳皮について―		2023年10月	日本薬学会関西支部
III 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）			
～現在	日本薬学会会員		
～現在	日本薬剤学会会員		
～現在	レギュラトリーサイエンス学会会員		

[注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。

各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。

2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。

3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。

4 「II 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。

5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

※ 「III 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。

※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
神戸学院大学	講座名 医療薬学領域薬理系	職名 教授	氏名 屋山 勝俊
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫		2019年4月～	「薬理学Ⅲ」、「薬理学Ⅳ」、「薬理学Ⅵ」、「応用薬理学Ⅱ」、「応用薬理学Ⅱ」を担当しオリジナルテキストを作成し講義を行った。また、理解を高めるため練習問題を作成し、LMSで問題を解くように指導した
2 作成した教科書、教材、参考書			なし
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			なし
4 その他教育活動上特記すべき事項			なし
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称		単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦） 発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
神戸学院大学薬学部教職員・大学院生による新型コロナウイルスワクチン調製業務実施の事例報告とそれに関する意識調査		共著	2023年2月 兵薬界, 805, 43-49, 2023.
Angiotensin II-Induced Vasoconstriction via Rho Kinase Activation in Pressure-Overloaded Rat Thoracic Aortas.		共著	2021年7月 Biomolecules. 2021 Jul 21;11(8):1076
Protein Tyrosine Phosphatase Inhibitor, Orthovanadate, Induces Contraction via Rho Kinase Activation in Mouse Thoracic Aortas.		共著	2019年6月 Biol Pharm Bull. 2019;42(6):877-885
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
正常フット及び自然発症高血圧フット胸部大動脈平滑筋細胞におけるセロトニンによる RhoA 活性化機構□		2024年3月	日本薬学会第144年会
自然発症高血圧フット胸部大動脈内皮除去標本におけるセロトニンによる収縮機構□		2024年3月	日本薬学会第144年会
自然発症高血圧ラット胸部大動脈及び上腸間膜動脈内皮除去標本におけるアンジオテンシン II による収縮機構		2024年3月	日本薬学会第144年会
ストロプトドロン誘発糖尿病フットの胸部大動脈及び上腸間膜動脈における収縮シグナル伝達因子のタンパク質発現量		2024年3月	日本薬学会第144年会
III 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）			
1990年9月～現在		日本薬理学会会員□	
2001年4月～現在		日本薬理学会 学術評議員□	
2020年1月～現在		日本薬理学会 薬理学エドゥケーター	
1987年9月～現在		日本薬学会 会員	
2021年4月～現在		日本薬学会 代議員	
2004年4月～現在		日本循環器薬理学会会員	
2000年1月～現在		American Heart Association、Member of Premium Professional Plus Silver Heart Member	
2008年1月～現在		American Physiological Society、Regular Member	
2022年4月～現在		日本私立薬科大学協会 教育研究問題検討委員会	
2023年4月～現在		大学基準協会 評価委員	

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。

- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
神戸学院大学	講座名 医療薬学領域製剤系	職名 准教授	氏名 亀井 敬泰
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫		2023年4月	小テストの実施 過去問の解説 国家試験出題箇所の強調、他
2 作成した教科書、教材、参考書		2023年4月 2023年5月 2023年10月	製剤学III (4年次) テキスト 製剤技術の最前線 (5年次) テキスト 製剤設計IV (6年次) テキスト
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			なし
4 その他教育活動上特記すべき事項			なし
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称		単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦) 発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
In vivo proof of biological safety and physiological effects of orally ingested water containing H ₂ -filled ultrafine bubbles (UFBs)		共著	2023年2月 <i>Biological and Pharmaceutical Bulletin</i> 46 (2023) 343-347.
A universal method to analyze cellular internalization mechanisms via endocytosis without non-specific cross-effects		共著	2023年1月 <i>The FASEB Journal</i> 37 (2023) e22764.
Therapeutic effects of anti-amyloid β antibody after intravenous injection and efficient nose-to-brain delivery in Alzheimer's disease mouse model		共著	2022年1月 <i>Drug Delivery and Translational Research</i> 12 (2022) 2667-2677
Investigation of the transport pathways associated with enhanced brain delivery of peptide drugs by intranasal coadministration with penetratin		共著	2021年10月 <i>Pharmaceutics</i> 13 (2021) 1745.
The in vitro and in vivo study of novel formulation of Andrographolide PLGA nanoparticle embedded into gelatin-based hydrogel to prolong delivery and extend residence time in joint		共著	2021年6月 <i>International Journal of Pharmaceutics</i> 602 (2021) 120618.
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) ペプチドフラグメントの融合によるタンパク質医薬の海馬神経細胞標的化技術		2023年10月	BioJapan 2023
(演題名) 海馬集積性分子の融合によるタンパク質医薬の海馬標的化に関する検討		2023年7月	第39回日本DDS学会学術集会
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったものの数件)			
2020年4月～現在	日本薬剤学会 代議員		
2020年4月～現在	日本薬剤学会 経肺経鼻投与製剤フォーカスグループ執行委員		
2021年7月～現在	日本DDS学会 評議員		
2022年4月～現在	日本薬剤学会 広報委員会 副委員長(委員長代理)		

- [注] 1 対象期限: 評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください(年度ごとに代表的なもの2件まで)。
- 4 「II 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「III 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧				
神戸学院大学	講座名 臨床薬学教育研究部門	職名 准教授	氏名 辻本 貴江	
Ⅰ 教育活動				
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫	2020年～2021年	授業のオンライン化に伴い動画教材を作成		
	2020年～2021年	1年次生実習1A「多職種連携と社会貢献」においてzoomのブレイクアウトルームを用いたオンラインSGDのプログラムを作成し評価した。		
	2020年～2021年	6年次生「医療英語コミュニケーション」においてオンラインにて英語でネイティブスピーカーとロールプレイを実施し、外国人が薬局にOTCを買いに来た場合の対応ができるようにプログラムを作成した。		
	2022年～2023年	4年次生「臨床薬学Ⅰ」（250名受講）では代表的8疾患を中心に、症例の中で学べるようにテキストを作成するとともに、多人数講義においても双方向対話型授業を実現するため、Formsをもちいてリアルタイムの質問・コメントを受け付けた。さらに反転授業を実施し、学生には先に課題を提出させ、講義では解説と確認問題を行うことによって学習の最大化を目指した講義を実施した。		
	2022年～2023年	4年次生「実習Ⅳ：医療従事者への情報提供」において、病院薬剤師、薬局薬剤師、医師、大学教員が協働で症例を作成し、実践的な実習を実施した。		
	2022年～2023年	4年次生「実習Ⅳ：感染症治療」において、感染症専門医師と大学教員が協働で症例を作成し、実践的な実習を実施した。		
2 作成した教科書、教材、参考書	2019年	4年次生「患者情報の収集とコミュニケーション」テキスト作成		
	2020年	6年次生「薬学総合科目」消化器疾患と甲状腺疾患のテキストと問題集の作成		
	2022年	4年次生「臨床薬学Ⅰ」テキストと問題集の作成		
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等	2023年9月	教育論文の発表：薬学部新入学生に対するオンラインによるスモールグループディスカッションの試みと授業評価から見た有用性薬学教育, No. 7, p297-305, 2023 doi: 10.24489		
4 その他教育活動上特記すべき事項	2019年から現在	国際交流プログラムにおける教育活動 アメリカ薬学研修研究成果のまとめの指導、デューク大学、アリゾナ大学、パシフィック大学の学生・教員受け入れ、授業補助		
	2019年～現在	県立伊川谷高校 異文化交流プログラム「日本とアメリカの医療保険制度」講師（年1回）		
	2022年1月	高大連携事業：大阪府立住吉高校講義		
	2022年5月	高大連携事業：大阪府立東住吉高校講義		
	2023年3月	高大連携事業：兵庫県立尼崎北高等学校講義		
	2019年～現在	毎年開催される、全学及び薬学部主催のFD研修会・講演会に参加している。□		
Ⅱ 研究活動				
1. 著書・論文等の名称		単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
L-Glutamine and Survival of Patients with Locally Advanced Head and Neck Cancer Receiving Chemoradiotherapy		共著	2023年9月	Nutrients, 15, 4117, 2023 https://doi.org/10.3390/nu15194117
薬学部新入学生に対するオンラインによるスモールグループディスカッションの試みと授業評価から見た有用性		共著	2023年9月	薬学教育, No. 7, p297-305, 2023. doi: 10.24489
兵庫県・奈良県・滋賀県・和歌山県・京都府下 調剤薬局における在宅静脈栄養輸液調製の 実施状況に関する調査Ⅰ		共著	2023年3月	栄養-Trends of Nutrition-, Vol. 38 No. 1, p1-3, 2023
神戸学院大学薬学部教職員・大学院生による新型コロナウイルスワクチン調製業務実施の事例報告とそれに関する意識調査。		共著	2023年2月	兵薬界, 805 (2), 43-49, 2023

大学と臨床現場とを繋ぐ研究 ―臨床現場の課題解決を目指して―条件付き必須アミノ酸 L-グルタミンの臨床応用に向けた研究	単著	2022年12月	兵薬界, 803(12), p31-32, 2022
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
頭頸部がん患者における血漿アミノ酸濃度の臨床的意義		2023年6月	第45回日本栄養アセスメント研究会学術集会
臨床準備教育における仮想現実（VR）を活用した新たな薬学教育手法の開発		2023年5月	第38回日本薬剤学会学術集会
虚血性心疾患のQOL：SF-12を用いた実態調査		2023年3月	日本薬学会第143年会
Ⅲ 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったものの数件）			
2009年5月～現在	日本臨床栄養代謝学会会員		
2011年6月～現在	日本医療薬学会会員		
2012年4月～現在	日本外科代謝栄養学会会員		
2017年5月～現在	日本栄養アセスメント研究会		
2018年11月～現在	日本薬学教育学会		
2023年11月	神戸学院大学土曜公開講座講師		

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧							
神戸学院大学	講座名	臨床薬学教育研究部門	職名	准教授	氏名	中川	左理
Ⅰ 教育活動							
教育実践上の主な業績			年 月 日		概 要		
1 教育内容・方法の工夫 到達度の確認・授業評価の実施とフィードバック			2019年4月～ 現在		全担当講義・実習共に、常に学生の視点に立って、学生が理解し実践できる内容であることを心がけている。具体的には、毎回、講義・実習の最初に、明確かつ具体的な到達目標を学生に提示する。実習においては、実習前後に目標への到達度、また、講義に関しては、終了後に、内容への理解度、興味の度合い、難易度などを参加学生全員が評価する。その結果を学生と共有し、結果をふまえて、プログラム内容の修正・変更を行っている。		
2 作成した教科書、教材、参考書 オリジナルテキスト（講義・実習）			2019年4月～ 現在		担当講義・実習に関して、市販のテキストは使用せずに、オリジナルのテキストや配布資料を作成し、使用している。毎年、内容を見直し、修正を加えている。		
オリジナル動画教材(実習)			2019年4月～ 現在		実習内容の理解が深まるよう、また、学生自身が実習前に自己学習を行うために、毎年、無菌操作の動画教材を作成し、講義の中で使用したり、学生が閲覧したりできるよう、Teamsから配信している。		
オリジナル動画教材(講義)			2020年4月～ 現在		新型コロナウイルスにより対面講義が中止となった2020年には、オンデマンドに対応するべく、講義スライドを見直し、分り易さを追求し、より詳しい解説の音声を録音して動画を作成し使用した。		
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 臨床薬剤師の育成を目指して～緩和医療における教育事例～			2023年6月		第3回兵庫県薬剤師会・病院薬剤師会・薬系5大学連携学術大会		
臨床薬剤師の育成を目指して～緩和医療における卒前教育～			2024年1月		第45回日本病院薬剤師会近畿学術大会		
4 その他教育活動上特記すべき事項 FE研修、講演会への参加			2019年4月～ 現在		毎年開催されるFD研修会、講演会に参加している		
Ⅱ 研究活動							
1. 著書・論文等の名称			単著・ 共著の別		発行または発表の 年月（西暦）		発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
Pharmacist interventions for adverse drug reactions in palliative care: A multicentre pilot study			共著		2023年6月		Pharmazie, 78, 141-149
The effect of palliative care team intervention and symptom improvement using patient-reported outcomes: a multicenter prospective observational study			共著		2023年6月		Supportive Care in Cancer. 31, 439
『緩和医療薬学(改訂第2版)』			共著		2023年4月		南江堂
Comparison of the Effects of Diuretics on Pedal Edema in Patients with Cancer			共著		2022年8月		Palliat Med Rep. 18, 162-168
Disposal practices for unused and expired medications: pilot data from three cities in three countries.			共著		2022年3月		GMS Health Innov Technol, 16, 1-7
2. 学会発表（評価対象年度のみ）					発表年・月		学会名
臨床薬剤師の育成を目指して～緩和医療における卒前教育～					2024年1月		第45回日本病院薬剤師会近畿学術大会
臨床薬剤師の育成を目指して～緩和医療における教育事例～					2023年6月		第3回兵庫県薬剤師会・病院薬剤師会・薬系5大学連携学術大会
緩和ケアチームにおける IPPOS（Integrated Palliative care Outcome Scale）使用することにより期待されること					2023年6月		第28回日本緩和医療学会学術大会

単施設におけるオピオイド導入時のレスキュー薬の使用実態調査	2023年5月	第16回 日本緩和医療薬学会年会
緩和ケアにおける薬剤師の副作用への介入：多施設パイロット調査（最終報告）	2023年5月	第16回 日本緩和医療薬学会年会
Ⅲ 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったものの数件）		
2019年4月～現在	兵庫県薬剤師会学術倫理審査会審査員	
2020年6月～現在	日本緩和医療学会緩和ケアの質評価WPG（Working Practitioner Group）委員	
2021年6月～2023年5月	4. 日本緩和医療薬学会臨床研究委員会委員（プロジェクト・リーダー）	
2022年4月～現在	私立薬科大学協会 国試問題検討委員会（実務）	

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
神戸学院大学	講座名 医療薬学領域治療系	職名 准教授	氏名 中本 賀寿夫
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫			
ドットキャンパスとFormsを用いた授業質問対応		2015 年4月～	ドットキャンパスおよびFormsシステムを用いて、授業に対する質問をリアルタイムに抽出し、対応した。また質問内容については全額性が共有できるようone drive上へ質問及びその回答をアップし、皆で教諭できるように設定した。
Formsシステムを用いたリアルタイム試験と授業アンケート		2018年4月～	ITツールを用いて、授業の理解度を調査するリアルタイム試験と授業評価を行った。
2 作成した教科書、教材、参考書			なし
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			なし
4 その他教育活動上特記すべき事項			
FD研修、講演会への参加		2009年～現在	毎年開催される全学および薬学部主催のFD講演会に出席している
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
Nicotine suppresses central post-stroke pain via facilitation of descending noradrenergic neuron through activation of orexinergic neuron	共著	2023年3月	Eur J Pharmacol (IF: 5.195), 943:175518, 2023.
Changes in median eminence of Fatty Acid-Binding Receptor 3 in a Mouse Model of Pain.	共著	2022年3月	Neuropsychopharmacology Report, 42, 52-58, 2022.
Docosahexaenoic acid attenuates the progression of nonalcoholic steatohepatitis by suppressing the adipocyte inflammation via the G protein-coupled receptor 120/free fatty acid receptor 4.	共著	2022年2月	Pharmacology (IF: 3.429), 107, 330-338, 2022.
FFAR1/GPR40 Contributes to the Regulation of Striatal Monoamine Releases and Facilitation of Cocaine-Induced Locomotor Activity in Mice.	共著	2021年8月	Frontiers in pharmacology, 12, 699026-699026
Changes in opioid receptors, opioid peptides and morphine antinociception in mice subjected to early life stress.	共著	2020年8月	European journal of pharmacology, 881, 173173-173173
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
活性化ミクログリアにおけるFABP3を介した炎症性サイトカインの発現誘導機構		2024年3月	日本薬学会第144年
疼痛制御機構における脳内脂肪酸結合タンパク質3 (FABP3) の関与		2024年3月	日本薬学会第144年
The involvement of spinal glial cell-derived lipocalin 2 in the development of central post-stroke pain		2023年12月	第97回日本薬理学会年会
A Long chain Fatty acid receptor signaling as a new therapeutic target for stress-induced chronic pain (シンポジウム)		2023年12月	第97回日本薬理学会年会
Involvement of fatty acid-binding protein 3 in the mechanism for exacerbation of postoperative pain of high fat-induced obesity model mice		2023年12月	第97回日本薬理学会年会
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったものの数件)			
2006年 - 現在	日本薬理学会, 学術評議委員		
2006年 - 現在	日本薬理学会, 会員		

2010年 - 現在	鎮痛薬・オピオイドペプチド研究会, 会員
2010年 - 現在	International Narcotic Research Conference, Regular member
2012年 - 現在	日本緩和医療薬学会 会員
2012年 - 現在	日本薬学会 薬理系薬学部会, 若手世話人
2012年 - 現在	日本疼痛学会 会員
2016年 - 現在	神経行動薬理若手研究者の集い, 世話人
2020年 - 現在	日本神経精神薬理学会, 学術評議委員
2020年 - 現在	日本薬理学会, 薬理学エドゥケーター
2023年 - 現在	Frontiers in Cellular Neuroscience, REVIEW Editor
2023年	第16回 日本緩和医療薬学会 事務局長・プログラム委員
2023年	次世代を担う若手のための創薬・医療薬理シンポジウム2023 副実行委員長
2023年	第42回鎮痛薬・オピオイドペプチドシンポジウム 実行委員
2023年	第73回 日本薬学会関西支部総会・大会 実施副委員長

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧				
神戸学院大学	講座名	臨床薬学教育研究部門	職名	准教授
氏名				
橋本 保彦				
I 教育活動				
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫		2019年以降	全ての講義においてpowerpointを講義資料を作成し、配布した。 【医療の担い手としての心構え】 医療に関する課題を与え、学生が自ら調査し、課題を解決する方法を提案する講義・演習を行った。 【医薬品情報学、医薬品情報】 コロナ前は通常の対面講義を行い、講義後に確認試験を行い、学生の習熟度を把握に努めた。コロナ以降は反転講義を行った。講義日には再度講義を行い、その後確認問題の講義の最後に基本問題、応用問題を小テストを行い、学生のアウトプットの機会を増やし、学生の習熟度を確認した。 【エビデンスに基づく薬物治療を考える】 学生がEBMのSTEPの1, 2, 3を自ら行う参加型の講義を行った。最後に検索した文献を患者に適用するか否かはSGDを行った。 【薬剤師活動最前線】 講義・演習・解説、を行い、学生の習熟度を確認した。	
学生参加型、反転講義、確認演習問題、講義資料の作成				
2 作成した教科書、教材、参考書		2023年4月15日	医薬品情報の教科書の一部、「第4章 EBMと医薬品情報」P187-216	
「みてわかる薬学 図解医薬品情報学」改訂5版 南山堂（共著）				
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		2021年7月	教職教育センタージャーナル。7: 17-31. 橋本 保彦、中川 佐理、池村 舞、辻本 貴江、上町亜希子、江原 里佳、鳥井 栄貴、小畑友紀雄、森本 泰子、武田真莉子	
学内実習の自己典型評価における”実務実習後の5年次生による学内実習（4年次）に関する振り返りアンケート”の有用性				
神戸学院大学薬学部教職員・大学院生による新型コロナワクチン調整業務実施の事例報告とそれに関する意識調査		2023年2月	兵薬界、805、43-49 中川左理、池村舞、橋本保彦、辰見明俊、辻本貴江、江原里佳、笠見裕美、上町亜希子、岸本修一、武田真莉子、屋山勝俊	
4 その他教育活動上特記すべき事項		2019～現在 2022～現在 2023～	学内で開催されるFDの研究会・講演会に毎年参加	
FD研修、講演会への参加			臨床薬理学	
神戸女子大学大学院非常勤講師			神戸野田高校、ヴェリタス城星学園高校	
高校講義				
II 研究活動				
1. 著書・論文等の名称		単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
Efficacy and safety of drug therapy aimed at reducing alcohol dependence or alcohol use disorders: a systematic review and network meta-analysis (Review)		共著	2023年12月	Addiction, <i>in press</i>
Effects of a conventional mood stabilizer alone or in combination with second-generation antipsychotics on recurrence rate and discontinuation rate in bipolar I disorder in the maintenance phase: A systematic review and meta-analysis of randomized, placebo-controlled trials.		共著	2021年12月	Bipolar Disord, 23(8), 789-800

Lamotrigine in the maintenance treatment of bipolar disorder (Review)	共著	2021年9月	Cochrane Database Systematic Review 2021, Issue 9. Art. No.:CD13575.
Efficacy and safety of lithium and lamotrigine for the maintenance treatment of clinically stable patients with bipolar disorder: A systematic review and meta-analysis of double-blind, randomized, placebo-controlled trials with an enrichment design.	共著	2019年9月	Neuropsychopharmacol Rep, 39(3), 241-246
Recurrence of mania or depression among adult bipolar patients who continued using lithium: A single-group summary meta-analysis of randomized trials	共著	2020年9月	J Clin Psychopharmacol, 40(5), 468-474
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
アルコール依存症またはアルコール使用障害患者における治療期間に応じたアルコール減酒療法の有効性と安全性：システムティックレビュー／ネットワークメタ解析		2023年9月	第7回日本精神薬学会
国内副作用自発報告データベースを用いた抗うつ薬による高血糖／糖尿病発症に関する検討		2023年9月	第11回日本くすりと糖尿病学会学術集会
Ⅲ 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったものの数件）			
2019年4月～		日本精神薬学会評議員	

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料 9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
神戸学院大学	講座名 薬学教育部門	職名 准教授	氏名 日置 和人
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 前期：基礎化学、後期：有機化学 1 を担当。講義中は質問用に携帯アプリを利用。講義に則した演習を随時実施した。		2019年度以降	講義中は、リアルタイムで学生の質問を受け付けるアプリを利用して、学生の理解度の向上に努めた。 講義内容に則した演習を1科目に対して5～6回行った。その際、SAとして養成している2～4年の上級生を動員することで学修効果の改善を目指した。
2 作成した教科書、教材、参考書			なし
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 教職教育センタージャーナル第8号（2022）投稿 日本薬学会第142年会（2023）発表		2022年3月 2023年3月	142年会：[26P1-am1-131] 基礎化学実習が薬学生へのエンゲージメントに与える影響；[26P1-am1-132] 薬学部初年次生の孤独感とそのTBによる低減；[26P1-am1-133] 薬学部SAによる学習支援方法の改善に向けたBig Five及び先延ばし尺度を用いた調査
4 その他教育活動上特記すべき事項 FD委員		2023年度	FD委員としてファカルティセミナーやFD講演会等の企画・運営に参加
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
Hydrophobic-Substrate-Selective Dehydrative Condensations at the Emulsion Interface under Conditions where Competitive Reactions Proceed in the Bulk Aqueous Phase	共著	2022年10月	Asian Journal of Organic Chemistry, 12/ 1, e202200602
A versatile iodo(III)etherification of terminal ethynylsilanes using BF ₃ -O <i>i</i> Pr ₂ and alkyl benzyl ethers	共著	2021年4月	Organic & Biomolecular Chemistry, 19/ 17, 3825-3828.
Simple Synthesis of a Heterocyclophane Exhibiting Anti- <i>c</i> -Met Activity by Acting as a Hatch Blocking Access to the Active Site	共著	2020年8月	Chemistry – A European Journal (2021), 27 (5), 1648-1654.
Development of a Storable Triazinone-Based Reagent for <i>O</i> - <i>p</i> -Methoxybenzylation under Mild Heating Conditions	共著	2019年4月	Organic Letters, 21/ 9, 3093-3097.
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
なし			
III 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）			
なし			

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「II 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「III 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
神戸学院大学	講座名 基礎薬学領域物理系	職名 准教授	氏名 藤井 文彦
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫		2021年	授業のオンライン化に伴い動画教材を作成
2 作成した教科書、教材、参考書		2019年	物理化学Ⅰ（１年次）のテキストと問題集の作成
		2019年	物理化学Ⅲ（２年次）のテキストの作成
		2019年	基礎薬学複合科目Ⅱ（６年次）のテキストの作成
		2020年	医薬品のナノテクノロジー(大学院)テキストの作成
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		2020年	兵庫県立舞子高等学校での模擬授業
		2021年	大阪府立山田高等学校(他2校)での模擬授業
		2022年	香川県立高松北高等学校(他1校)での模擬授業
		2023年	和歌山県立那賀高等学校(他1校)での模擬授業
4 その他教育活動上特記すべき事項			
教育論文の発表		2021年	神戸学院大学薬学部における授業参観制度の構築へ向けて- 先行調査の分析と本学部でのパイロットスタディ-, 教育開発ジャーナル第11号(2021) 99-109.
教育論文の発表		2021年	神戸学院大学薬学部における教育の質保証を目的とした授業点検制度導入の試み, 教育開発ジャーナル第11号(2021) 99-110, 教育開発ジャーナル第11号(2021) 111-121
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
FTIR study of the surface-ligand exchange reaction with glutathione on biocompatible rod-shaped CdSe/CdS semiconductor nanocrystals	共著	2022年5月	Phys. Chem. Chem. Phys., 24 (2022) 13356-13364.
Observation of liquid-liquid phase separation of ataxin-3 and quantitative evaluation of its concentration in a single droplet using Raman microscopy	共著	2021年4月	Chem. Sci., 12, (2021) 7411-7418.
Mitotic chromosomes in live cells characterized using high-speed and label-free optical diffraction tomography	共著	2019年11月	Cells 8 (11), 1368
Design and Formation of Composite Particles	共著	2019年11月	Powder Technology Handbook, Fourth Edition, 285-297
Semiconductor Nanocrystals for Biological Imaging and Fluorescence Spectroscopy	共著	2019年4月	Advanced Imaging and Bio Techniques for Convergence Science, 449-473
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
赤外分光法を用いたナノマテリアルの表面配位子密度の決定		2024年3月	日本薬学会
タンパク質コロナ形成に及ぼすナノマテリアルの形状効果と相互作用力の検討 - 蛍光相関分光法を用いた検討 -		2024年3月	日本薬学会
タンパク質コロナ形成に及ぼすナノマテリアルの形状効果と相互作用力 - タンパク質化学修飾を用いた検討 -		2024年3月	日本薬学会
タンパク質コロナ形成に及ぼすナノマテリアルの形状効果と相互作用力 - 蛍光消光法を用いた検討 -		2024年3月	日本薬学会
棒状ナノマテリアルの側面及び底面における表面配位子密度の決定		2024年3月	日本薬学会

ナノ粒子表面におけるタンパク質コロナ形成に□粒子形状が及ぼす効果の熱力学的検討	2023年10月	日本薬学会関西支部会
タンパク質コロナ形成に及ぼすナノ粒子の表面配位子と配位子交換過程 - 蛍光共鳴エネルギー移動を用いた定量解析 -	2023年10月	日本薬学会関西支部会
ナノ粒子の安定性に及ぼす粒子形状と表面配位子	2023年10月	日本薬学会関西支部会
Ⅲ 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）		
2022年4月～現在	実務実習指導薬剤養成のためのワークショップ・タスクフォース	
2023年10月14日	日本薬学会関西支部 運営委員	

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
神戸学院大学	講座名 臨床薬学教育研究部門	職名 講師	氏名 池村 舞
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫			
学生到達度の確認とそれを踏まえた講義展開		2019年4月～現在	毎回の講義の主として最後に、学生の理解度を確認する問題を提示した。その理解度を確認し、解答解説を配信または次回講義中に解説した。その後の講義でも、理解度に合わせて、丁寧な説明を行ったり、場合によっては簡潔に行ったりした。
2 作成した教科書、教材、参考書			
オリジナルテキスト（講義・実習）		2019年4月～現在	自身が担当する講義・実習において、オリジナルテキストを作成し、学生が理解しやすいように順番や内容を工夫している。
オリジナル動画教材（講義）		2020年4月～現在	新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、対面授業がなくなった時期に、オンデマンド教材の作成を行った。対面授業再開後も、学生が苦手な分野に特化して、動画教材を作成・配信を行った。
『疾患と薬物療法_基礎編_妊娠合併症』（じほう）		2023年11月	じほうのeラーニングサイト「elephant for pharmacist」にて、動画教材の作成を行った。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
『薬剤師が取り組む臨床研究の大学-医療連携に基づく教育体制の構築』		2021年8月	第6回日本薬学教育学会にて、2020年度日本薬学教育学会教育実践奨励賞の受賞講演を行った。
4 その他教育活動上特記すべき事項			
FD講演会への参加		2019年4月～現在	毎年開催されている、全学および薬学部主催のFD講演会に参加している。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
神戸学院大学薬学部教職員・大学院生による新型コロナウイルスワクチン調製業務実施の事例報告とそれに関する意識調査	共著	2023年2月	兵薬界. 799: 48-54, 2023
新規2型糖尿病治療薬イメグリミンの有効性・安全性と今後の展望	単著	2022年11月	くすりと糖尿病
医療現場で活躍する薬剤師になるための研究活動のすすめ	共著	2022年6月	薬学教育. 6: 53-60, 2022
『1年目薬剤師の強化書 できる先輩がやさしく教える調剤・病棟業務・薬物療法のエッセンス』	共著	2021年11月	じほう pp87-90, 2021
Associated characteristics and treatment outcomes of medication-related osteonecrosis of the jaw in patients receiving denosumab or zoledronic acid for bone metastases	共著	2021年8月	Support Care Cancer. 29(8): 4763-4772, 2021
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
臨床準備教育における仮想現実(VR)を活用した新たな薬学教育手法の開発		2023年5月	第38回日本薬剤学会学術集会
日本くすりと糖尿病学会会員の糖尿病医療への貢献度について～学会員の実態調査および業務意識に関するアンケート（中間報告）～		2023年9月	第11回日本くすりと糖尿病学会学術集会
III 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったものの数件）			
2020年4月～現在	日本くすりと糖尿病学会 研究推進委員		
2021年4月～現在	日本くすりと糖尿病学会 編集委員		
2023年9月	第11回日本くすりと糖尿病学会学術集会 実行委員長		

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。

- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
神戸学院大学	講座名 専門職連携教育グループ	職名 講師	氏名 内海 美保
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫		2018年～	専門職連携教育(IPE)を単位化し、関連学部とともに授業内容を協議し、オリジナルテキストを作成し、共同開催している。
2 作成した教科書、教材、参考書		2018年～	担当講義に関して、市販のテキストのみならず補足資料を作成し、学生の理解を深めている。毎年内容を見直し、修正している。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		2020年2月 2023年9月	地域包括ケア時代のIPE：地域包括ケア時代に求められるIPEとはーIPEの実際と課題ー、2019年度 看護エデュケア研究会セミナー 神戸学院大学・神戸市看護大学における専門職連携教育(Interprofessional Education)、神戸学院大学・神戸市看護大学IPE5周年記念シンポジウム
4 その他教育活動上特記すべき事項		2009年～	毎年開催される全学および薬学部主催のFD講演会に出席している。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称		単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦) 発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
The Development and Evaluation of the Interprofessional Education Facilitation Program for Health Professionals Using the Attention, Relevance, Confidence, and Satisfaction (ARCS) Model of Instructional Design		共著	2023年4月 Cureus15(4): e37496. doi:10.7759/cureus.37496
新型コロナウイルス感染症(COVID-19)流行下における専門職連携教育の実践		共著	2022年4月 教育開発ジャーナル, 12, 39-53(2022)
神戸学院大学における専門職連携教育の取り組み I		共著	2021年4月 教育開発ジャーナル, 11, 75-84(2021)
神戸学院大学における専門職連携教育の取り組み II		共著	2021年4月 教育開発ジャーナル, 11, 85-98(2021)
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
薬学生のキャリア選択に影響を与える要因に関する質的研究		2024年3月	日本薬学会第144年会
ポイントオブケアテストの適切な活用に向けた薬学教育の試み		2020年3月	日本薬学会第140年会
薬学部2年生への物理系実習におけるPBL導入による効果		2020年3月	日本薬学会第140年会
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったものの数件)			
2018年4月～2021年3月	日本臨床薬剤師シミュレーション教育研究会 世話人		
2019年4月～2022年3月	日本医事法学会 学術委員		
2022年4月～現在	日本医事法学会 企画委員		
2022年4月～現在	日本医事法学会 理事		

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください(年度ごとに代表的なもの2件まで)。
- 4 「II 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。

※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
神戸学院大学	講座名 臨床薬学教育研究部門	職名 講師	氏名 江角 悟
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫			
Formsシステムを用いた小テストの実施とリアルタイム Moodleを用いた講義資料の配信	2023年10月～	ITツールを用いた授業の理解度評価を行い、その場で陥りやすい回答ミスについて解説した。	
	2023年10月～	オンラインで講義資料を配信し、紙媒体の資料を廃止してSDGsに貢献した。	
2 作成した教科書、教材、参考書			なし
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			なし
4 その他教育活動上特記すべき事項			
FD研修会、講演会への参加		2022年10月～現在	毎年開催される全学および薬学部主催FD研修会や講演会に参加している。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
Safety profile of antidepressant for Japanese adults with major depressive disorder: a systematic review and network meta-analysis.	共著	2023年11月	10. 1111/pcn. 13622
睡眠薬のトリセツ 今すぐ使える不眠治療の処方箋 キホン事例で学ぶ「減量・切り替え」その理由 眠れているが、転倒リスクの高い睡眠薬ポリファーマシーの整理	単著	2023年2月	薬局, 74 (2), 283-287(2023)
睡眠薬のトリセツ 今すぐ使える不眠治療の処方箋 不眠に伴う課題の糸口を薬学的視点から探る 病棟でみる不眠とせん妄の負のスパイラルを阻止せよ!	単著	2023年2月	薬局, 74 (2), 183-187(2023)
薬物相互作用 (55—妊婦において注意が必要な薬物相互作用の例)	共著	2022年12月	岡山医学会雑誌, 134 (3), 185-186(2022)
Polypharmacy in Older Adults with Alzheimer's Disease	共著	2022年10月	Medicina, 58/ 10, 1445-1453
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
国内副作用自発報告データベースを用いた抗うつ薬による高血糖/糖尿病発症に関する検討		2023年9月	第11回日本くすりと糖尿病学会学術集会
精神科薬物療法の質向上に向けたオンラインコンサルテーションシステムの実践		2023年9月	第11回日本くすりと糖尿病学会学術集会
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったものの数件)			
令和4年5月～現在	日本病院薬剤師会 精神科薬剤師部門認定委員会 委員		
平成28年7月～現在	日本病院薬剤師会精神科病院委員会 委員		
平成29年9月～現在	日本精神薬学会 評議員		
平成27年4月～現在	日本薬理学会 学術評議員		

- [注] 1 対象期限: 評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください(年度ごとに代表的なもの2件まで)。
- 4 「II 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「III 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧								
神戸学院大学	講座名	医療薬学領域薬理系	職名	講師	氏名	榎本 理世		
Ⅰ 教育活動								
教育実践上の主な業績			年 月 日		概 要			
1 教育内容・方法の工夫								
医療薬学複合科目Ⅰ（6年次前期、平岩教授と分担）			2023年4月-6月		①講義内容の要点をまとめたプリント冊子を自作した。 ②国家試験問題過去問を項目ごとにまとめた過去問ドリルを作成した。 ③毎時間、講義内容に関する小テストを実施した。これにより学生の理解度を知ることができ苦手な内容については次回の講義に補足することができた。			
薬理学Ⅰ（2年次前期）			2023年4月-7月		①講義内容の要点をまとめたプリント冊子を自作した。 ②区切りごとに、講義時間の最後に、授業内容に関する小テストを実施した。 ③毎時間、講義内容に関する記述問題形式の課題を課し、他人に説明できるレベルでの理解を促した。 ④③の課題を次回の授業や学習支援システムでフォローした。			
薬理学Ⅱ（2年次後期）			2023年9月-12月		①講義内容の要点をまとめたプリント冊子を自作した。 ②区切りごとに、講義時間の最後に講義内容に関する小テストを実施した。 ③毎時間、講義内容に関する記述問題形式の課題を課し、他人に説明できるレベルでの理解を促した。 ④③の課題を次回の授業や学習支援システムでフォローした。			
2 作成した教科書、教材、参考書								
医療薬学複合科目Ⅰ			総論および末梢神経の範囲のプリント冊子（101ページ）および一部の中樞薬理の範囲のプリント冊子（50ページ） 国家試験過去問ドリル2冊（83ページ、29ページ）					
薬理学Ⅰ			総論および末梢神経系に作用する薬物に関するプリント冊子（97スライド）					
薬理学Ⅱ			中枢神経系に作用する薬物に関するプリント冊子3冊（54ページ、79ページ、66ページ）					
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			なし					
4 その他教育活動上特記すべき事項			なし					
Ⅱ 研究活動								
1. 著書・論文等の名称			単著・共著の別		発行または発表の年月（西暦）		発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称	
(論文) Elimination of the Causes of Poor Sleep Underlying Delirium is a Basic Strategy to Prevent Delirium			共著		2021年4月		Curr Mol Pharmacol. 14(2):132-137.	
2. 学会発表（評価対象年度のみ）					発表年・月		学会名	
なし								
Ⅲ 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）								
なし								

[注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。

各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。

- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 - 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
 - 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 - 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
神戸学院大学	講座名 基礎薬学領域化学系	職名 講師	氏名 神谷 浩平
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫		なし	
2 作成した教科書、教材、参考書	2020/3/16	実線漢方生薬学（京都廣川書店）	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等	2021/12/21 2022/11/18 2023/11/30	川西北稜高等学校での模擬講義 六甲アイランド高等学校での模擬講義 山本高等学校での模擬講義	
4 その他教育活動上特記すべき事項		なし	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
なし			
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
インド産薬用植物 <i>Aegle marmelos</i> の成分研究（3）		2022年9月	日本生薬学会
<i>Streptomyces</i> sp. DSM4137におけるアザロマイシン及びエライオ フィリン生成遺伝子破壊株の作製		2024年3月	日本薬学会
III 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）			
2023年度	日本生薬学会代議員		

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「II 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「III 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
神戸学院大学	講座名 基礎薬学領域生物系	職名 講師	氏名 刈谷 龍昇
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫		2023年4月～	「免疫学」「実習ⅡB」「生命薬学の最前線」「社会の中の薬学」を担当。授業においては90分の講義の中に30分の相互プレゼンの時間を作り、相互プレゼンで使用了資料はレポートとして提出させて理解度のチェックを毎回行った。レポートから理解が追いついていない箇所を把握し、次週の授業でフォローアップを行うことで学生が確実に理解するように努めた。
2 作成した教科書、教材、参考書			なし
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			なし
4 その他教育活動上特記すべき事項			なし
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
The IL-17-IL-17RA axis is required to promote osteosarcoma progression in mice	共著	2023年12月	Sci Rep . 2023 Dec 7;13(1):21572.
Bradykinin deficiency causes high blood pressure in mice	共著	2023年9月	Biochem Biophys Res Commun . 2023 Nov 12;681:73-79.
Elotuzumab, a potential therapeutic humanized anti-SLAMF7 monoclonal antibody, enhances natural killer cell-mediated killing of primary effusion lymphoma cells	共著	2022年10月	Cancer Immunol Immunother . 2022 Oct;71(10):2497-2509.
Efficacy and mechanism of the anti-CD38 monoclonal antibody Daratumumab against primary effusion lymphoma	共著	2021年5月	Cancer Immunol Immunother. 2022 May;71(5):1017-1031.
Application of Highly Immunocompromised Mice for the Establishment of Patient-Derived Xenograft (PDX) Models	共著	2019年8月	Cells . 2019 Aug 13;8(8):889.
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
なし			
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったものの数件)			
2021年6月	第31回日本サイトメトリー学会 事務局長		

- [注] 1 対象期限: 評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください(年度ごとに代表的なもの2件まで)。
- 4 「II 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「III 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

（基礎資料9）専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
神戸学院大学	講座名 臨床薬学教育研究部門	職名 講師	氏名 上町 亜希子
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫		なし	
2 作成した教科書、教材、参考書		なし	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項		なし	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
なし			
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
なし			
III 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったものの数件）			
1997年4月～	日本病院薬剤師会		
2000年3月～	日本POS医療学会		
2001年2月～	日本薬学会		
2001年2月～	日本医療学会		
2002年4月～	関西POS薬剤研究会		

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「II 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「III 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

（基礎資料 9）専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
神戸学院大学	講座名 医療薬学領域衛生系	職名 講師	氏名 高橋 隆幸
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫			なし
2 作成した教科書、教材、参考書		2021年	教科書改訂（分担執筆）：My衛生薬学（高橋典子、山崎正博 編集）第2版、テコム、第3章 栄養と健康（3.1 栄養、3.1.5 エネルギー代謝、3.1.6 日本人の食事摂取基準、3.1.7 栄養素と疾病、3.1.8 疾病治療と栄養）（p121-144）
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			なし
4 その他教育活動上特記すべき事項			なし
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
Stimulatory effects of collagen production induced by coenzyme Q10 in cultured skin fibroblasts.	共著	2022年7月	J. Clin. Biochem. Nutr. 71(1), 29-33 (2022)
Protective effects of coenzyme Q10 on cell damage induced by hydrogen peroxides in cultured skin fibroblasts.	共著	2021年11月	J. Clin. Biochem. Nutr. 69(3), 247-255 (2021)
Extracellular coenzyme Q ₁₀ (CoQ ₁₀) is reduced to ubiquinol-10 by intact Hep G2 cells independent of intracellular CoQ10 reduction.	共著	2019年9月	Arch. Biochem. Biophys. 672, 108067 (2019)
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
なし			
III 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）			
1988年～現在	日本薬学会会員		
1988年～現在	日本生化学会会員		
2003年～現在	日本ビタミン学会会員		
2003年～現在	日本コエンザイムQ協会研究会会員		

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「II 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「III 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
神戸学院大学	講座名 臨床薬学教育研究部門	職名 講師	氏名 辰見 明俊
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 形成的評価を測る小テストの実施、 授業に対する質問対応		2020年10月～	補助プリントの作成や視覚教材の利用により理解を深めるよう工夫している。適時、小テストを行い、理解度をチェックしている。授業に対する質問は、随時メールや直接対面で受け付け、丁寧に説明している。
2 作成した教科書、教材、参考書			なし
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			なし
4 その他教育活動上特記すべき事項 FD研修、講演会への参加 薬学教育者・薬剤師へのFD活動		2020年10月～ 2008年11月～	毎年開催される、全学及び薬学部主催のFD研修会・講演会に参加している。 タスクフォースとして、薬剤師のためのワークショップin近畿に協力。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
Efficacy and safety of mycophenolate mofetil in treating immune-related hepatitis induced by immune checkpoint inhibitor use: A retrospective study.	共著	2023年2月	JGH Open, 7 (2), 87-97 (2023)
神戸学院大学薬学部教職員・大学院生による新型コロナワクチン調製業務実施の事例報告とそれに関する意識調査.	共著	2023年2月	兵薬界, 805 (2), 43-49 (2023)
Efficacy and safety of Infliximab for steroid-resistant immune-related adverse events: A retrospective study.	共著	2021年4月	Molecular and Clinical Oncology, 14 (4), 65 (2021)
パルボシクリブの重篤な好中球減少に対して投与量調節によるRDIの維持が治療期間に及ぼす影響	共著	2020年9月	癌と化学療法, 47 (9), 1345-1349
ニボルマブによる重篤な免疫関連有害事象の発現予測因子としての好中球・リンパ球比および血小板・リンパ球比の有用性	共著	2020年6月	医療薬学, 46 (6), 331-339
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
ホルモン受容体陽性HER2陰性転移性乳がん患者におけるアベマシクリブによる重篤な肝機能障害リスク因子の探索		2023年11月	第33回日本医療薬学会年会(仙台市)
非小細胞肺癌患者のニボルマブ・イビリマブ併用療法における免疫関連有害事象の重症化予測因子の探索と生存期間への影響		2023年6月	日本医療薬学会第6回フレッシャーズ・カンファランス(京田辺市)
パゾパニブによる薬剤性肝機能障害のがん種ごとの発現状況調査		2023年6月	日本医療薬学会第6回フレッシャーズ・カンファランス(京田辺市)
臨床薬学教育におけるVR物理トレーニングを活用した革新的自己学習ツールの開発		2023年3月	日本薬学会第143年会(札幌市)
婦人科Paclitaxel + Carboplatin療法において催吐リスクの違いによる制吐療法の有効性と安全性の比較		2022年9月	第32回日本医療薬学会年会(高崎市)
食道がんDCF療法における投与終了後24時間以内のG-CSF製剤の投与と抗菌薬の投与による発熱性好中球減少症の予防効果の検討		2021年10月	第31回日本医療薬学会年会(Web開催)
オキサリプラチンの先発品と後発品のアレルギー症状の発現頻度の比較		2021年1月	第42回日本病院薬剤師会近畿学術大会(大阪市)
トラスツマブ、ドキシソルビシン、ベバシズマブ投与による左室機能への影響		2019年9月	第2回日本腫瘍循環器学会学術集会(旭川市)
免疫チェックポイント阻害剤ニボルマブによる免疫関連有害事象発現予測因子の探索		2019年6月	日本医療薬学会第3回フレッシャーズ・カンファランス(板橋区)
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
1997年1月～現在	日本病院薬剤師会会員		
2001年3月～現在	日本医療薬学会会員		

2008年4月～現在	日本薬学会会員
2021年4月～現在	日本医薬品情報学会会員
2023年10月	第73回日本薬学会関西支部総会・大会開催（実行委員）

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

（基礎資料 9）専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
神戸学院大学	講座名 薬学教育部門	職名 講師	氏名 濱田 美知子
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫		2023年4月～	基礎生物学におけるアクティブラーニング
2 作成した教科書、教材、参考書			なし
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			なし
4 その他教育活動上特記すべき事項			なし
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称		単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦）
Proteomic analysis of the heart in normal aging mice		共著	2022年8月
チームビルディングによる薬学部初年次学生の孤独感低減効果		共著	2022年3月
Rimklb mutation causes male infertility in mice		共著	2021年2月
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
なし			
III 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったものの数件）			
2000年6月～現在		日本組織細胞化学会	
2005年8月～現在		日本分子生物学会	
2022年5月～現在		日本薬学教育学会	

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「II 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「III 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
神戸学院大学	講座名 基礎薬学領域物理系	職名 講師	氏名 平野 裕之
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫			
反転型講義の実践		2023年4月	担当科目の事前学習動画ならびに演習教材とICTを活用した復習用テスト教材の作成とその活用
物理化学系PBL課題の作成とPLBの実施		2022年4月	物理化学、分析化学に関連した臨床トラブル事例のPBL
2 作成した教科書、教材、参考書			
薬品分析学Ⅰ～Ⅲの教材プリント並びに視聴教材		2023年4月	
日本薬局方Ⅰの教材プリント並びに視聴教材		2023年4月	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
2022年度日本東洋医学会関西支部例会特別講演		2022年10月	薬学部における漢方の卒後教育の実践法
4 その他教育活動上特記すべき事項			
全学教育推進機構主催FDセミナー参加		2022年9月22日	【教育活動の振り返りからの気づきを明日に活かす】
薬学部FD研修会		2022年10月31日	「障害学生支援に関する研修会 ―精神障害学生に対する合理的配慮を中心に―」
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
薬学部物理系実習のルーブリック評価に与えるSGDの影響	共著	2024年1月	教育開発ジャーナル, 14, 49-60 (2023)
薬学部物理系実習におけるルーブリック評価の試み	共著	2023年1月	教育開発ジャーナル, 13, 1-14 (2022)
コロナ禍における薬学部2年次の実験実習オンライン化の取り組みの一例	共著	2022年1月	教育開発ジャーナル, 12, 11-24 (2021)
アップデート薬学機器分析学	共著	2020年3月	廣川書店
HANDY INTELLIGENCE 日本薬局方18局対応	共著	2022年3月	京都廣川書店
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
イメージング質量分析(IMS)を用いた生薬中の指標成分の分布分析		2023年10月	日本薬学会関西支部会
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったものの数件)			
2018年6月～現在	日本東洋医学会代議員		
2016年6月～現在	日本東洋医学会兵庫県支部副会長		
2021年11月～2022年10月	2022年度日本東洋医学会関西支部例会運営委員		
2022年12月～2024年6月	日本東洋医学会第74回学術総会運営委員兼プログラム委員		

- [注] 1 対象期限: 評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください(年度ごとに代表的なもの2件まで)。
- 4 「II 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「III 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
神戸学院大学	講座名 医療薬学領域薬剂系	職名 講師	氏名 福島 恵造
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫			小テストの実施 過去問の解説 国家試験出題箇所への強調、他
2 作成した教科書、教材、参考書		2019年4月 2020年4月 2020年4月 2022年11月 2023年9月	5年次特別学習プログラム（薬剤）テキスト 基礎物理（1年次）テキスト 薬の科学 I（共通教育）テキスト 生物薬剤学 I（3年次）テキスト 症例で考える（6年次）テキスト
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			なし
4 その他教育活動上特記すべき事項		2021年7月 2019年8月～	教員免許状更新講習会（オンデマンド） ノアーマコメトリクス入門再成コースサポーター（慶應義塾大学殿町タウンキャンパス主催）
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
Model-Informed Vancomycin Dosing Optimization to Address Delayed Renal Maturation in Infants and Young Children with Critical Congenital Heart Disease.	共著	2023年11月	Clin Pharmacol Ther. 2023. Online ahead of print.
Real world population pharmacokinetic study in children and young adults with inflammatory bowel disease discovers novel blood and stool microbial predictors of vedolizumab clearance.	共著	2023年3月	Aliment Pharmacol Ther. 2023. 57(5):524-539.
Comparison of cisplatin-induced nephrotoxicity between single-dose and split-dose administration to rats.	共著	2022年3月	Biomed Pharmacother. 2022. 147:112619.
Individualization of the infusion rate of a soybean oil-based intravenous lipid emulsion for inpatients based on baseline triglyceride concentrations: A population pharmacokinetic approach.	共著	2022年1月	JPEN J Parenter Enteral Nutr. 2022. 46(1):104-113.
Population pharmacokinetics of tacrolimus in umbilical cord blood transplant patients focusing on the variation in red blood cell counts.	共著	2021年2月	J Clin Pharm Ther. 2021. 46(1):190-197.
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
タクロリムスの全血/血漿中濃度比モデルの予測性能の比較		2024年3月	日本薬学会第144年会
PMxを用いた小児への適正用量の提案		2023年11月	第39回Pharmacometrics研究会
Population pharmacokinetics modeling and dosing simulation for vancomycin in young children with congenital heart disease		2023年9月	21st IATDMCT
クリニカルファーマコメトリクスを実践するための協同戦線		2023年6月	第39回日本TDM学会・学術大会 シンポジウム
脂肪乳剤個別化投与速度設計の妥当性試験およびupdate		2023年5月	第38回日本臨床栄養代謝学会学術集会
III 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）			
2023年11月～現在	Pharmacometrics研究会 幹事		

[注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。

各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。

- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 - 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
 - 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 - 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
神戸学院大学	講座名 薬学教育部門	職名 講師	氏名 福留 誠
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫		2022年4月 2023年4月	項目反応理論による実習テスト改善（実習1A） 音声付スライド（キャプション有）を用いた基礎物理学講義の実践
2 作成した教科書、教材、参考書		2019年4月 2020年4月 2021年4月	実習1：SCORM課題（過去問、単語クイズ）、OneNote単語課題 5年次特別学修プログラム：音声付教材、学生のスマホを利用するForms課題 薬の科学Ⅱ：音声付教材、学生のスマホを利用するForms課題
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		2020年9月 2021年8月	薬学生のワーキングメモリを考慮したICT支援型学修コンテンツの開発（私情協教育イノベーション大会） 薬学部5年生のICT支援型国試対策における課題形態に対する選好（ICT利用による教育改善研究発表会）
4 その他教育活動上特記すべき事項		2019年10月 2022年6月	神戸学院大学薬学部における教育の質保証を目的とした授業点検制度導入の試み（FD委員活第14回ファカルティセミナー発表
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
Cucurbit[7]uril: Synthesis and quenching the quorum sensing in bacteria	共著	2022年1月	Journal of Molecular Structure, 1248, 2022, 131505
学修面で支援を要する薬学部5年生の国家試験対策における課題選択の傾向	共著	2022年1月	教育開発ジャーナル、12号、p53-69
Three - in - One: Miniature Models of Natural Acyl - Transfer Systems Enable Vector - Selective Reaction on the Primary Side of	共著	2022年2月	Chemistry - A European Journal, 28 (8), 2022, e202103940
チームビルディングによる薬学部初年次学生の孤独感低減効果	共著	2022年3月	教職教育センタージャーナル、8号、p71-83
神戸学院大学薬学部における授業参観制度の構築へ向けてー先行調査の分析と本学部でのパイロットスタディー	共著	2021年3月	教育開発ジャーナル、11号、99-109
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
修飾糖回転に起因した擬似ロタキサンを形成するHead-totail型シクロデキストリンヘテロ二量体：修飾糖回転運動の熱力学的・速度論的評価		2023年9月	第39回シクロデキストリンシンポジウム
6 ^A -アミノβ-シクロデキストリンの方位選択的キャッピング反応の開発		2023年9月	第39回シクロデキストリンシンポジウム
III 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）			
2022年9月	第114回認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ（神戸学院大学）準備委員		
2023年3月～現在	認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップのタスクフォース		
2023年5月～2023年10月	第73回日本薬学会関西支部会の準備委員		

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「II 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。

- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
神戸学院大学	講座名 医療薬学領域製剤系	職名 助教	氏名 安藤 徹
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫		2019～2020年度	5年次生特別学習プログラムの実施
		2019～2023年度	授業・実習にてQFTの手法を組み込んだアクティブラーニングの実践
		2020～2021年度	実習の一部オンライン化に伴った動画教材の作成
2 作成した教科書、教材、参考書		2019～2023年度	実習ⅢB・実習書
		2022～2023年度	製剤技術の最前線・講義レジメ
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			なし
4 その他教育活動上特記すべき事項		2019～2023年度	オープンキャンパス ミニ実験（ビタミン錠を作ろう）の実施
		2022年8月26日	高校生のための薬学体験講座の実施補助
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
Proposal of recommended experimental protocols for in vitro and in vivo evaluation methods of boron agents for neutron capture therapy.	共著	2023年9月	J Radiat Res., 64(6), 859-869.
Mathematical modeling of coating time in dry particulate coating using mild vibration field with bead media described by DEM simulation	共著	2022年11月	Adv Powder Technol., 33, 103779.
医薬品添加剤における開発および製剤設計・評価の新展開（寺田勝英・監）	共著	2022年4月	シーエムシー出版, pp. 137-150.
Design and preparation of nanocomposite acrylate coating agents for binder-free dry coating of 100 μ m-sized drug-containing particles and their coating performance	共著	2022年1月	Eur J Pharm Biopharm., 170, 133-143.
BNCT for primary synovial sarcoma.	共著	2021年3月	Appl Radiat Isot., 169, 109407.
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
がん中性子捕捉療法用 Gd 含有キトサンナノ粒子の表面修飾が腫瘍内滞留性と抗腫瘍効果に与える影響		2023年11月	第40回製剤と粒子設計シンポジウム
生分解性高分子のキトサンナノ粒子を提供します！		2023年10月	APPIE 産学官連携フェア 2023
粘液線維肉腫に対するホウ素中性子捕捉療法 (BNCT) の検討		2023年7月	第19回日本中性子捕捉療法学会学術集会
粘液線維肉腫に対するホウ素中性子捕捉療法 (BNCT) のを用いた新たな治療方法の開発		2023年7月	第56回日本整形外科学会骨・軟部腫瘍学術集会
III 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったものの数件）			
2021年7月～現在	日本中性子捕捉療法学会 NCT Letter 委員		
2012年9月～現在	粉体工学会・会員		
2011年3月～現在	日本薬剤学会・会員		
2009年12月～現在	日本薬学会・会員		

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
神戸学院大学	講座名 基礎薬学領域生物系	職名 助教	氏名 井上 雅己
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 グループディスカッションの実施		2021年4月～	実習ⅢA（微生物・分子生物学）では、実習内容の理解を深めることを目的に、4人1組になり、お互いに実験の原理や理論を発表、議論しあうグループディスカッションを行った。また、活発な議論が行われるように、ファシリテーターを務めた。
2 作成した教科書、教材、参考書 実習ⅢAテキスト 実習ⅠAテキスト		2021年4月～ 2021年4月～	3年生向けの微生物・分子生物学実習の実習書を作成した。 1年生向けの実習書を作成した。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			なし
4 その他教育活動上特記すべき事項 FD「第5回知の創造セミナー」の開催		2023年9月	大学教育・研究の質的向上（とくに若手教員のモチベーション向上）を目的として、国立研究開発法人 医薬基盤・健康・栄養研究所 山本拓也先生の講演を開催した。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
Bivalent structure of a TNFR2-selective and agonistic TNF- α mutein Fc-fusion protein enhances the expansion activity of regulatory T cells.	共著	2023年8月	Scientific reports 13(1) 13762-13762
Characterization of a TNFR2-Selective Agonistic TNF- α Mutant and Its Derivatives as an Optimal Regulatory T Cell Expander	共著	2021年4月	The Journal of Immunology 206(8) 1740-1751
Structural optimization of a TNFR1-selective antagonistic TNF α mutant to create new-modality TNF-regulating biologics.	共著	2020年7月	The Journal of biological chemistry 295(28) 9379-9391
Ephrin type-A receptor 2 on tumor-derived exosomes enhances angiogenesis through the activation of MAPK signaling.	共著	2019年10月	Pharmazie. 74(10) 614-619
A gapmer antisense oligonucleotide targeting SRRM4 is a novel therapeutic medicine for lung cancer.	共著	2019年5月	Scientific reports 9(1) 7618-7618
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
TNFR2標的イムノサイトカインのヒト制御性T細胞の増殖促進作用		2024年3月	日本薬学会第144年会
2型TNF受容体シグナル伝達における受容体クラスター形成の意義		2024年3月	日本薬学会第144年会
In vitroで増幅したTNFR2 ⁺ CD4 ⁺ CD25 ⁺ Tregの免疫抑制活性		2024年3月	日本薬学会第144年会
自己免疫疾患治療薬の開発に向けた抗ヒトBAFF受容体モノクローナル抗体の創製と特性解析		2024年3月	日本薬学会第144年会
担癌マウスでの骨髄由来免疫抑制細胞におけるTNFR2シグナルの機能的役割		2024年3月	日本薬学会第144年会
担がんマウスの免疫抑制細胞における2型TNF受容体シグナルの機能解析		2024年3月	日本薬学会第144年会
B細胞リンパ腫治療薬の開発を目指した抗BAFF受容体モノクローナル抗体の機能評価		2024年3月	日本薬学会第144年会

In vitro誘導MDSCにおける2型TNF受容体シグナルの機能	2024年3月	日本薬学会第144年会
TNFR2アゴニスト修飾マイクロビーズによるTreg増幅作用の検討	2024年3月	日本薬学会第144年会
OVA誘発食物アレルギーマウスにおけるTNFR2アゴニストTNF変異体の炎症抑制効果	2024年3月	日本薬学会第144年会
Ⅲ 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）		
2021年4月～現在	公私立大学実験動物施設協議会代議員	

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
神戸学院大学	講座名 基礎薬学領域生物系	職名 助教	氏名 小野寺 章
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫	2019年4月～ 2019年4月～	知識不足・理解不足の学生を対象に、独自に作成した資料を用い解説等を実施している。 実習で習得・学習した知識と技術の理解を促すため、オンラインテストを実施している。	
2 作成した教科書、教材、参考書		なし	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項		なし	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
The Cellular Accumulation of Vehicle Exhaust Particulates Changes the Acidic pH Environment of Lysosomes in BEAS-2B Airway Epithelial Cells	共著	2023年10月	Journal of Xenobiotics. 13.
Development of fluorescent-labeled artificial sweeteners and application for safety	共著	2022年6月	The Japan Food Chemical Research Foundation. 28.
Ability of Ureaplasma parvum to invade mouse sperm, fertilize eggs through infected sperm, and impair mouse sperm function and embryo development. Fertility and Sterility Science.	共著	2021年2月	Fertility and Sterility Science. 2(1).
The establishment of allergic inflammation model by atmospheric dust and analysis of those induction mechanisms.	単著	2022年4月	Advances in Pharmaceutical Sciences. 38.
Qualitative and quantitative analyses of the influence of artificial sweetener on immune tissue and cell functions.	共著	2021年6月	The Japan Food Chemical Research Foundation. 27.
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
樹状細胞の細胞性免疫応答は浮遊粒子状物質の細胞内蓄積により低下する。		2023年9月	大気環境学会年会
Cellular immunity response of dendritic cells is reduced by intracellular accumulation of suspended particulate matter.		2023年7月	アジア毒性学会
リンパ節への浮遊粒子状物質の蓄積による免疫機能への影響		2023年3月	日本薬学会年会
樹状細胞の自然免疫応答は浮遊粒子状物質の取り込みにより低下する。		2023年3月	日本薬学会年会
III 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）			
2020年4月～現在	芦屋市立岩園小学校コミュニティスクール指導員		
2009年2月～現在	日本毒性学会 一般会員		
2011年1月～現在	日本薬学会 一般会員		
2018年2月～現在	日本免疫毒性学会 一般会員		
2021年4月～現在	日本大気環境学会（健康影響分科会 世話人）		

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「II 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「III 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
神戸学院大学	講座名 基礎薬学領域物理系	職名 助教	氏名 黒井 邦巧
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 学生実習：実習IIA・IIB 講義：分析化学の最前線（1回分担任）		2020年-2023年 2023年	実習では「なぜこの操作を行うか」を質問して学生に考えることを促した。 赤外・ラマン分光の医薬研究への応用を解説
2 作成した教科書、教材、参考書 分析化学の最前線、講義資料		2023年	赤外・ラマン分光の医薬研究への応用を原理から画像診断など最新の応用まで含めて解説する講義資料を作
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			なし
4 その他教育活動上特記すべき事項 神戸学院大学薬学部「知の創造セミナー」運営委員		2021-2023年	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
Concerted primary proton transfer reactions in a thermophilic rhodopsin studied by time-resolved infrared spectroscopy at high temperature.	共著	2023年4月	Biochimica et biophysica acta. Bioenergetics 1864 (3) 148980-148980
SOD1 gains pro-oxidant activity upon aberrant oligomerization: change in enzymatic activity by intramolecular disulfide bond cleavage	共著	2022年7月	Scientific Reports 12 11750
Concentration Quantification of the Low-Complexity Domain of Fused in Sarcoma inside a Single Droplet and Effects of Solution Parameters.	共著	2022年6月	The journal of physical chemistry letters 13(24) 5692-5697
FTIR study of the surface-ligand exchange reaction with glutathione on biocompatible rod-shaped CdSe/CdS semiconductor nanocrystals.	共著	2022年5月	Physical chemistry chemical physics 24 (21) 13356-13364
Observation of liquid-liquid phase separation of ataxin-3 and quantitative evaluation of its concentration in a single droplet using Raman microscopy.	共著	2021年4月	Chemical science 12 (21) 7411-7418
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
タンパク質コロナ形成に及ぼすナノマテリアルの形状効果と相互作用力ータンパク質化学修飾を用いた検討		2024年3月	日本薬学会第144年会
ナノ粒子表面におけるタンパク質コロナ形成に粒子形状が及ぼす効果の熱力学的検討		2023年10月	日本薬学会関西支部大会
III 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）			
2019年4月～2022年3月		日本生物物理学会 分野別専門委員（速度論・緩和）	

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「II 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「III 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧								
神戸学院大学	講座名	基礎薬学領域化学系	職名	助教	氏名	瀧本 竜哉		
Ⅰ 教育活動								
教育実践上の主な業績			年 月 日		概 要			
1 教育内容・方法の工夫								
マルチメディア機器を用いた授業			2019 ～ 2023年		授業内容の理解度を高めるため関連動画を流し、視覚的に理解させた。「環境の科学Ⅱ」、「機能性分子化学」「有機化学最前線」			
確認テストの実施			2019 ～ 2023年		クイズ番組を模した復習テストを授業中に行い自宅での復習を促した。「環境の科学Ⅱ」、「機能性分子化学」「有機化学最前線」			
小テストの実施			2019 ～ 2023年		毎時間「Kahoot!」というWebサイトを利用し、小テストをWeb上で行った。「環境の科学Ⅱ」、「機能性分子化学」「有機化学最前線」			
講義・実習内容のストリーミング配信ならびにアーカイブ化			2020 ～ 2023年		対面授業実施の際もストリーミング配し、クラウドサーバーにアーカイブすることで、授業の復習、予習、欠席者の自宅学習を促した。「環境の科学Ⅱ」、「実習Ⅲ」			
2 作成した教科書、教材、参考書					なし			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等					なし			
4 その他教育活動上特記すべき事項								
神戸市消防学校特殊災害課程研修生ならびに神戸市消防局特殊災害隊に対する講義・実習			2020 ～ 2023年		「神戸市消防局特殊災害隊×2回」と神戸学院大学薬学部との連携の一環として、隊員への技術指導や「神戸市消防学校特殊災害課程研修生×2回」への教育活動。			
高校への出張講義			2020 ～ 2023年		薬学部の授業内容、カリキュラム、薬剤師の就職先等の紹介。「清明学院高校×2回、明石清水高校×1回、育英高校×1回、網干高校×1回、豊岡高校×4回、県立尼崎高校×1回、尼崎小田高校×1回、三木北高校×1回、阪南大学高校×1回、東宇治高校×1回、プール学院高校×1回、峰山高校×1回、市立尼崎高校×1回」			
来校の高校生に対する演じ実験			2022年		来校高校生に対する化学実験。「彦根東高校」			
Ⅱ 研究活動								
1. 著書・論文等の名称			単著・共著の別		発行または発表の年月（西暦）		発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称	
Simple Synthesis of a Heterocyclophane Exhibiting Anti-c-Met Activity by Acting as a Hatch Blocking Access to the Active Site.			共著		2021年1月		Chem. A. Eur. J.	
2. 学会発表（評価対象年度のみ）					発表年・月		学会名	
c-Met阻害活性を示す[3.3] (2, 2') (4, 4' -bithiazolophane) 骨格形成反応における添加剤の影響					2024年3月		日本薬学会第144会	
Assessment of Binding Affinity and Identification of Binding Sites of Complexes of tert-Butylcalix[4]thiacrown-5 with Mercury(II) Compounds with a Focus on Ring Current Effects in 1H-NMR Spectra					2024年3月		日本化学会第104春季年会	
Study on synthesis of [3.3] (2, 2') (4, 4' -Bithiazolophane) analogue and the activities of plasmid DNA cleavage					2023年5月		BIT's 11th World Gene Convention-2023	
C-Met阻害活性を示す[3.3] (2, 2') (4, 4' -bithiazolophane) の合成条件の検討					2023年10月		第73回日本薬学会近畿支部総会・大会	
Ⅲ 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）								

2021年3月	日本薬学会第143回年会ポスター発表学生優秀発表賞審査員
2023年3月	日本薬学会第143回年会ポスター発表学生優秀発表賞審査員
2023年9月	第17回バイオ関連化学シンポジウムポスター発表学生優秀発表賞審査員
1999年7月～現在	日本化学会会員
2010年4月～現在	日本薬学会会員
2016年1月～現在	日本環境化学会会員
2018年5月～現在	アメリカ化学会会員

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
神戸学院大学	講座名 医療薬学領域薬理系	職名 助教	氏名 寺田 侑加
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫			なし
2 作成した教科書、教材、参考書			なし
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		2022年1月	「学修面で支援を要する薬学部5年生の国家試験対策における課題選択の傾向」 教育開発ジャーナル第12号（共著）
4 その他教育活動上特記すべき事項		2021年9月6日 2022年11月14日	第1回知の創造セミナー 司会 ファカルティセミナー 発表
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
Angiotensin II-Induced Vasoconstriction via Rho Kinase Activation in Pressure-Overloaded Rat Thoracic Aortas.	共著	2021年7月	Biomolecules 11(8)
Tacrolimus, a calcineurin inhibitor, promotes capsaicin-induced colonic pain in mice.	共著	2020年5月	Journal of pharmacological sciences 143(1) 60-63
Comparison of CYP3A5*3 genotyping assays for personalizing immunosuppressive therapy in heart transplant patients .	共著	2019年6月	International journal of clinical pharmacology and therapeutics 57(6) 315-322
Estimation of the Area under the Concentration-time Curve for Mycophenolic Acid Using Population Pharmacokinetics in Heart Transplantation Recipients	共著	2019年1月	Iryo Yakugaku (Japanese Journal of Pharmaceutical Health Care and Sciences) 45(1) 1-10
Effects of clotrimazole on tacrolimus pharmacokinetics in patients with heart transplants with different CYP3A5 genotypes.	共著	2019年1月	European journal of clinical pharmacology 75(1) 67-75
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
正常ラット及び自然発症高血圧ラット胸部大動脈平滑筋細胞におけるセロトニンによる RhoA 活性化機構		2024年3月	日本薬学会第144年会
自然発症高血圧ラット胸部大動脈内皮除去標本におけるセロトニンによる収縮機構		2024年3月	日本薬学会第144年会
自然発症高血圧ラット胸部大動脈及び上腸間膜動脈内皮除去標本におけるアンジオテンシン II による収縮機構		2024年3月	日本薬学会第144年会
ストレプトゾトシン誘発糖尿病ラットの胸部大動脈及び上腸間膜動脈における収縮シグナル伝達因子のタンパク質発現量		2024年3月	日本薬学会第144年会
III 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったものの数件）			
2020年3月～現在	日本薬理学会 学術評議員		
2021年1月～現在	日本薬理学会 薬理学エドゥケーター		
2015年～現在	日本薬学会 会員		
2017年～現在	日本循環薬理学会 会員		
2018年～現在	日本高血圧学会 準会員		

[注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。

各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。

2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。

3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。

- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

（基礎資料 9）専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
神戸学院大学	講座名 薬学教育部門	職名 助教	氏名 檜原 正則
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 薬学への招待 早期体験 実習 I AB			取りまとめ コーディネート 取りまとめ、担当項目の説明、学生指導
2 作成した教科書、教材、参考書			実習 I AB 実習書
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			なし
4 その他教育活動上特記すべき事項			なし
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
なし			
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
なし			
III 学会および社会における主な活動（直近 5 年間に携わったものの数件）			
なし			

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近 5 年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの 2 件まで）。
- 4 「II 研究活動」は、直近 5 年間の代表的な著書・論文等、5 つを記入してください。
- 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「III 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
神戸学院大学	講座名 医療薬学領域治療系	職名 助教	氏名 平岡 義範
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫			確認テストの実施
2 作成した教科書、教材、参考書			オンライン授業ための配信動画の作成
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			なし
4 その他教育活動上特記すべき事項			なし
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称		単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦) 発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
Nardilysin in adipocytes regulates UCP1 expression and body temperature homeostasis.		共著	2022年3月 Scientific reports 12(1) 3449-3449
Deficiency of Nardilysin in the Liver Reduces Serum Cholesterol Levels.		共著	2021年3月 Biological & pharmaceutical bulletin 44(3) 363-371
Nardilysin controls cardiac sympathetic innervation patterning through regulation of p75 neurotrophin receptor.		共著	2020年9月 FASEB journal 34(9) 11624-11640
Reduced Serum Cholesterol and Triglyceride Levels in a Choline-Deficient L-Amino Acid-Defined High-Fat Diet (CDAHFD)-Induced Mouse Model of Non-alcoholic Steatohepatitis (NASH).		共著	2020年4月 Biological & pharmaceutical bulletin 43(4) 616-618
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
Role of insulin-degrading enzyme as a transcriptional coregulator		2023年7月	GR rocks ~inside the liver~
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったものの数件)			
2016年～現在	日本時間生物学会 評議員		

- [注] 1 対象期限: 評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください(年度ごとに代表的なもの2件まで)。
- 4 「II 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「III 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
神戸学院大学	講座名 基礎薬学領域化学系	職名 助教	氏名 北條 恵子
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫		2019年4月	学生実習、演習において映像資料を活用、また少人数グループ討議を取り入れ、双方向の実習演習を目指した。
2 作成した教科書、教材、参考書		2020年4月	オンライン授業及び実習対応のための担当科目の配信映像を作成した。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			なし
4 その他教育活動上特記すべき事項			なし
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
Aqueous microwave-assisted solid phase peptide synthesis: racemization study on His residue.	共著	2023年3月	Peptide Science 2022,
Water-Based Solid-Phase Peptide Synthesis without Hydroxy Side Chain Protection	共著	2022年8月	J. Org. Chem., 87, 11362-11368 (2022).
Environmentally Conscious In-Water Peptide Synthesis Using Boc Strategy	共著	2022年3月	Int. J. Pept. Res., Ther. 28, 28-51 (2022).
水中ペプチド固相合成法の開発	単著	2022年4月	水中有機合成の開発動向第18章, 2022, 小林修, 北之園拓監修, シーエムシー出版, 234-232 (2022).
Exploration of Active Site-Directed Plasmin Inhibitors: Beyond Tranexamic Acid	共著	2021年2月	Processes, 9, 329 (2021).
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
Aqueous microwave-assisted solid phase peptide synthesis without hydroxy side chain		2023年10月	第60回ペプチド討論会
III 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）			
1994年4月	日本薬学会会員		
1996年10月	日本ペプチド学会会員		
2016年8月	日本薬学会医薬化学部会会員		

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「II 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「III 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
神戸学院大学	講座名 薬学教育部門	職名 助教	氏名 前田 光子
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 初年次生の実習1A, 1B 共通教育科目 くすりの科学 共通教育科目 地域連携インターンシップ I および II		2019年4月～現在 2019年4月～2021年3月 2019年4月～現在	新入生が興味を持てるよう現実的な例を入れて説明。 医薬品に関する歴史、特に薬害・感染症を、前年度のレポート内容から興味を持つものを取り上げた。 他学部・他大学学生も対象であるため、社会連携職員の力も借りて、自発的に活動する学生達を支えた。
2 作成した教科書、教材、参考書 共通教育科目 くすりの科学			年ごとにPowerPoint内容をバージョンアップ。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			なし
4 その他教育活動上特記すべき事項 初年次の入学直後のガイダンス週			チームビルディングプログラムを含む
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称		単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)
薬学部新入学生に対するオンラインによるスモールグループディスカッションの試みと授業評価から見た有用性		共著	2023年5月
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
なし			薬学教育 第7巻(2023) doi: 10.24489/jjphe.2022-054
			学会名
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
～現在	神戸学院大学薬学部ライフサポートチーム顧問および神戸市消防局市民救命士講習インストラクター(FAST所属)		
2023年	日本薬史学会評議員および日本薬史学会誌の査読者(2回)		
2023年	JR西日本あんしん社会財団より、AED訓練器等助成を受け、活動中		

- [注] 1 対象期限: 評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください(年度ごとに代表的なもの2件まで)。
- 4 「II 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「III 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
神戸学院大学	講座名 基礎薬学領域化学系	職名 助教	氏名 村上 遼
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫		2020年9月29日	実習ⅢBの未知化合物の構造決定のZoom配信の際、投影器を用いて実践形式で解析手法およびレポートの書き方を解説している。
2 作成した教科書、教材、参考書		2020年9月29日	演習実習ⅢBの構造解析に用いる機器(NMR, IR, MALDI-ToF-MS, Q-ToF-MS)の原理及び使用方法の動画を教材として配信している。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			なし
4 その他教育活動上特記すべき事項			なし
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) Diastereoselective Tricyclization/Dimerization of Yne-Indoles Catalyzed by a Au(III) Complex Featuring an L2/Z-type Ligand	共著	2021年8月	<i>Tetrahedron Lett.</i> 2021, 78, 153267.
(論文) Construction of 2,2-Dimethyloxepane Frameworks from Ene-Diols Catalyzed by Metal Catalyst or Brønsted Acid via 7-Endo-Trig Cyclization	共著	2021年9月	<i>Chem. Pharm. Bull.</i> 2021, 69, 892-895.
(論文) Copper Complex Featuring Cation-Excess Alternation Counterion Catalyzing Mukaiyama-Aldol Reaction of Ketene Silyl Acetals and Ketones	共著	2022年6月	<i>Tetrahedron Lett.</i> 2022, 100, 153885.
(論文) Photoisomerization of Alkenes via Energy Transfer Enabled by Cu-Acetylide Complexes	共著	2023年11月	<i>Eur. J. Org. Chem.</i> , 2023, e202300948.
(論文) Solidification of aerial CO ₂ -captured aralkylamines in water triggered by self-assembly against affinity for formation of reverse lipid bilayer	共著	2023年12月	<i>Adv. Mater. Interfaces</i> 2023, 2300881.
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
可視光反応性銅触媒によるアルケンの光異性化反応		2023年10月	第52回複素環化学討論会
銅アセチリド錯体によるアルケンの可視光異性化反応		2023年10月	第73回日本薬学会関西支部
光スイング法を可能とするCO ₂ 吸収/放出剤の開発		2023年10月	第67回宇宙科学技術連合講演会
光学活性Z型配位子含有パラジウム触媒による不斉アリル位アルキル化反応		2023年11月	第49回反応と合成の進歩シンポジウム
銅アセチリド錯体を起点とするエンイン化合物の可視光駆動型分子内ラジカル環化反応		2023年11月	第49回反応と合成の進歩シンポジウム
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったものの数件)			
2020年4月～現在	特殊災害課程実習(年1回)		
2019年10月～現在	日本薬学会会員		

[注] 1 対象期限: 評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。

各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。

2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。

- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
神戸学院大学	講座名 薬学教育部門	職名 助教	氏名 山口 孝子
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 演習用問題集の作成およびLMSでの配信、確認テストの実施 成績不振者に対するグループ学習、問題演習の実施 定期的なガイダンス、個別相談・面談の実施 講義用資料の作成、毎回の振り返り確認テスト、フィードバックの実施 計画的な学習のための学習モデルプランの作成と学習計画ノートの利用推奨		2019年～ 2019年～2022年 2023年～	5, 6年次生に対して、国家試験に対応できる知識の定着と弱点強化のための演習や学習方法などについて、全体および個別のアドバイスをを行っている。 共通教育科目では、健康と環境にかかわりについて、文系・理系混在の1年次生向けにわかりやすく例示しながら最新の知見を盛り込んで紹介して、毎回の講義の最後には確認テストを実施、解答に対するフィードバックを行った。 目標達成のための計画的な学習が苦手な学生が多いため、短期・中期・長期的な目標に向けての学習計画と実施をサポートできるように努めている。
2 作成した教科書、教材、参考書 I A実習書(学校薬剤師の仕事)および確認テスト作成 III B衛生系実習書(環境衛生学実習)作成 My衛生薬学 第2版(テコム)(共著)		2019年～2022年 2019年～ 2021年	1年次前期実習で使用するテキストおよび振り返りの確認テストを作成した。 3年次後期実習で使用するテキストを作成した。 第5章 生活環境と健康の室内環境の項目(9ページ)を分担執筆した。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			なし
4 その他教育活動上特記すべき事項 FD講演会およびワークショップへの参加			本学で開催されるFD講演会やワークショップへ参加し、自身の教育への考え方の参考としている。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
受動喫煙の防止に向けてー 神戸学院大学ポートアイランドキャンパスにおける粒径 $2.5\mu\text{m}$ 以下の微小粒子状物質(PM _{2.5})の観測ー	共著	2023年1月	神戸学院大学教育開発ジャーナル(第13号 P75-82)
たばこに関する意識調査ー禁煙支援のあり方を考えるー	共著	2022年10月	禁煙科学(16巻 第5号, P1-8)
チームビルディングによる薬学部初年次学生の孤独感低減効果	共著	2022年3月	神戸学院大学教職教育センタージャーナル(第8号, P71-83)
喫煙・受動喫煙のリスクの認知度や大学敷地内禁煙に関する考えと喫煙習慣の関連性	共著	2021年6月	禁煙科学(15巻3号P1-8)
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
なし			
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
1987年2月～現在	日本薬学会		
2008年4月～現在	日本環境化学会		
2016年1月～現在	日本禁煙科学会		

- [注] 1 対象期限: 評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。
 各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください(年度ごとに代表的なもの2件まで)。

- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

（基礎資料9）専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
神戸学院大学	講座名 医療薬学領域治療系	職名 助手	氏名 加藤 将貴
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫			なし
2 作成した教科書、教材、参考書			なし
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			なし
4 その他教育活動上特記すべき事項			なし
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称		単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦）
Mechanisms Underlying Dopaminergic Regulation of Nicotine-Induced Kinetic Tremor		共著	2022年6月
Increased seizure sensitivity, emotional defects and cognitive impairment in PHD finger protein 24 (Phf24)-null rats		共著	2019年9月
Mechanism Underlying Organophosphate Paraoxon-Induced Kinetic Tremor		共著	2019年4月
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
抗てんかん薬の反復的投与によるけいれん発作の予防効果と神経興奮性に及ぼす影響		2023年6月	第143回 日本薬理学会近畿部会
III 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）			
2019年1月～		日本神経科学学会	
2019年5月～		日本神経精神薬理学会	
2023年4月～		日本緩和医療薬学会	

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「II 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「III 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
神戸学院大学	講座名 医療薬学領域薬剤系	職名 助手	氏名 瀬井 崇宜
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 日常生活での例を挙げた説明		2022年8月-現在	3年次前期の実習ⅢA、後期の実習ⅢBで実習の内容が理解できていない学生に対してもわかりやすく、日常的に使う可能性のある医薬品を例に挙げながらその内容を説明した。
2 作成した教科書、教材、参考書			なし
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			なし
4 その他教育活動上特記すべき事項 大学院生および博士取得者のためのキャリアデザインワークショップ		2023年11月	薬学会が主宰した大学院生および博士取得者のためのキャリアデザインワークショップに参加し、薬学系大学院生が抱える悩みや不安、描いているキャリアプランなどについて共有した。
大学-医療連携講演会		2023年6月, 12月	本学が主宰で開催している大学-医療連携講演会の運営に尽力した。ハイブリット形式で開催することで兵庫県病院薬剤師会の薬剤師も多数参加しており、卒後研修の面からも重要な講演会となっている。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称		単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)
5-Oxoproline Enhances 4-Hydroxytamoxifen-induced Cytotoxicity by Increasing Oxidative Stress in MCF-7 Breast Cancer Cells.		共著	2023年3月
発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称		Anticancer research 43(3) 1113-1120	
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
シスプラチン耐性細胞においてPXRアンタゴニストが排出系トランスポーターの発現量に与える効果		2024年3月	日本薬学会第144年会(横浜)
酸性微小環境の形成に関与するトランスポーターに対する阻害剤が免疫チェックポイント分子の発現に与える影響		2024年3月	日本薬学会第144年会(横浜)
BCG-CWS 製剤を用いたがんワクチン療法における抗原の事前処理の影響		2023年10月	第73回 日本薬学会関西支部総会・大会(神戸)
グルコース濃度の違いが腫瘍微小環境の形成に関わる分子の発現に与える影響		2023年10月	第73回 日本薬学会関西支部総会・大会(神戸)
高グルコース条件がエトポシドの殺細胞効果に与える影響		2023年5月	日本薬学会 第38年会(名古屋)
イオントフォーシス単独によるインスリンアナログの経皮吸収		2023年5月	日本薬学会 第38年会(名古屋)
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2016年4月 - 現在	日本薬学会 会員		
2017年10月 - 現在	日本薬学会 会員		
2021年6月 - 現在	International Association of Therapeutic Drug Monitoring and Clinical Toxicology member		
2021年6月 - 現在	American Society for Clinical Pharmacology and Therapeutics member		
2023年5月 - 現在	日本TDM学会 会員		
2023年5月 - 現在	日本薬学会第39年会 組織委員(事務局)		

- [注] 1 対象期限: 評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください(年度ごとに代表的なもの2件まで)。
- 4 「II 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「III 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
神戸学院大学	講座名 医療薬学領域薬剤系	職名 助手	氏名 二木 梓
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫			なし
2 作成した教科書、教材、参考書			なし
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			なし
4 その他教育活動上特記すべき事項			なし
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
Comparison of cisplatin-induced nephrotoxicity between single-dose and split-dose administration to rats	共著	2022年3月	Biomedicine and Pharmacotherapy 147 112619-112619
Effects of Probenecid on Hepatic and Renal Disposition of Hexadecanedioate, an Endogenous Substrate of Organic Anion Transporting Polypeptide 1B in Rats	共著	2021年5月	Journal of Pharmaceutical Sciences 110(5) 2274-2284
Static Model-Based Assessment of OATP1B1-Mediated Drug Interactions with Preincubation-Dependent Inhibitors Based on Inactivation and Recovery Kinetics	共著	2020年9月	Drug Metabolism and Disposition 48(9) 750-758
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
なし			
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2014年～	日本薬学会		
2015年～	日本薬物動態学会		
2019年～	日本薬剤学会		

- [注] 1 対象期限: 評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください(年度ごとに代表的なもの2件まで)。
- 4 「II 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「III 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料10) 学生の健康管理

表1. 評価対象年度の定期健康診断受診率

学年	在学者数	受診者数	受診率 (%)
1 年	258	249	96.5
2 年	266	249	93.6
3 年	235	206	87.7
4 年	209	193	92.3
5 年	215	215	100
6 年	279	260	93.2

表2. 評価対象年度の5年生の実務実習前の抗体検査の実施状況

検査対象抗体	抗体価が十分高かった 学生数	抗体価が不十分なためワクチン接種をした学生数 ¹⁾
風疹	110	
麻疹	58	
水痘	195	
ムンプス	98	
B型肝炎 ※1	0	0

[注] 1) 4年次12月末までにワクチン接種した学生数(確認できた人数)を記入してください。
確認できない場合は、左欄のみ記入してください。

※1 B型肝炎は実習施設からの指示により実施

(基礎資料11-1) 薬学科の教育に使用する施設の状況

施設 ¹⁾		座席数	室数	収容人員合計	備 考
講義室・演習室 ²⁾	B104	296	1	296	
	B201～203	320	3	960	
	B303	25	1	25	
	B303～B336	24	34	816	可動式
	D301	300	1	300	
	S12K, S12L, S13A, S13B	42	4	168	ポートアイランド第2キャンパス
	部門ゼミ室	60	4	240	可動式、隔壁分離で8室となる
	LSCカンファレンスルーム	84	1	84	可動式
	情報処理実習室 (A号館、A401～A405)	40～100	5	264	CBTにも使用
	情報処理実習室 (B号館、B315～B319)	15	5	75	
	情報処理実習室 (C号館、C101)	104	1	104	
	情報処理実習室 (D号館、D214, D223, D224, D302～D305, D307～D311, D314)	30～60	13	470	資料3、〈教室-3〉においてD223, D224:ではリスニングルーム、D307～D311は講義室と記載されているが、ノートPC設置教室により情報処理実習室として利用 D223, D224, D307～D311は可動式
実習室	実習室	96	6	384	1年次生、化学系、物理系、生物系、衛生系で使用
	臨床薬学教育部門（事前学習）実習室	30	10	300	事前実習で使用
自習室等 ³⁾	自習室 (B号館, D号館)	116	2	232	
	情報処理自習室A、B	60, 70	2	130	
	国試対策自習室	25	2	50	可動式
	国試対策PC自習室	25	2	50	可動式
	ラウンジ（開放スペース）	32～40	7	185	可動式
薬用植物園	※以下の概要を任意の様式で記載してください。 ① 設置場所 有瀬キャンパス ② 施設の構成と規模 総面積は5,705㎡、内園場が1,176㎡（温室：42.3㎡を含む） ③ 栽培している植物種の数 約600種 ④ その他の特記事項 園長は薬学部教員が担っており、日常の運営は嘱託職員1名が担当している。				

- [注] 1) 総合大学では薬学部で教育で使用している講義室、演習室、実習室などを対象にしてください。
- 2) 講義室・演習室には収容人数による適当な区分を、例示を参考に設けて、同じ区分での座席数の範囲を示してください。
また、固定席か可変席か、その他特記すべき施設なども、例示を参考にして備考欄に記入してください。
コンピューター演習室の座席数は学生が使用する端末数としてください（教卓にあるものを除く）。
- 3) 学生が自習などの目的で自由に利用できる開放スペースがあれば記載してください。

(基礎資料11-2) 卒業研究などに使用する施設

表 1. 講座・研究室の施設

施設名 ^{1), 2)}	面積 ³⁾	収容人員 ⁴⁾	室数	備 考
教員個室 (教授室など)	19m ²	1人	41	個室は講師以上
助教助手室	53m ²	6~10人	5	助教・任期付教員・実験助手・実習助手が在室
実験室・研究室 (大)	103m ²	18人	18	
実験室・研究室 (小)	35m ²	6人	54	
部門ゼミ室	111m ²	60人	4	
薬学教育部門室	66m ²	20人	3	
初年次支援室 (大)	107m ²	30人	1	
初年次支援室 (小)	66m ²	20人	1	
臨床薬学教育研究部門室	66m ²	20人	1	
共通実験室	101m ²	18人	1	C号館3階MP379

- 1) 施設名は例示です。これらに対応する貴学の施設名でご作成ください。
 2) 同じ施設に面積が大きく異なるものがある場合は、施設名を「〇〇室 (大)」、「〇〇室 (小)」のように分けてください。
 また、複数の講座・研究室で共用する施設には、備考欄にその旨を記載してください。
 3) 同じ区分とする部屋の面積に幅がある場合は、平均値を整数で記入してください。
 4) 1室当たりの基準となる収容人数を記入してください。基準人数に幅がある場合は「〇~△人」と記入してください。

表 2. 学部で共用する実験施設

施設の区分 ^{1), 2)}	室数	施設の内容
NMR室	1	NMR2台設置
共通実験室	4	共通実験室 (大) 3室、共通実験室 (小) 1室
中央測定室	5	中央測定室 (大) 4室、中央測定室 (小) 1室
質量分析室	2	
LSC研究室 (実験室)	2	
LSC研究室 (測定室)	1	
実験動物室	1	飼育室 (一般、SPF)、実験室、洗浄室

- 1) 例示のように、大まかな用途による区分を設け、各区分に含まれる室数と施設の内容を例示のように列記してください。面積などは不要です。
 2) 例示以外の実験施設 (例えば、培養室など) があれば追加してください。

(基礎資料12) 学生閲覧室等の規模

図書室（館）の名称	学生閲覧室 座席数（A）	学生収容 定員数（B） ¹⁾	収容定員に対する 座席数の割合（%） $A/B * 100$	その他の 自習室の名称	その他の 自習室の座席数	その他の 自習室の整備状況 ²⁾	備 考 ³⁾
ポートアイランド キャンパス図書館 (KPC1)	519	6,321	8.2	対面朗読室 点字拡大読書室	2 1	情報処理端末1 情報処理端末1	学部：法（1,808）、経営 （1,368）、現代社会（880）、グ ローバルコミュニケーション （720）、薬（1,500） 大学院：法（33）、薬（12）
有瀬図書館	887	4,625	19.2	共同閲覧室 個室閲覧室（2室） グループ閲覧室 対面朗読室	20 5 6 2	無線LAN（Wi-Fi） 情報処理端末2（各室 1） LANコンセント1 LANコンセント1	学部：経済（1,368）、人文 （1,208）、心理（600）、総合リ ハビリテーション（580）、栄養 （640） 大学院：経済（18）、人文 （32）、心理（42）、総合リハビ リテーション（19）、栄養 （12）、食品薬品総合科学（6）
計	1,406	10,946	12.8		36		

1) 「学生収容定員数（B）」欄には、当該施設を利用している全ての学部・大学院学生等を合計した学生収容定員数を記入してください。

2) 「その他の自習室の整備状況」欄には、情報処理端末をいくつ設置しているか等を記入してください。

3) 「備考」欄には、「学生収容定員（B）」の内訳を、学部・大学院等ごとに記入してください。

4) 例示の中央図書館は、薬学部の利用がなければ（キャンパスが異なるなど）、右の欄を空欄にしてください。

(基礎資料13) 図書、資料の所蔵数および受け入れ状況

図書館の名称	図書の冊数		定期刊行物の種類		視聴覚資料の 所蔵数 (点数) ²⁾	電子ジャー ナルのタイ トル数 ³⁾	過去3年間の図書受け入れ状況			備 考
	図書の全冊数	開架図書の 冊数(内) ¹⁾	内国書	外国書			2020年度	2021年度	2022年度	
ポートアイランド キャンパス図書館 (KPC1)	301,861	301,861	568	200	4,540	0	7,013	7,994	5,950	定期刊行物：2023年5月 10日時点で、受入継続中 の種類
有瀬図書館	950,380	950,380	1,315	149	32,128	2,602	8,845	9,168	7,376	電子ジャーナルは有瀬図 書館で集中管理している
計	1,252,241	1,252,241	1,883	349	36,668	2,602	15,858	17,162	13,326	

[注] 雑誌等ですでに製本済みのものは図書の冊数に加えても結構です。

- 1) 開架図書の冊数(内)は、図書の全冊数のうち何冊かを記入してください。
- 2) 視聴覚資料には、マイクロフィルム、マイクロフィッシュ、カセットテープ、ビデオテープ、CD・LD・DVD、スライド、映画フィルム、CD-ROM等を含め、所蔵数については、タイトル数を記入してください。
- 3) 電子ジャーナルが中央図書館で集中管理されている場合は、中央図書館にのみ数値を記入し、備考欄にその旨を注記してください。